

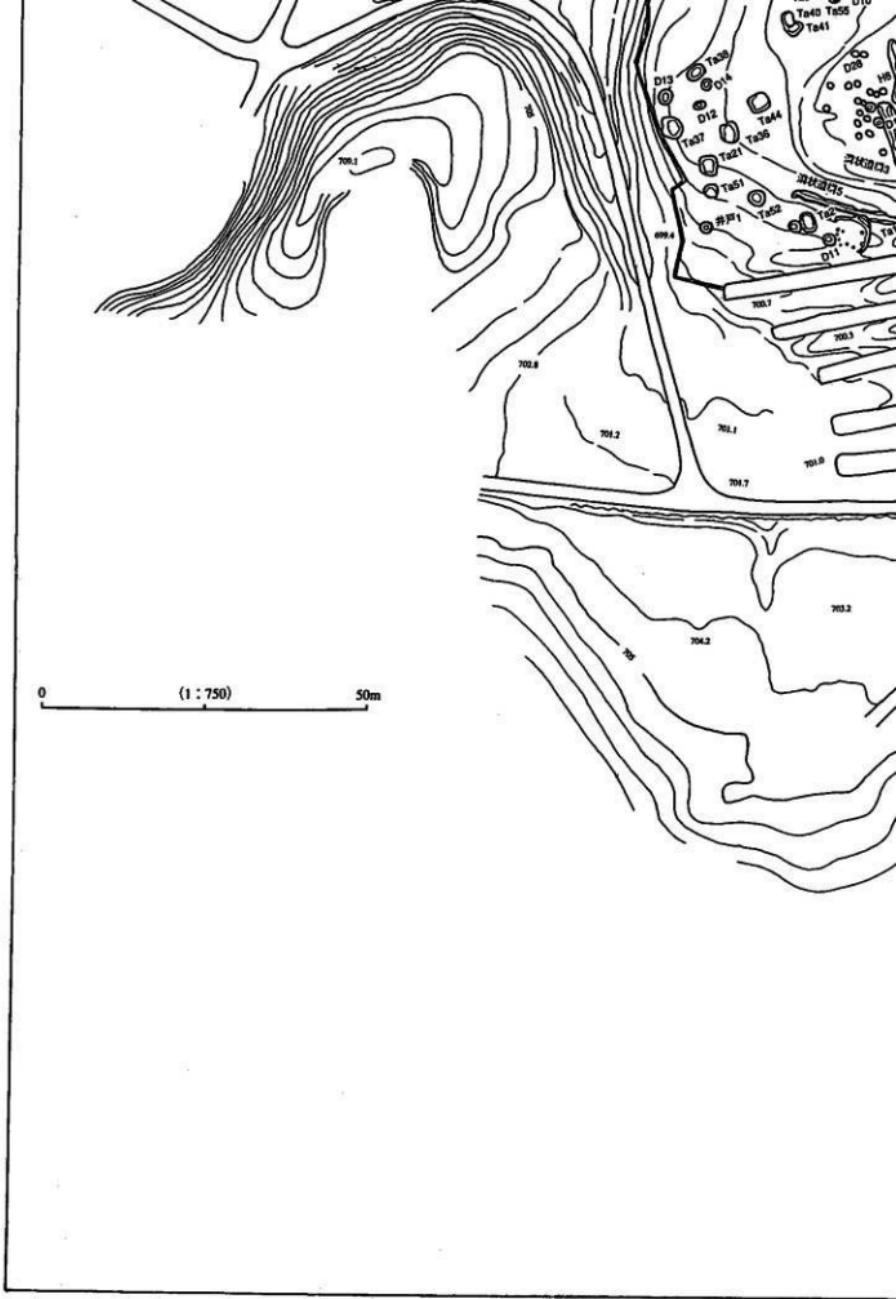
佐久市埋蔵文化財調査報告書第48集

池端城跡

長野県佐久市新子田池端城跡発掘調査報告書

1996.11

有限会社新栄開発
佐久市教育委員会



佐久市埋蔵文化財調査報告書第48集

池端城跡

長野県佐久市新子田池端城跡発掘調査報告書

1996.11

有限会社新栄開発
佐久市教育委員会

池端城跡の調査について

今回調査を行った池端城跡からは、縄文時代、古墳時代前期、平安時代の住居址が発見され、更に、中世の人々が暮した様子なども遺物などから解りました。また、佐久平では古墳時代前期（約1700年前）の住居址は、あまりみつかっていませんが、この遺跡からは2軒が発見され、発掘調査の上で貴重な資料が得られました。

そして、ここの場所は昔から「池端城跡」と言い伝えられており、本当に「城跡」であったのか注目された遺跡でした。しかし、発掘調査の結果城とは少し違う中世の屋敷（武家）に関連した一般集落の跡である可能性が浮び上りました。だが、この中世の集落址についての発掘例はまだ少なく、はっきりとした実態は解っておりません。今後、この遺跡や、他でみつかっている竪穴建物址の性格・用途が明らかになることによって、さらに池端「城跡」といわれている姿が具体的に解明されることでしょう。



H 2 号住居址出土土器（古墳時代前期、右端の壺は混入遺物）



池端城跡航空写真（株式会社協同測量社撮影）



池端城跡航空写真（株式会社協同測量社撮影）

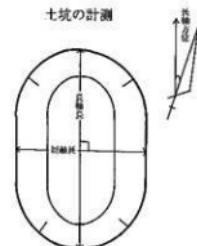
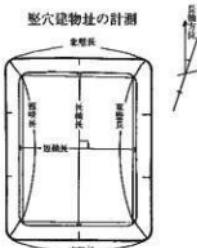
例　　言

- 1 本書は、平成7年度有限会社新栄開発が行う農地整理に伴う、佐久市大字新子田字池ノ端に所在する池端城跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査委託者 有限会社新栄開発
- 3 調査受託者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地名「池端城跡」佐久市大字新子田字池ノ端 108外
- 5 調査期間・面積 発掘調査 平成7年4月～10月
整理期間 平成7年12月～平成8年11月
調査面積 7,048m²
- 6 調査にあたっては、発掘調査を上原 学、整理作業を佐々木宗昭がそれぞれ担当した。
- 7 本書の編集・執筆は佐々木宗昭が行った。
- 8 『第Ⅱ章 遺跡の立地と環境 第1節佐久市安原付近の自然環境』は、佐久市教育委員会埋蔵文化財調査報告書第43集「椎現平遺跡・池端遺跡」から転載した。(本報告書における調査地と椎現平遺跡・池端遺跡は同一地点に所在する。)
- 9 陶器・磁器類の鑑定は原 明芳氏のご助言を頂いた。
土器様相に関しては、小林真寿、富沢一明各氏の助言を受けた。
石器類の石材鑑定は羽毛田卓也氏の助言を受けた。
- 10 本書及び池端城跡出土遺物等のすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

本調査において、有限会社新栄開発様をはじめ、地元の方々には発掘調査中数々のご協力及びご援助を頂きました。また、報告書作成にあたっても多くの方々よりご指導・ご助言を頂きました。記して感謝の意を表します。

凡 例

- 1 造構の名称については次の略号で表示した。
H→堅穴住居址 T a→堅穴建物址 D→土坑 M→溝址
- 2 造構のナンバーは、努めて時代順としたが、完全ではない。
- 3 掘図の縮尺
堅穴住居址 = 1 : 80 カマド = 1 : 30 堅穴建物址 = 1 : 60 土坑 = 1 : 60
井戸址 = 1 : 30 以上が基本的なものであるが、これ以外の造構や遺物も含めて掘図中にその縮尺を示した。
- 4 図版の縮尺
造構写真の縮尺は不統一。遺物写真は土器が 1 : 4、他は挿図縮尺と同一である。
- 5 造構計測値算出の基準
堅穴建物址
規模を長軸長と短軸長で表示し、東・西・南・北の各壁長は形態の数量計測値として記載した。面積は底下端ににより閉まれた空間をプランメーターを用いて 3 回計測しその平均値を掲示した。
壁の残存高は、確認面から床面までの最小値～最大値をあらわした。
- 土 坑
プランの中心点付近を通る最長軸を長軸とし、その直角二等分線のプラン上端の交点間を短軸として掲示した。
深さは確認面からの最深部をあらわすことを基本とする。
- 6 出土土器一覧表で、一は計測不能、() は推定値、< >は現存値を表わす。単位は長さcm、重量gである。
- 7 土層・遺物胎土の色調については『新版標準土色帖』の表示に基づいて示した。
- 8 掘図中におけるスクリーントーンは以下のものを示す。



本文目次

例言

凡例

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	
第1節 発掘調査の経緯と経過	1
第2節 調査の概要	2
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	
第1節 佐久市安原付近の自然環境	7
第Ⅲ章 基本層序	11
第Ⅳ章 造構と遺物	
第1節 壊穴住居址	
1) H 1号住居址	13
4) H 4号住居址	21
2) H 2号住居址	15
5) H 5号住居址	24
3) H 3号住居址	20
6) H 6号住居址	26
第2節 壊穴建物址	27
1) 号壊穴建物址	28
4) 号壊穴建物址	30
7) 号壊穴建物址	32
10) 号壊穴建物址	33
13) 号壊穴建物址	35
16) 号壊穴建物址	36
19) 号壊穴建物址	38
22) 号壊穴建物址	39
25) 号壊穴建物址	41
28) 号壊穴建物址	44
31) 号壊穴建物址	45
34) 号壊穴建物址	47
37) 号壊穴建物址	49
40) 号壊穴建物址	50
43) 号壊穴建物址	52
46) 号壊穴建物址	53
49) 号壊穴建物址	55
52) 号壊穴建物址	56
55) 号壊穴建物址	58
2) 号壊穴建物址	29
5) 号壊穴建物址	31
8) 号壊穴建物址	32
11) 号壊穴建物址	34
14) 号壊穴建物址	35
17) 号壊穴建物址	37
20) 号壊穴建物址	38
23) 号壊穴建物址	40
26) 号壊穴建物址	42
29) 号壊穴建物址	44
32) 号壊穴建物址	46
35) 号壊穴建物址	48
38) 号壊穴建物址	49
41) 号壊穴建物址	51
44) 号壊穴建物址	52
47) 号壊穴建物址	54
50) 号壊穴建物址	55
53) 号壊穴建物址	57
56) 号壊穴建物址	58
3) 号壊穴建物址	30
6) 号壊穴建物址	31
9) 号壊穴建物址	33
12) 号壊穴建物址	34
15) 号壊穴建物址	36
18) 号壊穴建物址	37
21) 号壊穴建物址	39
24) 号壊穴建物址	41
27) 号壊穴建物址	43
30) 号壊穴建物址	45
33) 号壊穴建物址	46
36) 号壊穴建物址	48
39) 号壊穴建物址	50
42) 号壊穴建物址	51
45) 号壊穴建物址	53
48) 号壊穴建物址	54
51) 号壊穴建物址	56
54) 号壊穴建物址	57

第3節 土坑	
1) 繩文時代の土坑 第1号土坑～第3号土坑	61
2) 平安時代の土坑 第4号土坑～第5号土坑	64
3) 中世土坑	64
第6号土坑	65
第7号土坑	65
第8号土坑	65
第9号土坑	66
第10号土坑	66
第11号土坑	66
第12号土坑	66
第13号土坑	67
第14号土坑	67
第15号土坑	67
第16号土坑	67
第17号土坑	68
第18号土坑	68
第19号土坑	68
第20号土坑	68
第21号土坑	68
第22号土坑	69
第23号土坑	69
第24号土坑	69
第25号土坑	69
第26号土坑	70
第27号土坑	70
第28号土坑	71
第4節 井戸址	
第1号井戸址	72
第5節 溝状遺構	
第1号溝状遺構	73
第2号溝状遺構	73
第3号溝状遺構	73
第4号溝状遺構	73
第5号溝状遺構	73
第6節 清址	
M1号清址	79
第7節 ピット群	
	82
第8節 グリッド・表探遺物	
	86

第V章 調査のまとめ

第1節 調査結果からみた池端城跡	97
第2節 古墳時代前期の出土土器	100

写 真 図 版 目 次

〈出土遺構〉

図版一	1. H1号住居址	4. H4号住居址カマド掘り方	
	2. H1号住居址掘り方	5. 池端城跡発掘調査風景	
図版二	1. H2号住居址	図版三	1. H5号住居址
	2. H4号住居址		2. H5号住居址カマド
	3. H4号住居址カマド		3. H5号住居址カマド掘り方

- | | | | |
|------|---|------|---|
| 図版四 | 1. H 6号住居址
2. 池端城跡発掘調査風景 | 図版二三 | 1. Ta 52号竪穴建物址
2. Ta 54号竪穴建物址 |
| 図版五 | 1. Ta 1号竪穴建物址
2. Ta 2号竪穴建物址 | 図版三四 | 1. Ta 55号竪穴建物址
2. Ta 8号・10号竪穴建物址付近近景 |
| 図版六 | 1. Ta 6号竪穴建物址
2. Ta 7号竪穴建物址 | 図版二五 | 1. D 1号土坑
2. D 2号土坑遺物出土状況 |
| 図版七 | 1. Ta 8号竪穴建物址
2. Ta 9号竪穴建物址 | 図版二六 | 1. D 2号土坑
2. D 2号土坑遺物出土状況 |
| 図版八 | 1. Ta 10号竪穴建物址
2. Ta 12号竪穴建物址 | 図版二七 | 1. D 4号土坑
2. D 5号土坑 |
| 図版九 | 1. Ta 13号竪穴建物址
2. Ta 14号竪穴建物址 | 図版二八 | 1. D 7号土坑
2. D 10号土坑 |
| 図版十 | 1. Ta 15号竪穴建物址
2. Ta 17号竪穴建物址 | 図版二九 | 1. D 11号土坑
2. D 13号土坑 |
| 図版十一 | 1. Ta 18号竪穴建物址
2. Ta 19号竪穴建物址 | 図版三十 | 1. D 19号土坑
2. D 20号土坑 |
| 図版十二 | 1. Ta 21号竪穴建物址
2. Ta 21号竪穴建物址出土錢貨
3. 池端城跡発掘調査風景
4. Ta 23号竪穴建物址 | 図版三一 | 1. D 24号土坑
2. D 24号土坑遺物出土状況 |
| 図版十三 | 1. Ta 25号竪穴建物址
2. Ta 26号竪穴建物址 | 図版三二 | 1. D 26号土坑
2. D 26号土坑 |
| 図版十四 | 1. Ta 27号竪穴建物址
2. Ta 28号竪穴建物址 | 図版三三 | 1. D 26号土坑掘り方
2. 池端城跡調査風景 |
| 図版十五 | 1. Ta 30号竪穴建物址
2. Ta 31号竪穴建物址 | 図版三四 | 1. D 27号土坑
2. D 27号土坑掘り方 |
| 図版十六 | 1. Ta 32号竪穴建物址
2. Ta 33号竪穴建物址 | 図版三五 | 1. D 28号土坑
2. D 28号土坑掘り方 |
| 図版十七 | 1. Ta 36号竪穴建物址
2. Ta 37号竪穴建物址 | 図版三六 | 1. 1号井戸址
2. 1号井戸址掘り方 |
| 図版十八 | 1. Ta 38号竪穴建物址
2. Ta 40号竪穴建物址 | 図版三七 | 1. P48号ピット遺物出土状況
2. P85号ピット |
| 図版十九 | 1. Ta 42号竪穴建物址
2. Ta 43号竪穴建物址 | 図版三八 | 1. 第1号溝状遺構 |
| 図版二十 | 1. Ta 44号竪穴建物址
2. Ta 45号竪穴建物址 | 図版三九 | 1. 第2号溝状遺構
2. 池端城跡発掘調査風景 |
| 図版二一 | 1. Ta 46号竪穴建物址
2. Ta 48号竪穴建物址 | 図版四十 | 1. 第3号溝状遺構
2. Ta 44号竪穴建物址付近近景 |
| 図版二二 | 1. Ta 49号竪穴建物址
2. Ta 51号竪穴建物址 | 図版四一 | 1. M 1号溝址
2. M1号・M2号C区付近近景 |

〈出土遺物〉

図版四二	1～6	H 1
	7～9	H 2
図版四三	1～10	H 2
図版四五	1	H 3
	2～8	H 4
図版四五	1～2	H 6
	3	Ta 7
	4～5	Ta 8
	6	Ta 11
	7	Ta 26
	8	Ta 28
	9	Ta 47
図版四六	1～3	D 1
	4～8	D 2
図版四七	1～2	D 2
	3～4	D 5
	5～6	D 21
	7～10	D 22
図版四八	1～3	第1号溝状遺構
	4～6	M 1
	7	P 13
	8	P 14
	9	P 48
	10	F 区表探
	11	D一か5グリッド
図版四九	1	E一き1グリッド
	2、4、5	F 区表探
	3	D一か5グリッド
	6、9	D一く4グリッド
	7	D一く5グリッド
	8	E一え4グリッド
	10	表探
図版五十	1	B一か9グリッド
	2～4	B一け6グリッド
	5	Ta 7
	6	Ta 23
	7	D 27
	8	E一こ5グリッド

図版五一	9	Ta 27
	1、3～6	Ta 7
	2	Ta 18
図版五二	1	第2号溝状遺構
	2	P 27
	3	第5号溝状遺構
	4	B一こ8グリッド
	5	D一く5グリッド
	6	E一こ7グリッド
	7	E一う7グリッド
	8	M 1
	9	D 24
	10	M 1・第5号溝状遺構・グリッド
	11	Ta 42・第5号溝状遺構・グリッド
図版五三	1	Ta 21
	2、3、5	M 1
	4	C一う6グリッド
	6～7	第5号溝状遺構
	8	B一あ6グリッド
	9	B一こ8グリッド
	10	E一う3グリッド
	11	M 1号溝址
	12	E一え1グリッド
	13	表探
図版五四	1、3、4、10	H 2
	2	F一あ4グリッド
	5	Ta 7
	6	第5号溝状遺構
	7	Ta 8
	8	P 58
	9、11	B一こ8グリッド
	12	C一う6グリッド
図版五五	1	H 1・M 1出土石礫
	2	D 1
	3	D 3
	4	D 21
	5	D 27
	6	M 1
	7	B一う8グリッド
	8	E一け1グリッド

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査の経緯と経過

池端城跡は、佐久市の北京部安原地籍に所在し、標高700m内外を測る台地上に位置する。本址の周辺地形は、南・北・東の三方を山に囲まれ、西側約80m前方に霞川が流れている。ここから西方に向かって比較的平坦な地形が展開しており、この平地のいくつかは浅間山麓の火山堆積物により形成された田切り地形をなしている。

本址は、平成6年度に調査が行なわれた「椎現平遺跡・池端遺跡」と接する地点に存在する(付図)。また近接する遺跡は西方に宿上屋敷遺跡、池畑遺跡、北方に下川原・光明寺遺跡などが散在する。尚、近くには安養寺、英多神社などが所在している。

今回、有限会社新栄開発が実施する農地整理の計画地籍は、前述した椎現平遺跡・池端遺跡(セキスイハイム信州株式会社より受託)に隣接する地点であり、遺構が包蔵されている可能性



第1図 池端城跡位置図 (1 : 50,000 国土地理院地形図による)

が大きかった。このため試掘調査を行ったところ遺構の存在が確認され、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、記録保存をする必要性が生じた。そこで、有限会社新栄開発より佐久市教育委員会埋蔵文化財課が委託を受け発掘調査をする運びとなった。

第2節 調査の概要

調査組織 佐久市教育委員会埋蔵文化財課

教 育 長 大井 季夫

教 育 次 長 市川 源

埋蔵文化財課長 戸塚 満

管 理 係 長 谷津 恭子

管 理 係 田村 和広

埋蔵文化財係長 大塚 達夫

埋蔵文化財係 林 幸彦 三石 宗一 須藤 隆司 小林 真寿

羽毛田 卓也 富沢 一明 上原 学

調査担当者 上原 学

調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子

調査副主任 堀 益子

調査員 荒井 ふみ子 岩下 吉代 市川 チイ子 岩下 とも子

岩下 文子 大井 みつる 菊地 喜重 工藤 しづ子

横沢 三之助 高地 正雄 小林 まさ子 小林 百合子

小山 澄江 清水 佐知子 高橋 サチコ 高橋 敬子

武田 千里 高橋 ふみ 武田 まつ子 花里 四之助

花里 三佐子 比田井 久美子 堀籠 因 堀込 成子

橋詰 けさよ 橋詰 信子 細谷 秀子 依田 みち

武者 幸彦

報告書作成担当 遺物実測 渡辺 久美子 碓水 健

遺物復元 金森 治代 橋詰 けさよ

図面修正 渡辺 久美子 碓水 健

トレース 渡辺 久美子 碓水 健 上原 学 武者 幸彦

遺物写真 佐々木 宗昭

図版作成 渡辺 久美子 碓水 健

尚、縄文時代の遺物については実測、拓本始め各作業を小林真寿が担当した。

発掘区と遺構の検出

本調査の発掘区については第2図に示したとおりで、國の約 7048m²が該当する。この発掘区については、古来より「池端城跡」として伝承されてきた地名であり、土師質内耳土器、土師質土器などの破片が採集されている。また平成6年度に発掘調査が行なわれた権現平遺跡・池端遺跡の南側に継続する台地状の地点である（付図）。

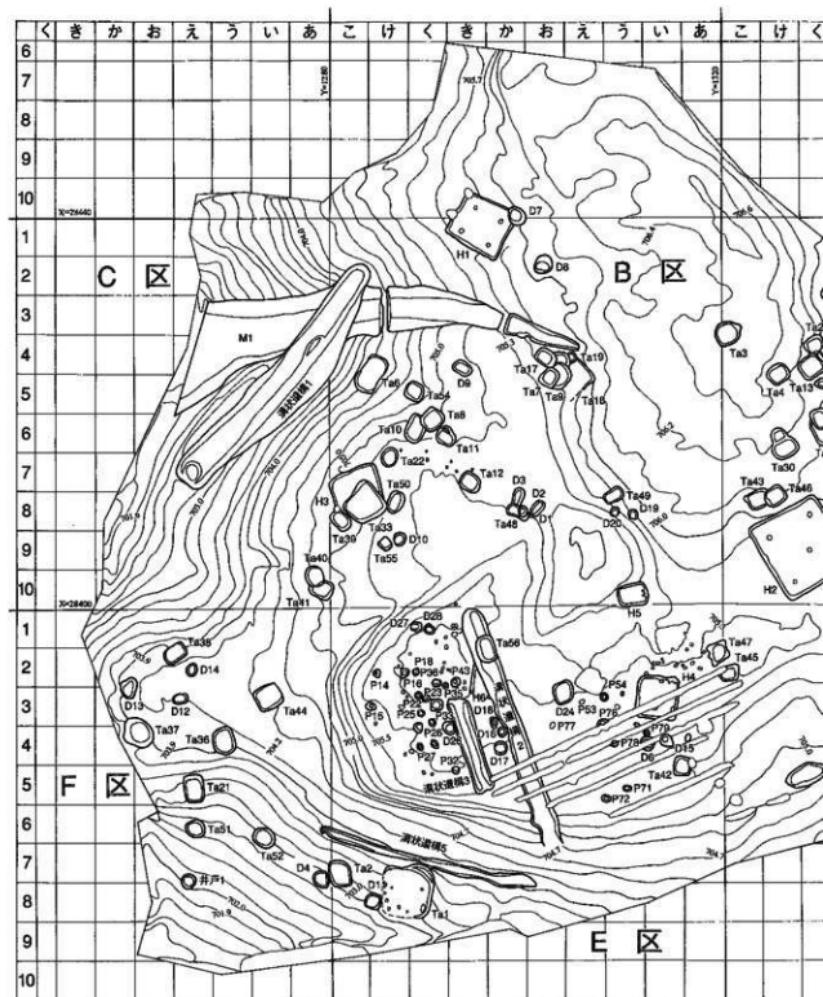
調査は、調査対象区についてまず自然地形と遺跡の範囲をみきわめるため、重機により東西・南北に試掘トレンチを入れてみた。その結果おおよその自然地形と遺跡の範囲をとらえることができ、更に平成6年度に調査が行なわれた「権現平遺跡・池端遺跡」で検出された竪穴建物址、住居址などの遺構が本調査区内からも確認された。このため遺跡全部分の表土を重機によって除去し平成7年4月～6月まで発掘調査を行った。

本調査区から検出された遺構は、竪穴建物址56棟（中世時代）、住居址6棟（縄文時代1棟、古墳時代2棟、奈良・平安時代3棟）、土坑28基（縄文時代3基、奈良・平安時代2基、中世時代23基）、井戸1基（中世時代）、溝状遺構5条（中世時代）、ピット群（中世時代）などが検出された。





第2図 池端城跡発掘区設定図 (1:5000)



第3図 池端城跡全体図 (1 : 500)

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 佐久市安原付近の自然環境

地形

上信国境に聳むる浅間山は標高2560m、わが国の代表的な活火山で當時火山活動状況を観測する施設を有する数少ないA級火山に分類されている。浅間火山は溶岩流・火山弾・火山砂・浮石・火山灰などの火山噴出物が互層する成層火山で、現在の最高地点噴火口は黒蓋火山・前掛火山の上部中心に形成されたもので、これらを含めて浅間山全体は模式的な三重式成層火山である。この浅間山は古くから親しまれ、恐れられ佐久地域には特に自然・歴史人類生活の上に偉大な影響を及ぼしてきたが、現在では、火山・地震等の地球物理学上から、日本だけなく、世界的にも広く知られてきている。その理由は次の三点に要約できる。

- 1 活火山浅間山は地形・地質構造・火山活動・火山形態（成層・楯状・溶岩円頂丘等）など各面から各種の火山としての条件を兼備しており、火山の模型的存在で、火山研究には最も適しており興味深いものがある。
- 2 古代からの火山活動の古記録が残されており、火山活動の歴史的研究では世界的に珍しいとされている。ことに天明3年（1783）発生の大噴火について、絵図・公式古文書・日記・書信などこの地方にも多くの記録が残っている。
- 3 火山活動の地球物理学的研究が、日本では勿論、世界的にも最も早くから行われ、その成果が日本の火山学・地震学を進歩させた原動力となっており、世界的にも高く評価されている。

当遺跡はこの浅間山の南斜面山麓が佐久平の平坦面に交わってゆるやかな南斜面の続く標高700m～710m付近の湯川の東沿岸の台地上に立地している。湯川は輕井沢町千ヶ瀬に源を発し、南流して、同町油井地籍で南軽井沢から西流して来る泥川と合流して流路を西に変え、御代田町に入るまで北の浅間山麓・南の森泉山方向の両側の小支流を合わせて水量を増し、深い浸蝕峡谷を作りて流路を西北に変え、湯川ダムの多目的大貯水を作り、佐久市横根地籍北方で再び流路を南に変えて佐久市内に入る。横根付近から河幅も広めとなり、両岸に浸蝕河岸段丘を作り、谷

中に小冲積地を作り、最も古い開拓水田がここに存在する。当遺跡はこの湯川東方1.7kmの台地上に位置する。

湯川西岸の佐久平地方（岩村田台地）には火山山麓特有な田切り地形が見事に発達している。これは新しい火山であり、浅間山の火山噴出物・火山砂・火山灰・浮石の堆積層が未分解で粘土化せず凝結力が乏しいため流水・洪水等の浸蝕に対する抵抗力が頗る弱く、一度流路になると大きな断面が垂直に近い谷に発達する可能性が高くなり、火山国日本の第四紀の新しい火山の裾野地帯各地にみられる田切り地形と同形となっている。御代田駅から小海線三間駅付近が最も顕著である。湯川東岸地区には田切り地形の著しいものはないが当遺跡の西側の旧平尾道・安原用水・東中学東側凹地・霞川等の凹地が田切り初期の地形である。それらの初期地形間の南北に続く台地が古墳時代以来、古代・中世の住居遺跡の分布地である。

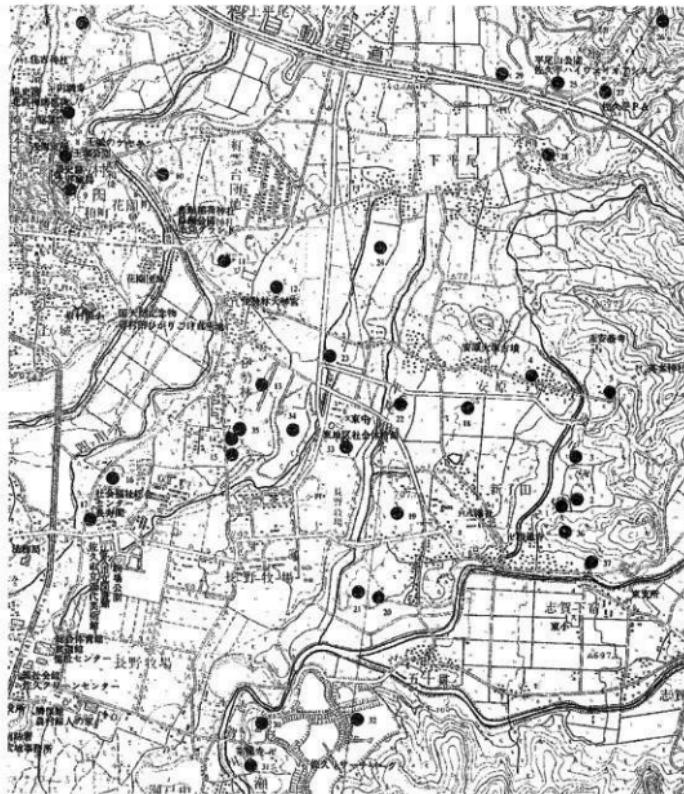
地質

池端城跡周辺の地質構成で、野外で直接観察できる最も古いものは平尾山（1155m）を構成する平尾溶岩である。平尾溶岩は塊状火山（トロイデ火山）として噴出した濃青緑色の緻密な玻璃質複輝石安山岩で、石材としては頗る良材であり、佐久産出の姫小松石と称して珍重され、他の地方にも搬出されている。平尾山は荒船火山より古く、長い間の風化浸蝕をうけて山全体に放射谷が発達し、佐久平の北東隅に屹立して展望も広く、市民に親しまれている。

平尾山の東麓に置い重なっているのが荒船山の噴出物の溶結凝灰岩（佐久石）で、霞川の左岸に所在する安原・新子田附近及び關伽流山の奇岩絶壁の東側一帯に広く分布している。佐久石と称せられているものの中に、特に業者間では安原石が最も良質のものとされ、古くから石造加工品の原材として珍重されている。この溶結凝灰岩（安原石）は荒船火山の活動最盛期に多量の安山岩質灼熱火山灰を長期間噴出し、厚い堆積層を構成し、熱と加重圧によって再溶融固結したもので、荒船火山を中心として志賀谷山峠の奇岩から田口及び青沼まで広く分布している。

堆積岩層としては英多神社南の香坂越尾根南部に小部分相浜層の砂質凝灰岩・凝灰岩の互層が認められ、この中から広葉樹化石を産出したことも有り、洪積世初期の地層が僅かに分布していることが明らかとなっている。

安原・新子田・平根地区の平坦地を構成する地層は浅間火山の噴出物の堆積層で、基盤は黒斑火山の噴出物起源の湖沼性堆積火山性砂岩・凝灰岩・凝灰質礫岩の互層であり、これは湯川の谷底部に一部露出が見られ、黒岩城跡埋蔵文化財発掘調査の際、深掘りトレンチで確認され、その上部には大小の軽石の砾を多量に含んだ厚い火山灰砂の層が重なっている。この層を第一軽石流と呼んでいるが、前掛火山の噴出物で浅間山の南斜面の大部分と佐久平の北半を広く、厚く覆っている。第一軽石流は空中堆積物であるので原地形によって厚さの変化が著しいが、この地層分布内には田切り地形が発達し、田切りの崖面では構成物質の層厚が観察できる。遺跡付近では鼻



第4図 周辺遺跡分布図 (1 : 25,000 國土地理院地形図による)

頬稲荷神社境内の高さ20mに及ぶ断崖が顕著な例である。また軽石流は2回にわたって流出したものであるが、第二回軽石流中に含まれる炭化木幹について、C¹⁴年代測定では10650~11300年前と測定値がでている。(小諸市誌)

この軽石流の上面が今回池端城跡の層序模式図地山第3層含軽石疊黃褐色土層(ローム)である。(白倉盛男)

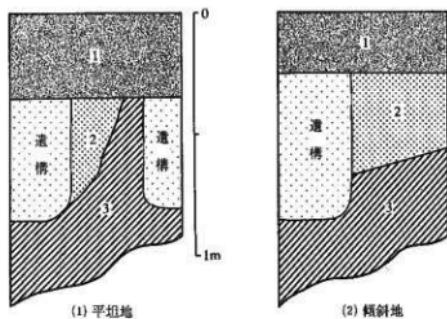
第1表 周辺遺跡一覧表

NO.	佐分No	遺跡名	所在地	立地	時代					備考
					縄	弥	古	秦	漢	
1	551	池 岸 城 路	新子田字池端	台地	○			○	○	本調査
2	265	池 岸 遺 跡	新子田字池端	*	○			○	○	本調査
3	137	椎 現 平 遺 跡	新子田字椎現平	*	○			○	○	本調査
4	133	猪上屋敷遺跡	安原上屋敷	*		○		○	○	昭和 61 年度発掘調査
5	135	下川原・光明寺遺跡	安原字下川原・光明寺	山裾				○	○	同上
6	52-1	六 供 後 遺 跡	岩村田六供後	台地	○			○	○	昭和 55 年度発掘調査
7	51-1	王 城 路	岩村田字古城	段丘	○	○	○	○	○	昭和 54 年度・群発調査
8	51-2	石 並 城 路	岩村田字石並地	*		○	○	○	○	平成 2 年度発掘調査
9	51-3	黑 岩 城 路	岩村田古城	*		○	○	○	○	昭和 55、59 年度・群発調査
10	50	下 小 平 遺 跡	岩村田字下小平	段丘	○	○	○	○	○	昭和 55 年度発掘調査
11	126	蛇 古 墓	安原字蛇塚	台地	○			○	○	昭和 57 年度発掘調査
12	119	蛇塚 A 遺跡群	安原字蛇塚・西大久保	*				○		
13	120	蛇塚 B 遺跡群	新子田字蛇塚・内地・野馬久保	*				○		平成 3 年度発掘調査
14	120-1	蛇塚 B(第 1 次)	新子田字野馬久保	*				○		昭和 54 年度発掘調査
15	120-2	蛇塚 B(第 2 次)	新子田字野馬久保	*				○		昭和 58 年度発掘調査
16	122	野 馬 遺 跡	猿久保字野馬鹿	台地	○	○	○	○		
17	122-1	野 馬 遺 跡	猿久保字野馬鹿	*	○					昭和 56 年度発掘調査
18	141	安原大塚古墳	安原字城前	*		○				
19	263	戸 板 遺 跡	新子田字戸板・戸板口・供養塚	段丘	○	○	○	○	○	
20	275	鳥 扇 城 路	新子田字戸板	*					○	
21	263-1	戸 板 遺 跡	新子田字戸板	*	○			○		昭和 46 年度発掘調査
22	130	池 烟 遺 跡	安原字池筋・池焼・下池 新子田字田畠	台地	○	○	○	○		昭和 60 年度発掘調査
23	128	西 御 堂 遺 跡	安原西御堂	*				○		同上
24	127	戸 服 敷 遺 跡	安原戸服敷	*				○		平成 3 年度発掘調査
25	74	木 松 古 墓	下平尾	山裾	○					平成 4 年度発掘調査
26	65	下伴助 B 遺跡	下平尾字伴助	*	○	○				平成 4 年度発掘調査
27	64	下伴助 A 遺跡	同上	*				○		同上
28	63	万 助 久 保 遺 跡	下平尾字万助久保	*				○		同上
29	60	北 山 寺 遺 跡	下平尾字北山寺	*				○		
30	257	中 条 峰 遺 跡	鶴戸字中条峯・志賀字勝負沢	台地	○					平成 2 年度発掘調査
31	258	中 条 峰 古 墳 群	同上	*						同上
32	256	寄 山 遺 跡	同上	*						平成 2 年度発掘調査
33	129	高 頭 可 遺 跡	新子田	*						昭和 61 年度発掘調査
34	121	東 内 池 遺 跡	安原	*						
35	46	腰 卷 遺 跡	上平尾字腰卷・高内	段丘	○	○	○	○	○	昭和 62 年度発掘調査
36	276-1	氏 神 古 墳 群	山裾							
37	266	境 内 遺 跡	山裾							

第Ⅲ章 基本層序

池端城跡は、浅間火山の堆積物による田切り台地上に位置し、標高700m内外を測る。背後の三方を山に囲まれたこの台地の西側は、比高差約4mを測る田切り低地となっておりその中央を霞川が流れている。

台地上の地形はおおむね平坦ではあるが、調査区の南西、及び西側は比較的急な斜面で形成されており、この斜面の南端部となる付近は湿地状となっている。このため基本土層は、調査区中央部の比較的平坦な箇所、及び、南側斜面の2ヶ所で観察を行った。



第5圖 基本層序模式圖

平坦部の層序は3層に分層でき、1層は耕作土直下に粒子細かく、ローム粒子を少量含む暗褐色土が厚さ約40cm認められる。2層は黒色土の粘性がやや強い土質である。本層は3層のローム地形が凹凸を形成する窪地面に堆積する層で、この上面が遺構検出面の一層をなしている。3層はローム層で浅間第1軽石流（浅間火山の堆積物）から形成され、本層上面においても2層と同じ遺構検出面として看取された。傾斜面の層序は3層に分割され、1層・2層・3層ともに平坦部の層序と大差ない堆積状況を示すことが認められた。しかし、2層の黒色土層は40cm内外を測り平坦部の2層に比べ厚く堆積することが観察された。そして、斜面地での遺構検出面は、Ta 21号・Ta 51号・Ta 52号・井戸址1号を始め2層黒色土層の上面からであることが認められた。



池端城跡航空写真（株式会社協同測量社撮影）

第Ⅳ章 遺構と遺物

第1節 穫穴住居址

1) H1号住居址（第6図～7図、図版一）

本住居址は、調査区の北端部付近—1・2グリッド内に位置し、全体層序3層上面において検出された。北東コーナーはD7号土坑の破壊を受け、北西コーナー及び西壁の一部は搅乱されていた。平面形態及び規模については、全体プランから西壁に比べ東壁が若干長い「ハの字形」の形態をし、東西540cm、南北520cmの方形を呈する。

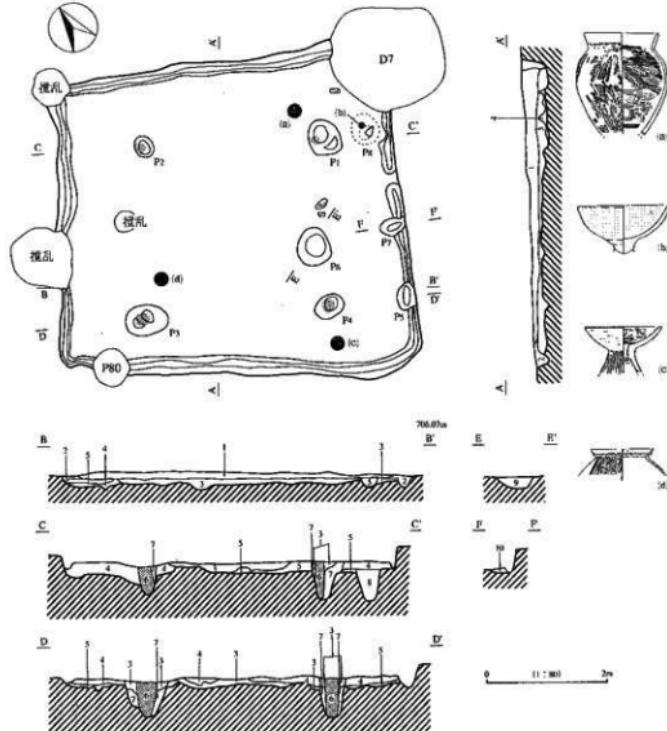
確認面からの壁高は、北壁で28～36cmを測るもの、東、南、西の各壁高は約5～18cmと浅く耕作等による削平の影響を受けていた。壁溝が検出され壁の直下を一周し、南壁の中央部付近で立ち上がる事が認められた。床面からの深さは5～16cm前後で断面形状は「U字形」を呈し、北壁側の壁溝幅は比較的狭く構築されている。

床面は、約10～18cmの厚さで貼り床が施され、褐色土層（第3層）・にぶい黄褐色土層（第4層）・明黄褐色土層（第5層）を埋め戻して構築されている。床面の状態は全体に平坦で堅固である。ピットは8個確認され、その内のP1～P4は主柱穴と考えられる。形態は約30×40cm～50×70cmの大きさで、各ピットとも楕円形を呈している。深度は約40～60cmを有する。なお、P8は北東コーナー付近の床面約16cmの深さから確認され、深さ48cmを測る。また、覆土中からは赤色塗彩された小型高杯が検出されている。（第7図・4）

出土した遺物で図化し得たものは7点ある。このうち本址に伴うものは4点あり第7図1～4に示した壺・S字状口縁台付壺・小型器台・小型高杯である。また、混入遺物として5・6の網文土器片、7の石礫の3点がある。

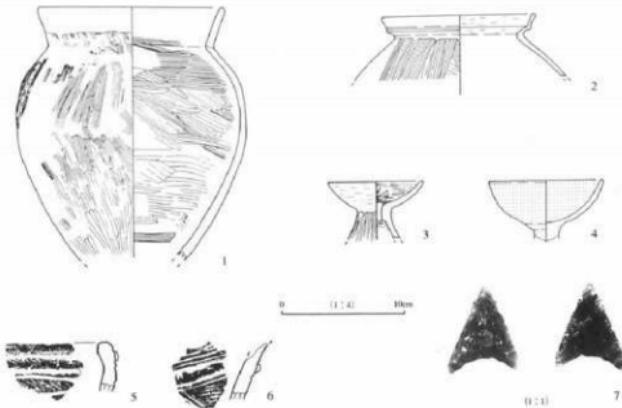
壺の7-1は、胴上部に張りを持ち、口縁部は「く」の字状に屈折してわずかに外傾する。調整は内外面とも縦位のハケメ調整が施され、外面胴下半部は縦位のヘラミガキが施される。S字状口縁台付壺の7-2は口縁部から胴上部の資料で、外面のハケが上から左下がりとなり横方向のハケが認められる。小型器台の7-3は、器受部と脚部との間に約1cmの貫通孔を有する。器受部がゆるやかに内窓して立ち上がり、脚部は「ハ」の字状に開く形状と考えられる。小型高杯の7-4は杯部が内窓して立ち上がり塊状を呈する。また、杯部の内外面に赤色塗彩が施される。

本住居址の所産期は、出土した7-1～4の土器様相から古墳時代前期と考えられる。



- 1 黒褐色土: (IOYR2/3) ローム粒子・炭化物微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土: (IOYR4/3) ローム粒子・バクス多量含む。
- 3 淡色土: (IOYR4/6) ローム粒子・バクスを含む。
- 4 にぶい黄褐色土: (IOYR4/3) 茶色ブロック (IOYR2/1) を含む。
- 5 明黄褐色土: (IOYR2/6) 黄色ローム主作。
- 6 黑褐色土: (IOYR2/3) ローム粒子微量含む。
- 7 にぶい黄褐色土: (IOYR4/3) ローム粒子少量含む。
- 8 黑褐色土: (IOYR2/3) ローム粒子・バクスを含む。
- 9 淡褐色土: (IOYR3/3) ローム粒子含む。
- 10 黑褐色土: (IOYR5/6) ローム粒子多量含む。

第6図 H1号住居址実測図



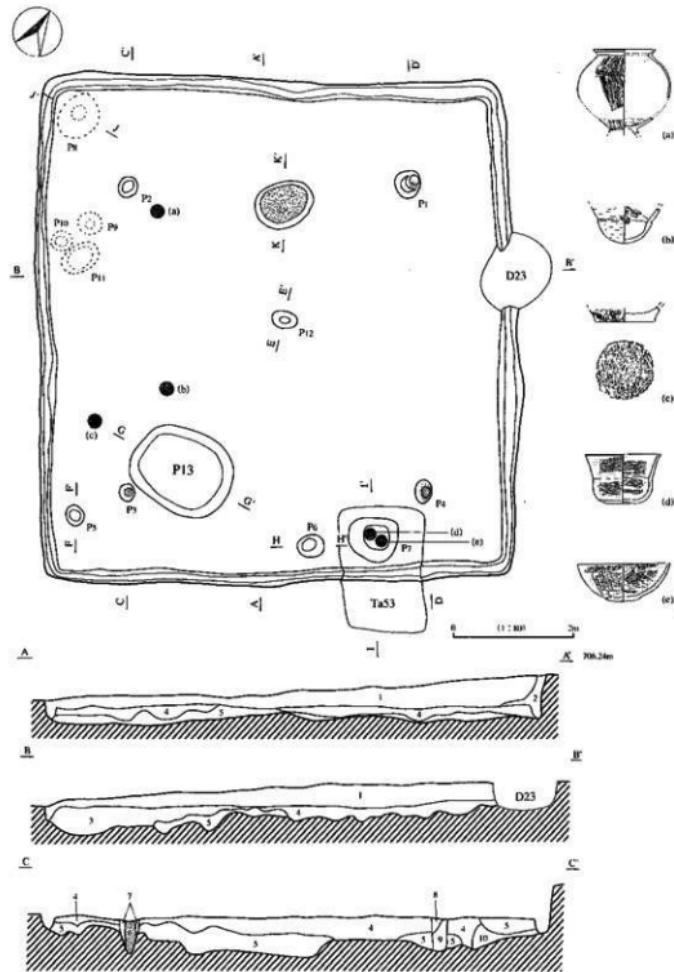
第7図 H1号住居址出土土器・出土石器実測図

2) H2号住居址（第8図～12図、図版二）

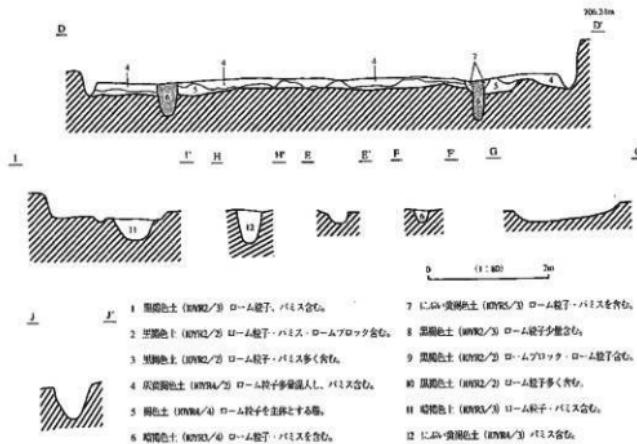
本住居址は、調査区の東南部付近A区く・こー8・9グリッド内に位置し、全体層序第3層上面において検出された。南壁の一部はTa53号堅穴建物址に、東壁のはば中央部はD23号土坑に破壊されている。平面形態及び規模については、東西約7.5m、南北約8.5mの方形を呈する大型の住居址である。

確認面からの壁高は、東・北壁で約5.2～7.5cmを測るもの、南・西壁は1.0～1.8cmと浅く耕作等により削平されていた。壁溝が検出され壁の直下を一周している。床面からの深さは20cm前後を測り断面形状は「U字形」を呈している。床面は8～60cmの厚さで貼り床が施され、全体に平坦で堅固である。ピットは13個確認され、その内P1～P4は主柱穴と思われる。形態はいずれも25×30cm内外の大きさで、各ピットとも梢円形を呈している。深度は5.0～7.0cm内外を有する。P13号は約1.76×1.36cmの梢円形を呈し、床面を1.0～2.0cm浅く掘り窪めて構築され特異な形態を示す。P8～P12はいずれも北・西壁コーナー付近の床面下20cmの深さから確認された。

炉が検出され、住居址中央北側のP1・P2間に位置する。規模は東西9.6cm、南北7.0cmの梢円形を呈し、最深部で3.0cmを測る。皿状に凹む底部には東西8.0×南北6.0cmの梢円形の焼土範囲が認められ、約5～10cm焼土の堆積が観察される。



第8図 H2号住居址実測図



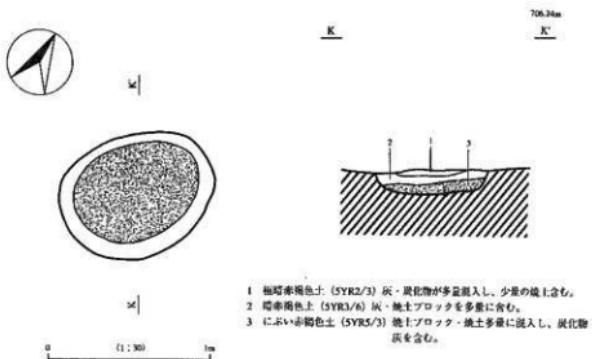
第9図 H2号住居址実測図

出土した遺物で図化し得たものは17点ある。その内土器は13点あり（12—12・12'は同一個体）、S字状口縁台付壺が1点、小型丸底壺が2点、壺3点、甕底部3点、ミニチュア土器の底部部1点である。石器類では磨石2点、砥石1点、碁石状石1点がある。

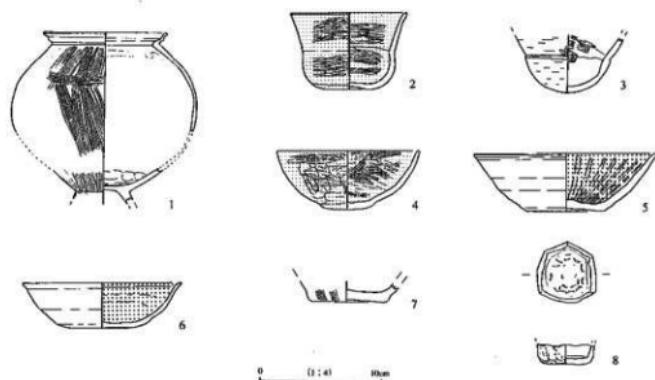
S字状口縁台付甕11—1は、床面直上より出土し、外面口縁部はナデ調整され胸肩部に横線が施される。また、肩～胴部はハケ目が上から下りとなり、胸肩部の横線を境にハケ目は右下りに変換して施される。台部の器形は不明であるが、残存部から推し「ハの字状」にゆるく内弯するものと思われる。11—2の小型丸底甕は、床面下より出土した。内外面は赤色塗彩され、口辺部が小さく外傾する。外面底部の中央に指おさえによると考えられる凹みを有している。11—3の小型丸底甕は、床面直上より出土した。口辺部が広く外傾し、丸底の底部との接合部に外稜を有する。調整は磨減のため不明な部分が多いが、粗いナデ・ミガキが窺われる。壺は3点が出土し、11—4は床面下から検出された。壺の体部は粗いハケメ・ナデ・ミガキを基調とし、丸みを呈した台部を有し、内外面に赤色塗彩が施される。11—8はミニチュア土器の底部で、内面には指おさえの際に生じたと思われる爪痕がほぼ一周している。9は木葉痕が施された甕の底部である。

土器の混入遺物は11—5・6の壺があり、5・6は覆土の上面部より出土し、内面の調整は黑色処理がなされている。5の壺内面には、放射状に暗文が施されている。他に、混入した土器では、縄文中期初頭の土器片（12—11・12・12'）・縄文中期中葉の土器片（12—13）がある。

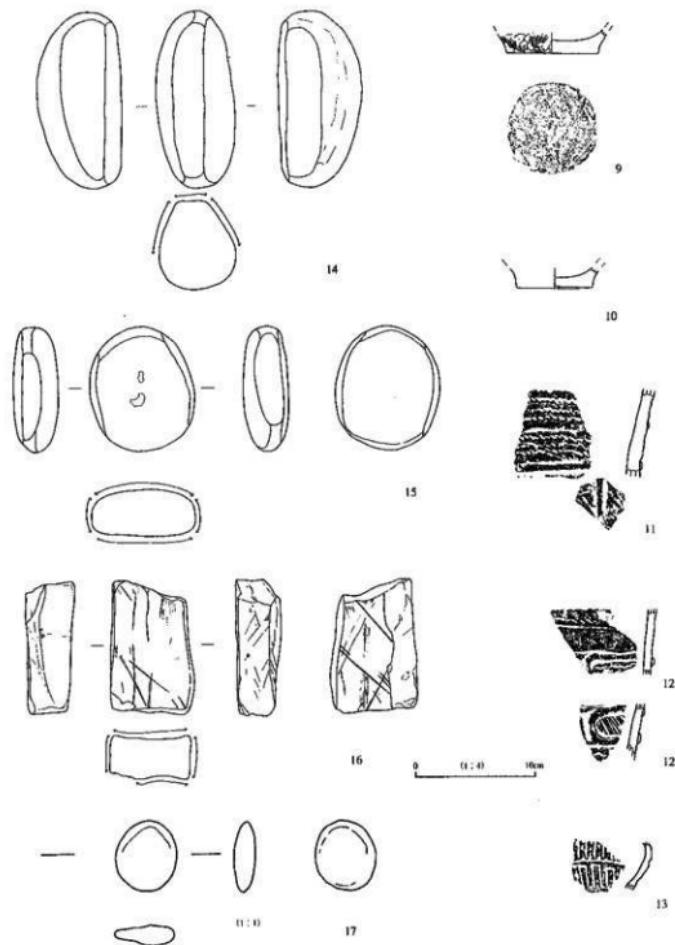
本壙の所産期は、S字状口縁台付壺（11-1）・小型丸底壺（11-2・3）、そして赤色塗彩が施された壺（11-4）などの土器様相、更には、住居址の形態などから古墳時代前期のもとのと考えられる。



第10図 H2号住居址炉実測図



第11図 H2号住居址出土土器実測図



第12図 H2号住居址出土土器・出土石器実測図

3) H 3号住居址（第13図～14図）

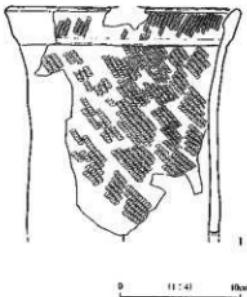
本住居址は、調査区の西側中央付近B区け・こー7・8グリッド内に位置し、全体層序第2層上面において検出された。南壁はTa33号竪穴建物址・Ta39号竪穴建物址に破壊されている。

平面形態及び規模については、残存するプランから推し東西約4.4m、南北約4.0mの不整隅丸方形を呈した住居址であったことが考えられる。確認面からの壁高は約10～15cmと浅く、耕作などにより著しく削平され、残存状況はきわめてわるかった。

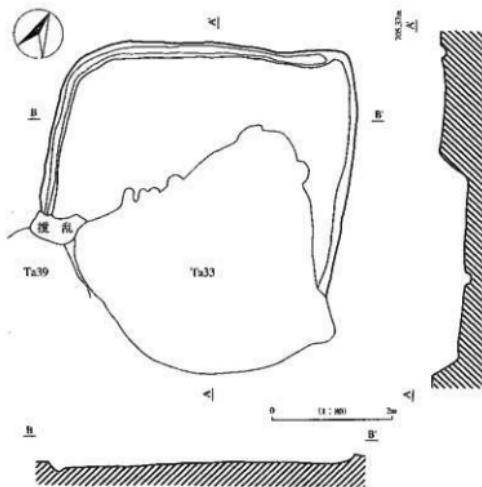
壁溝が北・西壁下から確認された。しかし、残存状況から北東コーナーで立ち上がる事が認められ東壁側には配されなかつたことが窺われる。壁溝の深さは、床面から約6～10cmを測り断面形状は「U字形」を呈している。床面は比較的平坦ながらも、中央部に向かってゆるやかに隆んでいることが認められる。炉はTa33号竪穴建物址の破壊を受けているためであろうか確認できなかつた。

本住居址からの出土遺物は少なく第13図1に示した縄文土器が床面の直上部より出土した。器種は深鉢で、図上復元により口縁部の径は18.8cmを測る。肥厚口縁で、文様は外面口縁部～胴部に縄文が施され、口縁部と胴部では施される文様の方向が対照的である。

本量の所産期は縄文時代中期初頭であろう。



第13図 H3号住居址出土土器実測図



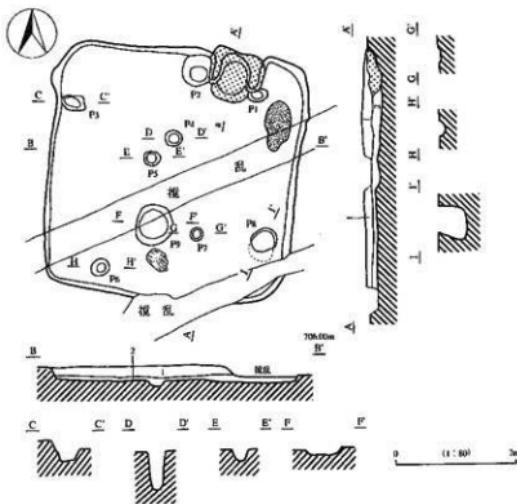
第14図 H3号住居址実測図

4) H 4号住居址（第15図～17図、図版二）

本址は調査区の南側中央付近E区い・うー2・3グリッド内に位置し、全体層序第3層上面において検出された。南・東壁の一部は耕作時の歎により搅乱されている。平面形態及び規模については、残存するプランから東西4.0m、南北4.0mの隅丸方形を呈する。

壁高は、確認面から10~18cmと浅く、耕作等の削平を受けていた。尚、西壁北寄りコーナー付近の壁は、若干張り出し気味にふくらむ。床面は6~10cmの厚さで貼り床が施され、明黄褐色土層（第2層）を埋め戻して構築されている。床面の状態は全体に平坦で堅固である。尚、北東コーナーの床面にはカマド内から引き出されたと思われる焼土が、P9脇には炭化材が床面上から確認された。ピットは9個確認され、P2・P8・P9は径50cm内外で、他の6個のピットはいずれも径20cmとやや小さめの形態であった。深度は、P4が最も深く約60cmを測る。

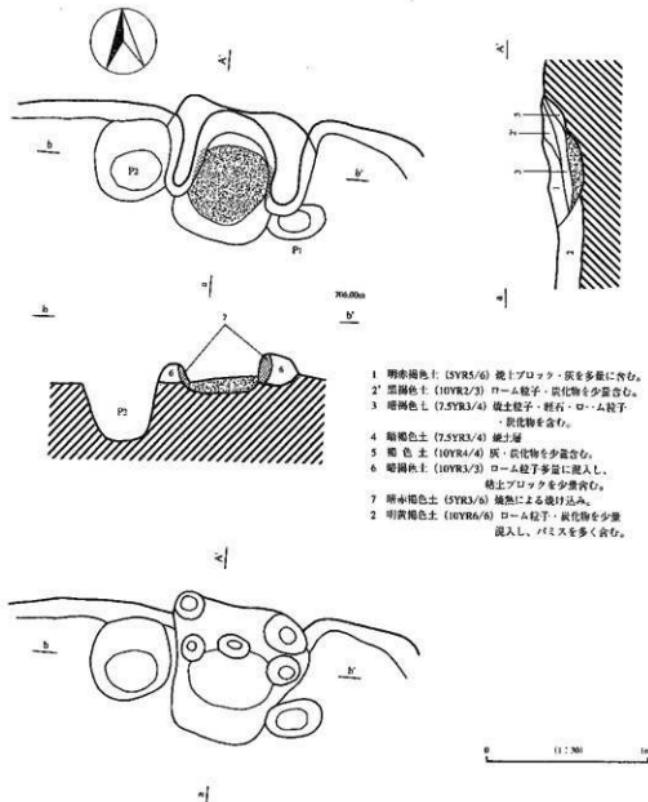
カマドは、北壁の中央部よりやや東側の北東コーナーに近い位置に配されている。燃焼部及び



1 明黄褐色土 (10YR6/3) ローム粒子、バニス含む。
2 明黄褐色土 (10YR6/6) ローム粒子、炭化物を少量混入し、バニスを多く含む。

第15図 H 4号住居址実測図

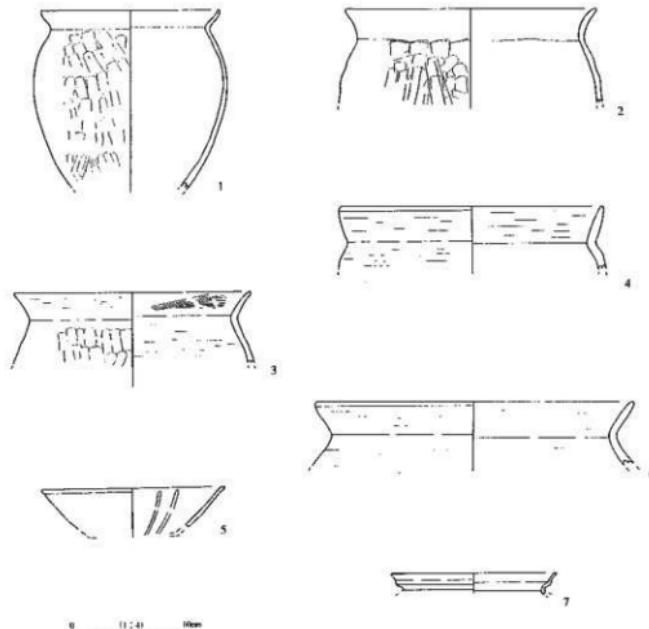
袖の基部は良好な状態で残存しているものの、耕作等による削平のため天井部及び煙道部も失われていることが考えられる(第16図)。火床部は、床面から約20cm程掘り込んで構築され、約14cmの焼土が堆積していた。袖の基部は火熱による焼け込みが認められる。煙道の掘り方は第16図a-A'のカマド断面図のようにテラス状に一段の段差を有して掘り込まれている。



第16図 H4号住居址カマド実測図

本住居址から出土した土器で図化されたものは7点ある。17-1は小型壺で口縁部は「くの字状」に小さく屈曲する。調整は口縁部がナデ調整され、肩部は粗いヘラ削りによって整形された後ヘラナデによって調整されている。17-2・3の土師器壺も17-1と同様な調整・整形が行なわれている。4はロクロ壺で、口縁部～肩部の内外面ともにロクロ横ナデである。5は土師器壺で内面一部に暗文と思われる痕跡が観察できる。7はS字状口縁台付壺の口縁部で混入遺物であろう。

本量の所産期は、土器全体の器形、形態を観察できるものがなく、明確な時期決定は困難である。しかし、17-4のロクロ壺、また、配されたカマドの位置などから平安時代か。



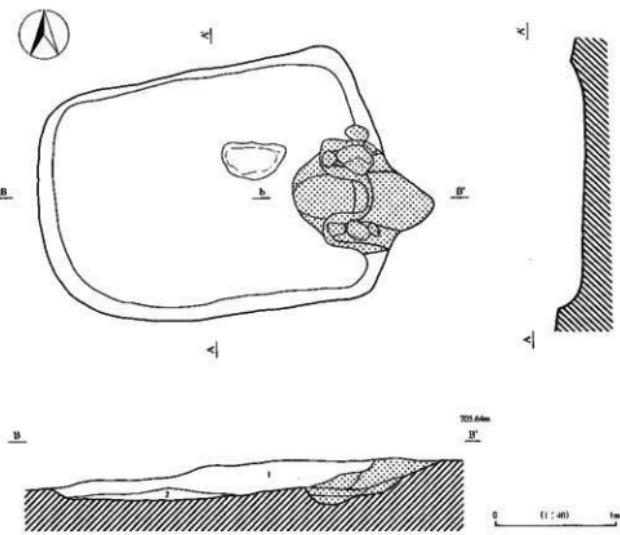
第17図 H4号住居址出土土器実測図

5) H 5号住居址(第18図～19図、図版三)

本址は、調査区のB区うー10グリッド内に位置し、全体層序2層上面において検出された。

平面形態及び規模については、東西2.8m、南北2.0mの隅丸長方形を呈する。壁高は確認面から15～30cmと浅く耕作等の削平を受けていた。床面は全体に平坦で、黄褐色ローム層を踏み固めて堅緻な状態である。床面のほぼ中央部には、カマドの天井石に使用されたと思われる厚さ約15cmの平坦な石が確認された。ピットは住居址内、及び、遺構周辺からも検出されなかった。

カマドが東壁の中央部よりやや南寄り、東南コーナー付近に確認された。形態は煙道が住居址壁ラインより若干外側に出るタイプである。燃焼部の掘り方は床面より約18cm掘り窪めた後、

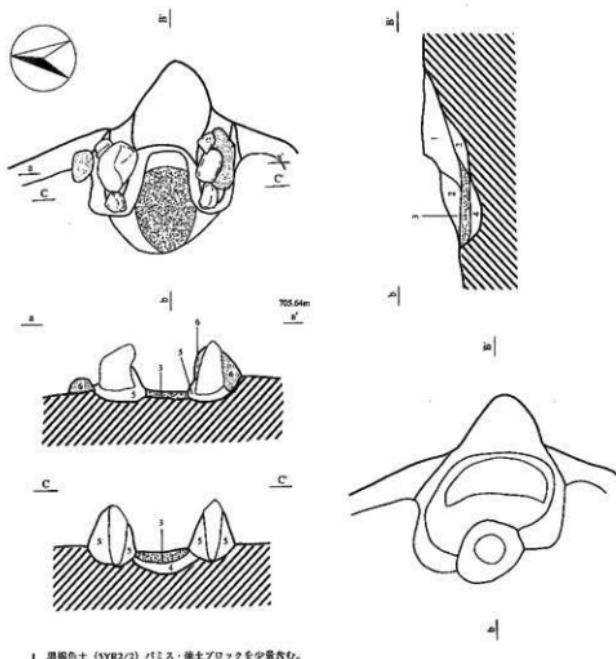


1 黒褐色土 (10YR3/1) バニス少量、炭化物多量含む。

2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒子多量、炭化物多量含む。

第18図 H 5号住居址実測図

19図 4層の褐色土層を埋めて火床面が構築されている。火床面には約13cmの焼土粒子・炭化物を多量に含む層が認められる。煙道部の掘り方は、2段の段を設けて掘り込まれ第19図2層を埋めて煙道の傾斜面が調節される。袖部は袖石が配され粘土で固定して構築されている。(第19図)
本住居址の所窓期は、出土遺物が一点もなく明確な時期決定は困難である。が、本址に配されたカマドの位置などから推し、平安時代であることが考えられる。



- 1 黒褐色土 (SYR2/2) バミス・焼土ブロックを少量含む。
- 2 喀斯特土 (SYR3/2) バミス・焼土粒子少數含む。
- 3 水削色土 (SYR4/6) 焼土粒子・炭化物を多量含む。
- 4 褐色土 (SYR4/6) ローム粒子多量に混入し少度の灰を含む。
- 5 植物表面層土 (SYR2/3) ローム粒子少數含む。
- 6 にい赤褐色土 (SYR3/3) 粘土質・ローム粒子含む。

第19図 H5号住居址カマド実測図

6) H 6 号住居址（第20図～21図、図版四）

本住居址は、調査区のE区きー2・3グリッド内に位置し、全体層序3層上面において検出された。第2号溝状遺構と重複関係にあり、本址は西壁側が一部残存しているものの、他の大半は破壊されていた。よって平面形態、及び、規模などは不明である。

残存する床面の状態は、全体に平坦で黄色ローム層を踏み固めて構築されているものの、軟弱であった。ピットは西壁の体部から一個確認された。

出土した遺物で同化し得たものは、灰釉坏、土師器坏の2点がある。21-1の灰釉坏は胸部～口縁部の残存片であり底部形状は不明である。外面口縁部は輪の付着が顕著である。21-2は土師器坏で底部は回転糸切りである。脚部は内弯ぎみに立ち上がり、口唇部がわずかに外傾する。

本址の所産期は、21-1、21-2に示した土器様相、更には、第2号溝状遺構（中世）に被埋されていることなどから平安時代中期であろうか。



第20図 H 6 号住居址実測図



第21図 H 6 号住居址出土土器実測図

第2節 竪穴建物址（第22図～54図、図版五～二十四）

(1) 規模・形態

検出された竪穴建物址は56棟である。これらの覆土状態は大半がローム粒子を主とする堆積状況を示し、人為的な埋土であることが認められる。規模・形態は、方形を呈するものが12棟（Ta1号外）、長方形のものが22棟（Ta14号外）、不整方形が6棟（Ta33号外）、円形が4棟（Ta22号外）、楕円形が5棟（Ta36号外）、そして、張り出し部を有するもの6棟（Ta30号外）であった。他に1棟は他遺構との重複関係によって破壊されており形態などは不明である（Ta18号）。

このように形態的な差異が認められること、或いは、検出された立地（位置）などから個々の竪穴建物址には機能・性格等に違いがあったことも考えられる。しかし、今回の調査からは、これらを感知し得る資料を得ることはできなかった。また、形態的な特徴を示す竪穴建物址の中に張り出し部を有するものが6棟ある。これらを見ると、規模の大小、及び、形態の差異によって張り出し部の有無は決定されないことが窺われる。そして、付設される張り出し部の位置についても、特に一定した方向性はみられない（Ta3・Ta11・Ta19・Ta30・Ta37・Ta47号）。

規模で最も大形のものは、方形を呈するTa1号で、東西約5mで、南北約4.8mを測る。一方、最も小規模なものは方形を呈したTa55号で東西約1m、南北1.2mを測る。方形を呈する12棟の規模は、Ta1・23号を除くと…辺1m内外を測るものが多く比較的小規模なものが多い傾向が窺われる。長方形を呈するものは22棟で、検出された56棟の約4割を占め最も多い。規模的には長軸が4m前後と、3m前後とに大別でき、方形の遺構に比べ小形のものは比較的少ない。

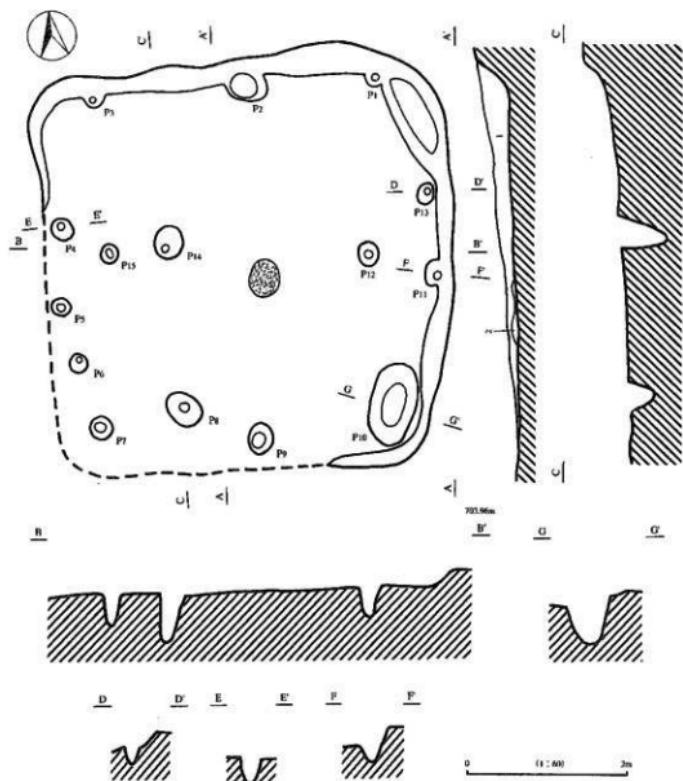
(2)床面・柱穴

床面の状況はすべての遺構が一樣で、黄色ローム層をそのまま平坦に利用している。また、Ta1号北東コーナー部の床面はテラス状に一段高く構築されている。当址の、床面の中央部は火熱による焼け込みが認められ、一時的に火の使用があったことが窺われた。柱穴が検出されたものは、Ta1・2・23・33・48号の5棟でいずれも方形・不整形の大形を呈する遺構である。

(3)出土遺物からみた時代の推定

竪穴建物址からは、内耳土器・常滑窯・北宋銭他が出上しているものの出土点数は極めて少ない。銭貨他はすべてが破損品で、人為的と理解される堆積状況の覆土中から出土しており、遺構に共伴する遺物はほとんどないと思われる。従って、個々の遺構に対し明確な時期決定は困難である。しかし、図化された53-1の内耳土器の形態は、佐久市「大井城跡」（1986）で報告された15～16世紀に検討される内耳土器の様相とほぼ同一時期の形態を示すこと、また、常滑窯片などの年代傾向から推察すると、本竪穴建物址群は16世紀代中頃に廃絶された可能性が考えられ、使用された時期もこれと大差ない時期と考えられる。

第1号竪穴建物址

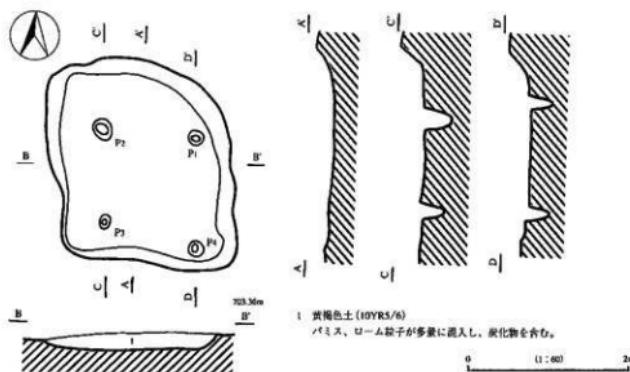


第22図 第1号竪穴建物址実測図

第2表 第1号堅穴建物址計測表

遺構番号	Ta 1	換算面積	E・K-7 グリッド	重複番号	—
平面形態	方形	面積 (21.02m ²)			
	壁長	壁高	備考 (その他の風致施設・觀察事項等)		
北側壁	456cm	18.0~28.5cm			
東側壁	472cm	4.0~30.5cm	床面は中央付近で埴土確認		
南側壁	(408cm)	3.5~40cm			
西側壁	(472cm)	3.0~9.5cm	浮岡番号 22 図版番号 5-1		
覆土の状態	2層	床面の状態	おむね平坦		
柱穴	北壁に3本、東壁に2本、東西壁に1本、西壁底に4本配列。他5本	出土遺物	—		

第2号堅穴建物址

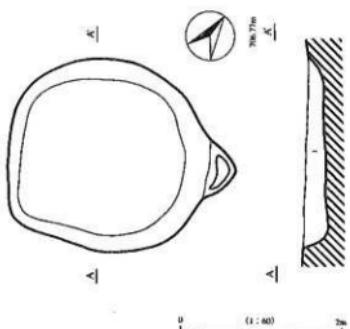


第3表 第2号堅穴建物址計測表

遺構番号	Ta 2	換算面積	E・K-7 グリッド	重複番号	—
平面形態	不整形	面積 3.76m ²			
	壁長	壁高	備考 (その他の風致施設・觀察事項等)		
北側壁	180cm	16.5~24.5cm			
東側壁	216cm	16.0~27.5cm			
南側壁	196cm	1.5~10.0cm			
西側壁	220cm	5.0~12.0cm	浮岡番号 23 図版番号 5-2		
覆土の状態	単層、人為的	床面の状態	おむね平坦		
柱穴	4本配置	出土遺物	—		

第3図 第2号堅穴建物址実測図

第3号竪穴建物址

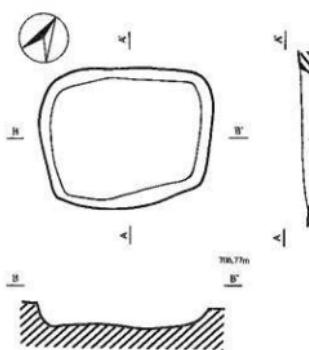


1 黒褐色土 (10YR3/2) 粒石 ϕ 1~3cm・炭化物・ロームブロック含む

第4表 第3号竪穴建物址計測表

測量番号	Ta 3	検出位置	A・こー3グリッド
底面面積	—	平面形態	張り出し形
面積	3.26m ²	長軸方向	N=63°-E
壁長	—	壁高	—
北側壁	166cm	—	14.0cm
東側壁	166cm	—	—
南側壁	202cm	—	30.0cm
西側壁	180cm	—	—
覆土の状態	單層 人為的	床面の状態	起伏あり
柱穴	なし	出土遺物	—
備考			
採集番号	24	回収番号	

第4号竪穴建物址



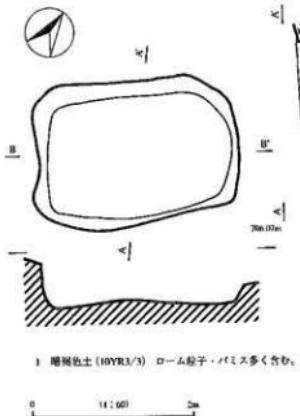
1 明瞭褐色土 (10YR6/6) 粒石 ϕ 1~4cm・炭化物・ローム段子含む。

第5表 第4号竪穴建物址計測表

測量番号	Ta 4	検出位置	A・けー4グリッド
底面面積	—	平面形態	不整方形
面積	2.32m ²	長軸方向	N=57°-E
壁長	—	壁高	—
北側壁	134cm	—	21.0~29.0cm
東側壁	120cm	—	10.0~16.0cm
南側壁	156cm	—	16.0~25.0cm
西側壁	152cm	—	25.0~28.0cm
覆土の状態	單層	床面の状態	起伏あり
柱穴	なし	出土遺物	—
備考			
採集番号	24	回収番号	

第24図 第3号・4号竪穴建物址実測図

第5号竪穴建物址



第6表 第5号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 5	検出位置	A・く一4グリッド
東壁頂部	Ta29を接続する	平面形態	長方形
面 積	2.98 m ²	長軸方向	N-58°-E
壁 高	—	壁 高	壁高
北 壁 高	204cm	34.5~50.0cm	—
東 壁 高	140cm	18.0~21.5cm	—
南 壁 高	242cm	24.0~36.0cm	—
西 壁 高	130cm	50.5~53.0cm	—
覆 土 の 状 態	單層 人為的	床 地 の 状 態	起伏あり
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考	—	—	—
探査番号	25	回収番号	—

第6号竪穴建物址

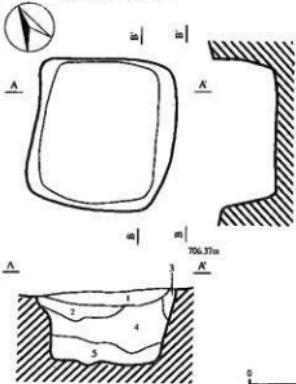


第7表 第6号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 6	検出位置	B・け一4グリッド
東北隅	—	平面形態	長方形
面 積	6.39 m ²	長軸方向	N-31°-E
壁 高	—	壁 高	壁高
北 壁 高	194cm	9.5~22.5cm	—
東 壁 高	32cm	2.5~33.0cm	—
南 壁 高	184cm	4.5~34.5cm	—
西 壁 高	304cm	3.0~10.0cm	—
覆 土 の 状 態	3 層 人為的	床 地 の 状 態	おおむね平坦
柱 穴	北壁側に1本配置	出土遺物	—
備 考	東南壁下 浅い取溝あり	—	—
探査番号	25	回収番号	6-1

第25図 第5号・6号竪穴建物址実測図

第7号竪穴建物址

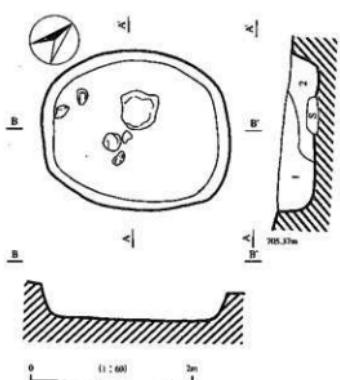


1. にぶい黄褐色土 (10YR7/4) ローム粒子・バミス含む。
2. 明 貫 黄 色 土 (10YR7/6) ローム粒子・バミス含む。
3. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム粒子多量に混入し、バミスを少量含む。 4. 暗 色 土 (10YR4/6)
ローム粒子・バミスを少量含む。

第8表 第7号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 7	検査位置	B・おー4グリッド
遺構関係	Ta6を破壊する	平面形態	方形
面 純	2.18m ²	長軸方向	N=37.5°-E
壁 長		壁 高	
北 壁 長	156cm	85.0~88.5cm	
東 壁 長	158cm	81.0~88.5cm	
南 壁 長	140cm	57.5~66.0cm	
西 壁 長	154cm	59.5~76.5cm	
壁 土 の 状 態	5 層 人為的	床 土 の 状 態	おおむね平坦
柱 穴	な し	出土遺物	内耳土器 円石 常滑型
備 考			
検査番号	26	測量番号	6-2

第8号竪穴建物址



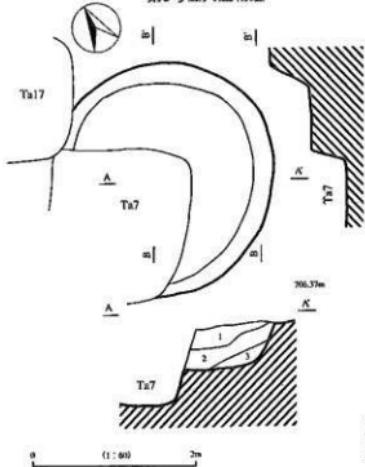
1. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・炭化物を含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒子多量に混入し、炭化物を含む。

第9表 第8号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 8	検査位置	B・くー4グリッド
遺構関係	Ta6を破壊する	平面形態	橢円形
面 純	2.90m ²	長軸方向	N=48°-E
壁 長		壁 高	
北 壁 長	172cm	27.0~30.0cm	
東 壁 長	140cm	39.5~44.0cm	
南 壁 長	160cm	21.5~40.0cm	
西 壁 長	146cm	21.5~29.0cm	
壁 土 の 状 態	2 層 人為的	床 土 の 状 態	平 坦
柱 穴	な し	出土遺物	内耳土器 円盤状石器
備 考			
検査番号	26	測量番号	7-1

第26図 第7号・8号竪穴建物址計測図

第9号竪穴建物址



第10表 第9号竪穴建物址計測表

測定番号	Ta 9	検出位置	B・おー4グリッド
重複面積	Ta7, Ta17(面積S.6)	平面形態	円形
面 積	<2.42m ² >	長軸方向	N-37°-W
全 長		豊 高	
北 側 壁	—		
東 側 壁	—		25.5~53.0cm
南 側 壁	—		
西 側 壁	—		
覆 土 の 状 態	3 層	床 面 の 状 態	平 頂
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考	南北直往295cm		
探査番号	27	図版番号	7-2

- 1 にぶい黄褐色土 (10YR7/4) ローム粒子・バミス含む。
2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム粒子・バミス少量混入。
3 明 黄 色 土 (10YR7/6) ローム主体・多量含む。

第10号竪穴建物址



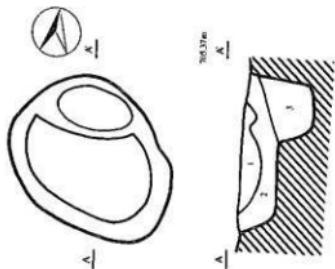
第11表 第10号竪穴建物址計測表

測定番号	Ta 10	検出位置	B・くー6グリッド
重複面積	Ta8(重複される)	平面形態	長方形
面 積	<2.50m ² >	長軸方向	N-28°-E
全 長		豊 高	
北 側 壁	(16cm)		39.0~45.0cm
東 側 壁	(22cm)		62.0~69.0cm
南 側 壁	122cm		62.0~66.0cm
西 側 壁	248cm		46.0~56.0cm
覆 土 の 状 態	2 層	床 面 の 状 態	平 頂
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
探査番号	27	図版番号	8-1

- 1 黄褐色土 (10YR3/4) ローム粒子・バミス含む。
2 黄 色 土 (10YR4/4) ローム粒子・バミス・ロームブロックが混入。

第27図 第9号・10号竪穴建物址実測図

第11号竪穴建物址



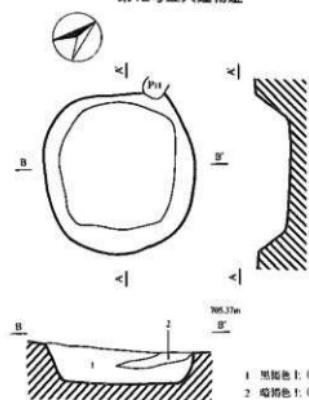
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・ロームブロック #1~3cm大含む。
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒子多量に混入し、ロームブロック少含む。
3 黄褐色土 (10YR4/4) ローム粒子多量に含む。

第12表 第11号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 11	検出位置	B・きー6グリッド
遺構関係	—	平曲形態	張り出し形
面積	1.55m ²	長軸方向	N=62°-W
壁長	壁 高		
北側壁	132cm		71.5~77.5cm
東側壁	138cm		40.0~45.5cm
南側壁	136cm		40.0~47.0cm
西側壁	148cm		40.0~79.0cm
覆土の状態	3 帯 人為的	床面の状態	北側に約40cmの落ち込みが認められる
柱穴	な し	出土遺物	内耳土器
備考			
検査番号	28	剖面番号	

0 (1:60) 2m

第12号竪穴建物址



- 1 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・バミ少量混入しロームブロック #1~3cm大含む。
2 短褐色土 (10YR4/4) ローム粒子・バミ・難石少量含む。

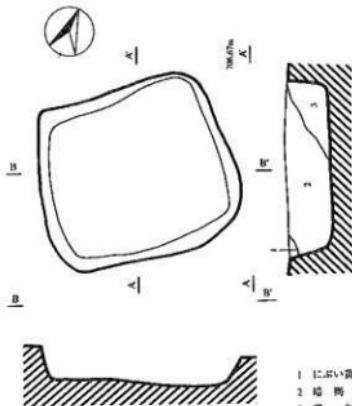
第13表 第12号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 12	検出位置	B・きー7グリッド
遺構関係	—	平曲形態	円形
面積	1.86m ²	長軸方向	N=61°-W
壁長	壁 高		
北側壁	142cm		35.0~36.0cm
東側壁	142cm		35.0~45.0cm
南側壁	120cm		39.5~46.0cm
西側壁	160cm		30.0~39.5cm
覆土の状態	2 帯 人為的	床面の状態	半 圆
柱穴	な し	出土遺物	—
備考			
検査番号	28	剖面番号	8-2

0 (1:60) 2m

第28図 第11号・12号竪穴建物址実測図

第13号竪穴建物址



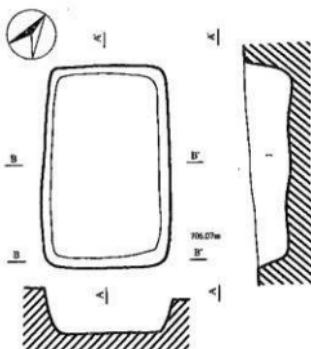
第14表 第13号竪穴建物址計測表

測定番号	Ta 13	検出位置	A - <4グリッド
直徑関係	Ta29を破壊する	平面形態	方形
面積	3.56m ²	長軸方向	N=58°-E
壁 高	184cm	壁 高	最高
北 壁	184cm	床 面	56.0~58.5cm
東 壁	180cm	床 面	33.0~50.5cm
南 壁	208cm	床 面	44.0~47.0cm
西 壁	194cm	床 面	55.5~61.0cm
覆 土 の 状 態	3 層 人為的	床 面 の 状 態	平 通
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測定番号	29	回収番号	9-1

1 に高い黄褐色土 (10YR6/4) ローム粒子多量に混入。
 2 緑 囲 土 (10YR3/4) ローム粒子・バミス・氯化物含む。
 3 黄 色 土 (10YR4/4) ローム粒子・バミス多量に含む。

0 (1:60) 2m

第14号竪穴建物址



第15表 第14号竪穴建物址計測表

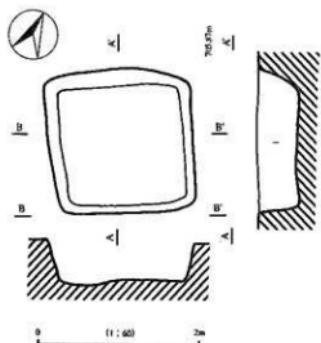
測定番号	Ta 14	検出位置	A - <3グリッド
直徑関係	—	平面形態	長方形
面積	2.88m ²	長軸方向	N=43°-N
壁 高	132cm	壁 高	最高
北 壁	132cm	床 面	50.0~59.5cm
東 壁	223cm	床 面	44.0~48.0cm
南 壁	136cm	床 面	28.5~51.5cm
西 壁	240cm	床 面	50.5~56.5cm
覆 土 の 状 態	草 層	床 面 の 状 態	起伏あり
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測定番号	29	回収番号	9-2

1 短褐土 (10YR3/3) ローム粒子・バミス・ロームブロック含む。

0 (1:60) 2m

第29図 第13号・第14号竪穴建物址実測図

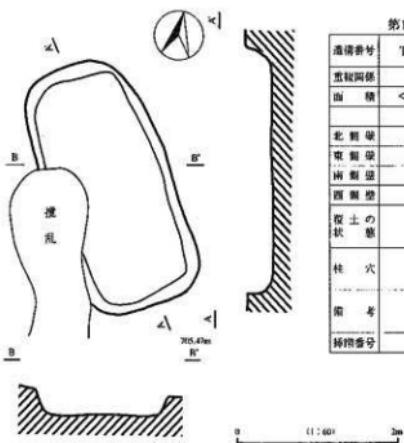
第15号竪穴建物址



第15表 第15号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 15	検出位置	A・さー3グリッド
重複関係	—	平面形態	方形
面積	2.08m ²	長軸方向	N-32°-W
壁長		壁高	
北 壁 長	172cm		46.0~50.0cm
東 壁 長	148cm		43.0~45.0cm
南 壁 長	152cm		44.0~50.0cm
西 壁 長	156cm		50.0~54.0cm
覆 土 の 状 態	草 層	床 面 の 状 態	おおむね平坦
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
検査番号	30	図版番号	10-1

第16号竪穴建物址

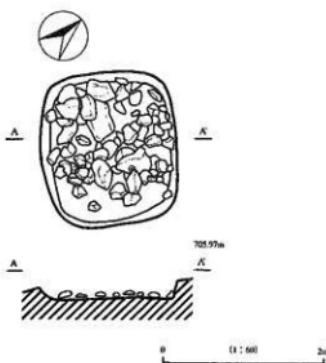


第17表 第16号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 16	検出位置	A・かー6グリッド
重複関係	—	平面形態	長方形
面積	<3.00m ² >	長軸方向	N-33°-W
壁長		壁高	
北 壁 長	100cm		27.0~31.0cm
東 壁 長	282cm		17.0~31.0cm
南 壁 長	112cm		14.0~29.0cm
西 壁 長	290cm		23.0~32.0cm
覆 土 の 状 態		床 面 の 状 態	平 順
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
検査番号	30	図版番号	

第30圖 第15号・第16号竪穴建物址実測図

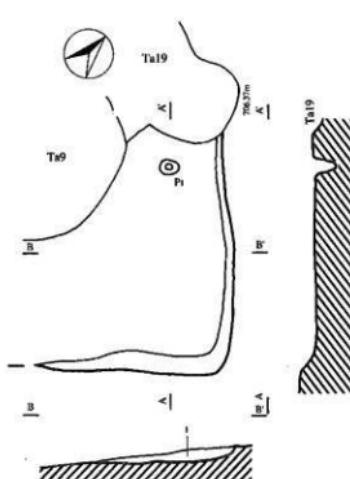
第17号竪穴建物址



第18表 第17号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 17	検出位置	B・お—4グリッド
遺構関係	Ta9,Ta19を接続する	平面形態	長方形
面 積	2.18m ²	長軸方向	N-52°-W
		幅 長	幅 高
北 墓 壁	128cm		28.0~45.0cm
東 墓 壁	158cm		39.0~47.0cm
南 墓 壁	128cm		27.0~40.0cm
西 墓 壁	166cm		25.0~29.0cm
覆 土 の 状 性		床 面 の 状 性	平 岸
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考	投石と思われる石が認められる		
探査番号	31	図版番号	10-2

第18号竪穴建物址



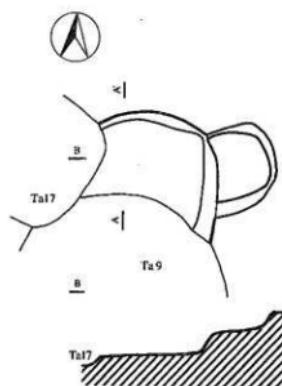
第19表 第18号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 18	検出位置	B・え—4グリッド
遺構関係	Ta9,Ta19に接続される	平面形態	(方形)
面 積	—	長軸方向	N-43.5°-W
		幅 長	幅 高
北 墓 壁	—		—
東 墓 壁	(288cm)		9.5~17.0cm
南 墓 壁	<224cm>		6.5~18.0cm
西 墓 壁	—		—
覆 土 の 状 性	1 層	床 面 の 状 性	平 岸
柱 穴	北東部に1本配設	出土遺物	—
備 考	著しく削平されている		
探査番号	31	図版番号	11-1

1. 地面色土 (10YR3/3) ローム粒子少混合。

第31図 第17号・第18号竪穴建物址実測図

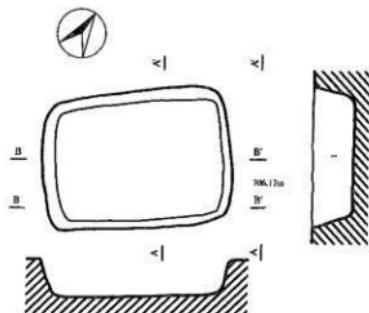
第19号堅穴建物址



1 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・バミス少含む。

0 (1:60) 2m

第20号堅穴建物址



1 に赤い黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒子・バミス多く含む。

0 (1:60) 2m

第20表 第19号堅穴建物址計測表

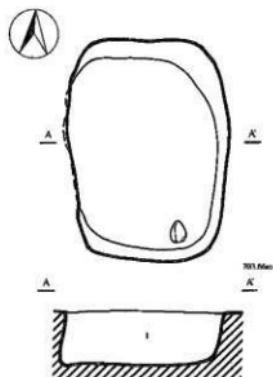
遺構番号	Ta 19	検出位置	B・おー4グリッド
重複陶体	Ta9に重複する。	平面形態	張り出し形
面 索	<1.72m ² >	長軸方向	N-73°-E
壁 高	壁 長	壁 高	
北 壁	<128cm>	10.5~38.5cm	
東 壁	<130cm>	13.0~17.5cm	
南 壁	—	—	
西 壁	—	—	
底 土 の 状 態	单 層	床 地 の 状 態	平 坦
柱 穴	な し	出土遺物	—
施 工			
検出番号	32	図版番号	11-2

第21表 第20号堅穴建物址計測表

遺構番号	Ta 20	検出位置	A・きー4グリッド
重複陶体	Ta9を重複する。	平面形態	長方形
面 索	2.80m ²	長軸方向	N-60°-E
壁 高	壁 長	壁 高	
北 壁	200cm	42.5~47.0cm	
東 壁	152cm	38.0~42.5cm	
南 壁	203cm	38.0~50.0cm	
西 壁	148cm	49.0~52.0cm	
底 土 の 状 態	单 层	床 地 の 状 態	平 坦
柱 穴	な し	出土遺物	—
施 工			
検出番号	32	図版番号	

第32図 第19号・第20号堅穴建物址実測図

第21号竪穴建物址

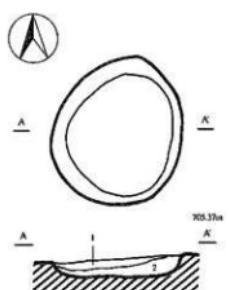


1 黄褐色土 (10YR5/6) バニス・ローム粒子多量に混入し、炭化物を少量含む。

第22表 第21号竪穴建物址計測表			
遺構番号	Ta 21	検出位置	F・えー-5グリッド
遺構関係	—	平面形態	長方形
面積	3.62m ²	長軸方向	N-8°-W
壁 長	壁 高		
北側壁	134cm	68.0-78.5cm	
東側壁	250cm	46.5-64.0cm	
南側壁	142cm	38.5-40.5cm	
西側壁	242cm	59.0-73.0cm	
覆土の 状 态	平 堆	床 面 の 状 态	平 頂
底 面			段 跃
柱 穴	な し	出土遺物	天然瓦質 (?)
備 考			
神社番号	33	回収番号	12-1-2

0 (1:60) 2m

第22号竪穴建物址



1 に赤い黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒子・ロームブロック含む。

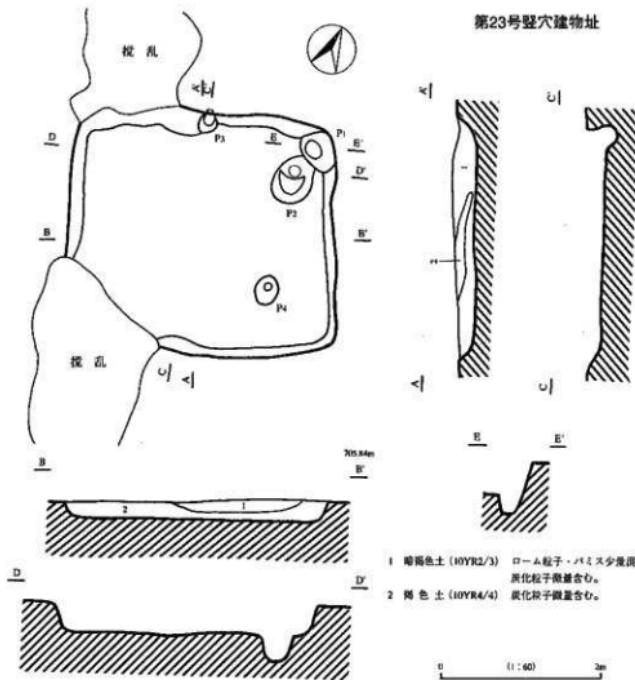
2 黄 色 土 (10YR4/4) ローム粒子・4.5cm大根石含む。

第23表 第22号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 22	検出位置	B・けー-7グリッド
遺構関係	—	平面形態	円形
面積	1.45m ²	長軸方向	N-1°-E
壁 長	壁 高		
北側壁	95cm	—	
東側壁	120cm	20.0cm	
南側壁	128cm	—	
西側壁	140cm	12.0cm	
覆土の 状 态	2 堆	床 面 の 状 态	平 頂
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
神社番号	33	回収番号	

0 (1:60) 2m

第33図 第21号・22号竪穴建物址実測図

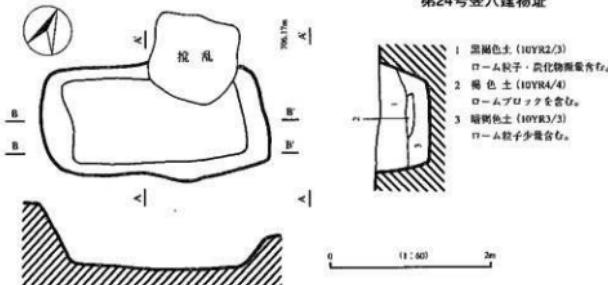


第24表 第23号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 23	検出位置	D - き - 1 グリッド		重複番号	—
			面積	(7.22m ²)		
平面形態						
方 形						
壁 長		壁 高	備 考 (その他の検討點説明・観察事項等)			
北側壁	300cm	19.0 - 25.0cm				
東側壁	250cm	14.0 - 24.0cm				
南側壁	(308cm)	12.0 - 14.0cm				
西側壁	(272cm)	19.0 - 31.5cm	探査番号	34	回収番号	12-4
覆土の状態	2 層		床面の状態	平 面		
柱 六	北壁中に1本、東北コーナー付近に2本 東南区に1本配置		出土遺物	當沿臺		

第34図 第23号竪穴建物址実測図

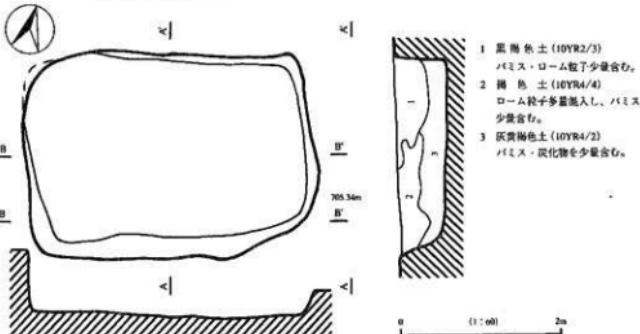
第24号竪穴建物址



第25表 第24号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 24	棟地面積	A - か-7 グリッド		直線番号	—	
			長方形	面積 (1.87m ²)			
平面形状		長方形	面積 (1.87m ²)		直線番号		
北側壁	248cm	41.0~70.0cm	備考 (その他付属施設・既存構造等)		—		
東側壁	108cm	32.0~57.0cm					
南側壁	256cm	60.0~64.0cm					
西側壁	112cm	65.0~70.0cm	持図番号	35	図版番号	—	
覆土の状態	3層、人為的		床面の状態	平坦			
柱穴	なし		出土遺物			—	

第25号竪穴建物址

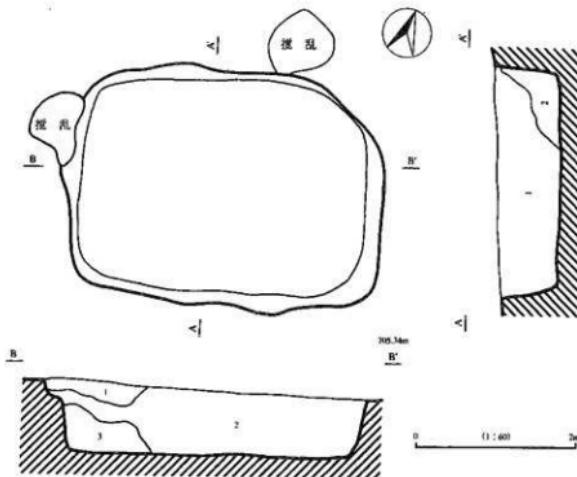


第35図 第24号・25号竪穴建物址実測図

第26表 第25号竪穴建物址計測表

通査番号	Ta 25	横出位置	A - E - 9 グリッド	裏査番号	Ta35を破壊する。	
平面形態	長方形	面 積	6.96m ²	長軸方向	N - 72° - E	
壁 長	壁 高			備 考	(その他の測定結果・観察事項等)	
北 壁	314cm	56.0~65.0cm				
東 壁	200cm	25.5~46.0cm				
南 壁	242cm	47.0~54.0cm				
西 壁	216cm	61.0~67.5cm	神田番号	35	国版番号	13-1
覆土の状態	3層、人為的		表面の状態	やや起伏あり		
柱 穴	な し		出土遺物	—		

第26号竪穴建物址



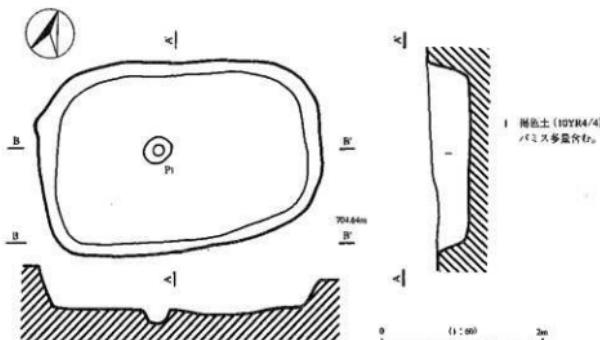
- 1 灰 黄 棕 色 土 (10YR4/2) バシス・炭化物少含む。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR6/4) バシス・ローム粒子少量含む。
- 3 灰 黄 棕 色 土 (10YR4/2) バシス少量混入し、ローム・ロック多量含む。

第36図 第26号竪穴建物址実測図

第27表 第26号豊穴建物址計測表

遺構番号	Ta 26	検出位置	D・え-1 グリッド	重複番号	—	
平面形状	長方形	面 積	8.45m ²	長軸方向	N - 73° - E	
	幅 長	幅 高		備 考	(その他付属施設・觀察小項等)	
北 傾 壁	312cm	77.5~92.0cm				
東 傾 壁	222cm	62.5~70.0cm				
南 傾 壁	352cm	63.0~70.0cm				
西 傾 壁	238cm	79.0~86.0cm	神話番号	36	図版番号	13-2
覆土の状態	3層、人為的	床面の状態				
柱 穴	なし	出土遺物	内耳土器			

第27号豊穴建物址

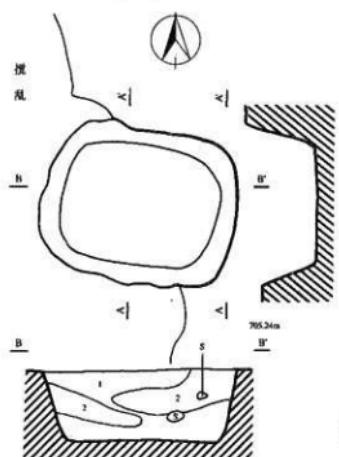


第28表 第27号豊穴建物址計測表

遺構番号	Ta 27	検出位置	D・う-3 グリッド	重複番号	—	
平面形状	隅丸長方形	面 積	5.66m ²	長軸方向	N - 59.5° - E	
	幅 長	幅 高		備 考	(その他付属施設・觀察小項等)	
北 傾 壁	306cm	48.0~53.0cm				
東 傾 壁	158cm	31.0~37.0cm				
南 傾 壁	296cm	30.0~36.0cm				
西 傾 壁	190cm	37.0~44.0cm	神話番号	37	図版番号	14-1
覆土の状態	平 層	床面の状態	平 面			
柱 穴	床面中央に1本配置	出土遺物	—			

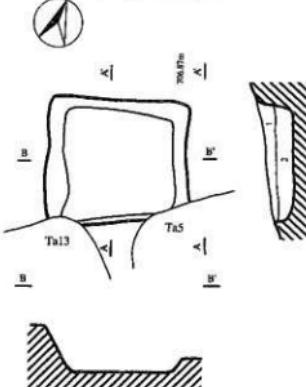
第37図 第27号豊穴建物址実測図

第28号竪穴建物址



1. にぶい黄褐色土 (10YR3/4) バニス・ローム粒子多量含む。
2. 黒褐色土 (10YR4/1) ローム粒子少量含む。

第29号竪穴建物址



1. 深褐色土 (10YR3/4) 炭化物・バニス・ローム粒子含む。
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) バニス少量含む。

第29表 第28号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 28	検出位置	D・き-4グリッド	遺構番号	Ta 29	検出位置	A・く-4グリッド
遺構面積	—	平面形態	長方形	遺構面積	Ta5,Ta13に接する	平面形態	方形
面積	2.46m ²	長軸方向	N-85°-E	面積	<1.70m ²	長軸方向	N-64°-E
壁 長	壁 高			壁 長	壁 高		
北側壁	182cm	86.0~89.5cm		北側壁	168cm	26.0~54.0cm	
東側壁	156cm	76.0~86.0cm		東側壁	(130cm)	17.0~26.0cm	
南側壁	192cm	70.5~72.0cm		南側壁	(156cm)	16.0~18.5cm	
西側壁	160cm	76.5~80.0cm		西側壁	(158cm)	36.5~54.0cm	
土の状態	2層 入石的	床面の状態	平坦	土の状態	2層	床面の状態	平坦
柱穴	なし	出土遺物	磁器器 高台付杯	柱穴	なし	出土遺物	—
備考				備考			
地図番号	38	国版番号	14-2	地図番号	38	国版番号	

第30表 第29号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 29	検出位置	A・く-4グリッド
遺構面積	Ta5,Ta13に接する	平面形態	方形
面積	<1.70m ²	長軸方向	N-64°-E
壁 長	壁 高		
北側壁	168cm	26.0~54.0cm	
東側壁	(130cm)	17.0~26.0cm	
南側壁	(156cm)	16.0~18.5cm	
西側壁	(158cm)	36.5~54.0cm	
土の状態	2層	床面の状態	平坦
柱穴	なし	出土遺物	—
備考			
地図番号	38	国版番号	

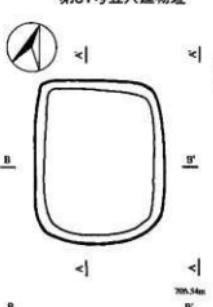
第38図 第28号・29号建物址実測図

第30号竪穴建物址



0 (1:60) 2m

第31号竪穴建物址



700.34m 0 (1:60) 2m

第31表 第30号竪穴建物址計測表

測量番号	Ta 30	検出位置	A・け-6グリッド
座標関係	—	平面形態	張り出し形
面積	4.48m ²	長軸方向	N-28°-W
壁 長		壁 高	
北側壁	216cm	26.0~36.0cm	
東側壁	160cm	22.0~44.0cm	
南側壁	232cm	34.5~41.5cm	
西側壁	144cm	24.0~49.5cm	
覆土の状態	2 層	表面の状態	平 墓
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測量番号	39	図版番号	15-1

1. 塗褐色土 (10YR3/4) 塗化物・バミス・ローム粒子含む。
2. にぶい黃褐色土 (10YR4/3) バミス少量含む。

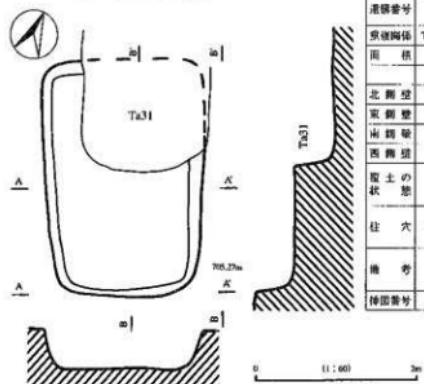
第32表 第31号竪穴建物址計測表

測量番号	Ta 31	検出位置	A・く-6グリッド
座標関係	Ta32を破壊する	平面形態	長方形
面 積	2.25m ²	長軸方向	N-22°-W
壁 長		壁 高	
北側壁	132cm	92.0~112.0cm	
東側壁	168cm	82.0~90.5cm	
南側壁	128cm	88.5~92.0cm	
西側壁	179cm	88.5~106.5cm	
覆土の状態	2 層	表面の状態	平 墓
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測量番号	39	図版番号	15-2

1. 塗褐色土 (10YR3/4) ローム粒子・塗化物含む。
2. にぶい黃褐色土 (10YR4/3) ローム粒子・バミス・約10cm大砾石含む。

第39図 第30号・31号竪穴建物址実測図

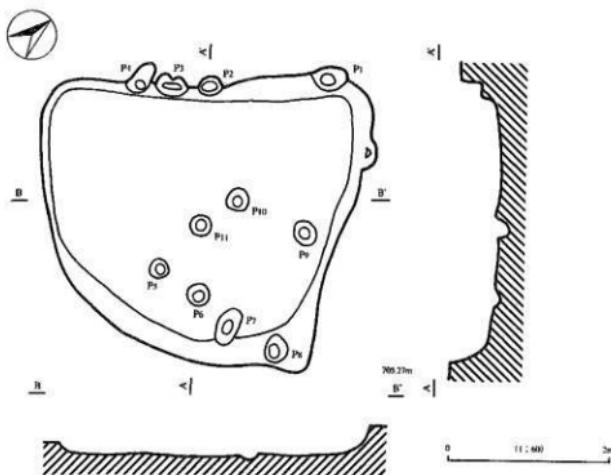
第32号竪穴建物址



第32号竪穴建物址計測表

測量番号	Ta 32	検出位置	A・C・E-6グリッド
張り脚個体	Ta31に設営される	平面形態	長方形
両 棚	(2.61m)	長軸方向	N=22°-W
壁 高		壁 高	
北 壁	(184cm)		54.5~56.5cm
東 壁	(268cm)		41.0~45.0cm
南 壁	144cm		41.0~54.5cm
西 壁	268cm		54.5~55.5cm
覆 土 の 状 態		底面の状態	平坦
柱 穴 な し		出土遺物	—
備 考			
測量番号	40	図版番号	16-1

第33号竪穴建物址

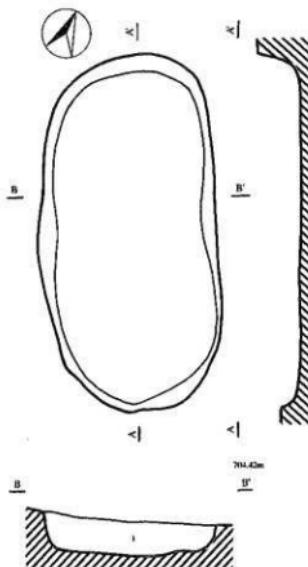


第40図 第32号・33号竪穴建物址実測図

第34表 第33号竪穴建物延計測表

遺構番号	Ta 33		検出位置 B・こ-8 グリッド	遺構番号	H3を破壊する。
	平面形状	不規方形			
	壁 長	壁 高	面 積	長軸方向	
北 側 壁	372cm	24.0~46.0cm	9.04m ²	N・39°-E	
東 側 壁	346cm	23.5~45.0cm			
南 側 壁	232cm	44.5~48.5cm			
西 側 壁	300cm	6.0~12.0cm	検査番号	40	図版番号
覆土の状態					
柱 六	北壁に4本、南壁に2本、東壁下1本、中央に3本並んで配置		床面の状態	平 坦	
			柱七造物		

第34号竪穴建物址



第35表 第34号竪穴建物延計測表

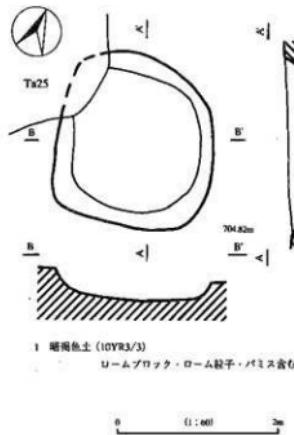
遺構番号	Ta 34		検出位置 A・い-10 グリッド	遺構番号	H3を破壊する。
	平面形状	構造			
	—	—	平面形状	構造	
北 側 壁	164cm	44.0~49.5cm			
東 側 壁	320cm	11.0~36.5cm			
南 側 壁	184cm	7.5~29.0cm			
西 側 壁	344cm	33.5~50.0cm			
覆 土 の 状 態	手 畑	床 面 の 状 態	平 坦		
柱 六	な し	出土遺物	—		
検査番号	41	図版番号			

1) 塗褐色土 (10YR3/4) バシ少量含む。

0 11.60 2m

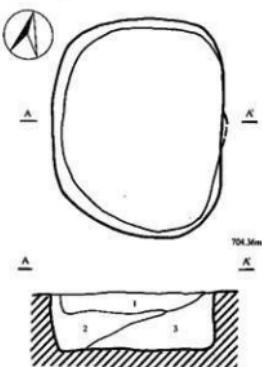
第41図 第34号竪穴建物址実測図

第35号竪穴建物址



第36表 第35号竪穴建物址計測表			
測量番号	Ta 35	検出位置	A・うー9グリッド
東偏関係	Ta25に接続される	平面形状	不整形
面積	(2.17 m ²)	長軸方向	N=13°-W
壁 高			
北側壁	(172cm)		20.0~30.0cm
東側壁	140cm		15.5~19.5cm
南側壁	152cm		15.5~23.5cm
西側壁	(168cm)		24.0~26.5cm
覆土の状態	单層	床面の状態	平坦
柱穴	なし	出土遺物	—
備考			
測量番号	42	図版番号	

第36号竪穴建物址



第37表 第36号竪穴建物址計測表

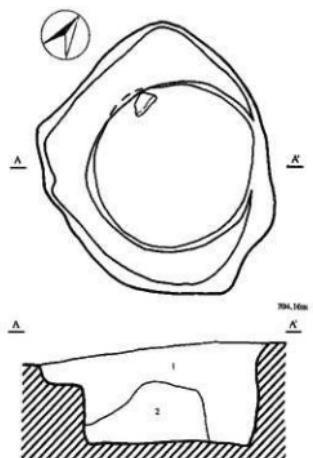
測量番号	Ta 36	検出位置	F・うー4グリッド
東偏関係	—	平面形状	椭円形
面積	4.10 m ²	長軸方向	N=17°-W
壁 高			
北側壁	160cm		67.0~69.0cm
東側壁	196cm		65.0~68.0cm
南側壁	182cm		49.5~52.5cm
西側壁	196cm		52.0~64.5cm
覆土の状態	3. 单層 人為的	床面の状態	平坦
柱穴	なし	出土遺物	—
備考			
測量番号	42	図版番号	17-1

1. にじみ青褐色土 (10YR4/3)
ローム粒子多量混入し、バミス少量含む。
2. 緑 色 土 (10YR4/6)
ローム粒子多量混入し、バミス少量含む。
3. 黄 色 土 (10YR5/6)
ローム粒子・バミス多量混入。

0 (1:60) 2m

第42図 第35号・36号竪穴建物址実測図

第37号竪穴建物址



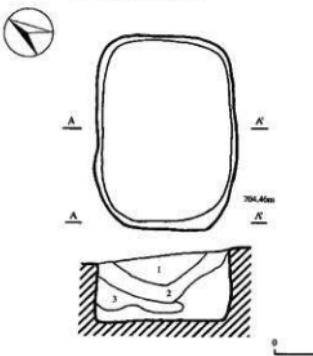
第38表 第37号竪穴建物址計測表

測量番号	Ta 37	後山位置	F・かー4グリッド
直角関係	—	平面形態	張り出し形
面積	5.11m ²	長軸方向	N-74°-W
壁 長		壁 高	
北 壁	276cm	102.0~108.0cm	
東 壁	192cm	122.0~125.0cm	
南 壁	222cm	111.5~123.5cm	
西 壁	202cm	99.5~111.5cm	
覆 土 の 状 態	2 層 人為的	底面の状態	平 坦
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測量番号	43	図版番号	17-2

1. に bei 黄褐色土 (10YR5/3) バミス・小石含む。
2. に bei 黄褐色土 (10YR5/3) バミス・小石が多量混入し、
少量の炭化物含む。

1 : 400 2m

第38号竪穴建物址



第39表 第38号竪穴建物址計測表

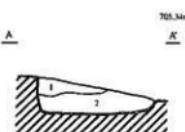
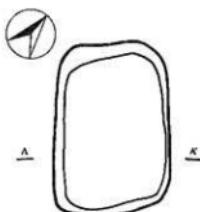
測量番号	Ta 38	後山位置	F・おー2グリッド
直角関係	—	平面形態	長方形
面積	3.18m ²	長軸方向	N-56°-E
壁 長		壁 高	
北 壁	144cm	72.5~82.5cm	
東 壁	216cm	89.0~92.0cm	
南 壁	112cm	84.0~87.5cm	
西 壁	204cm	70.0~77.0cm	
覆 土 の 状 態	3 層 人為的	底面の状態	平 順
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測量番号	43	図版番号	18-1

1 : 400 2m

1. 黄褐色土 (10YR4/2) バミス・ローム粒子多量含む。
2. に bei 黄褐色土 (10YR5/4) バミス・ローム粒子多量含む。
3. に bei 黄褐色土 (10YR5/3) ローム粒子多量混入し、バミス少量含む。
4. 黄褐色土 (10YR4/4) ローム粒子多量含む。

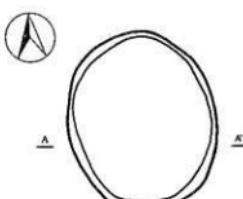
第43図 第37号・38号竪穴建物址実測図

第39号竪穴建物址



1 に赤い實測色上 (10YRA/3) パミス・ローム粒子少量含む。
2 黄 土 (10YRA/4) パミス少量・ローム粒子多量含む。

第40号竪穴建物址



0 11:00 2m

0 11:00 2m

第40表 第39号竪穴建物址計測表

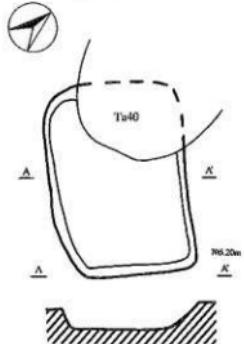
測量番号	Ta 39	抜印位置	B - c - 8 グリッド	測量番号	Ta 40	抜印位置	C - a - 10 グリッド
面積関係	HSを純粋とする	平面形態	長方形	面積関係	Ta41を純粋とする	平面形態	円形
面 積	2.05 m ²	長軸方向	N-47.5°-W	面 積	2.73 m ²	長軸方向	N-60°-W
概 長	要 高			概 長	要 高		
北 側 壁	108.5cm	36.0~39.5cm	北 側 壁	112cm	31.0~36.0cm		
東 側 壁	176cm	13.0~34.5cm	東 側 壁	196cm	34.5~40.5cm		
南 側 壁	122cm	34.5~45.0cm	南 側 壁	96cm	31.0~41.0cm		
西 側 壁	199cm	36.0~45.0cm	西 側 壁	176cm	29.0~33.0cm		
覆 土 の 状 態	2 級	底 面 の 状 態	平 坎	覆 土 の 状 態	底 面 の 状 態	平 坎	
柱 穴	な し	出土遺物	—	柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考	—	—	—	備 考	—	—	—
測量番号	44	四面番号	—	測量番号	44	四面番号	18-2

第41表 第40号竪穴建物址計測表

測量番号	Ta 40	抜印位置	C - a - 10 グリッド
面積関係	HSを純粋とする	平面形態	円形
面 積	2.73 m ²	長軸方向	N-60°-W
概 長	要 高	要 高	要 高
北 側 壁	112cm	31.0~36.0cm	
東 側 壁	196cm	34.5~40.5cm	
南 側 壁	96cm	31.0~41.0cm	
西 側 壁	176cm	29.0~33.0cm	
覆 土 の 状 態	底 面 の 状 態	平 坎	
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考	—	—	—
測量番号	44	四面番号	—

第44図 第39号・40号竪穴建物址実測図

第41号堅穴建物址

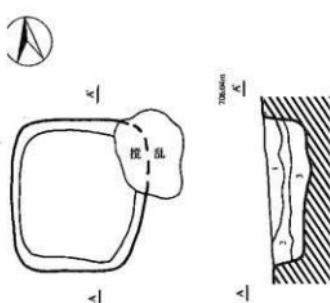


第42号 第41号堅穴建物址計測表

測量番号	Ta 41	検出位置	C・あー10グリッド
直徑開口部	Ta40に破壊される	平面形態	長方形
面 積	$\langle 2.20\text{m}^2 \rangle$	長軸方向	N=74°-W
壁 高		壁 高	
北 側 壁	(144cm)	32.5cm	
東 側 壁	(216cm)	29.0~33.5cm	
南 側 壁	132cm	25.5~31.0cm	
西 側 壁	224cm	13.5~25.5cm	
底 土 の 状 態		底 土 の 状 態	平 坦
柱 穴	なし	出土遺物	—
備 考			
測量番号	45	地図番号	

0 (1:400) 2m

第42号堅穴建物址



第43表 第42号堅穴建物址計測表

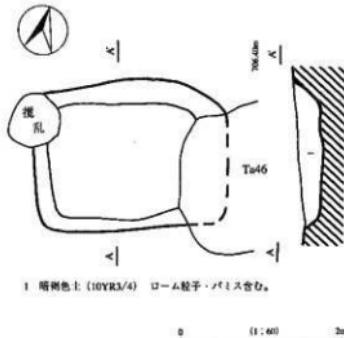
測量番号	Ta 42	検出位置	E・いー5グリッド
直徑開口部	—	平面形態	方 形
面 積	$\langle 1.95\text{m}^2 \rangle$	長軸方向	N=12°-E
壁 高		壁 高	
北 側 壁	(152cm)	43.0~60.0cm	
東 側 壁	(162cm)	27.5~32.0cm	
南 側 壁	114cm	27.5~55.0cm	
西 側 壁	166cm	55.0~60.0cm	
底 土 の 状 態	3 壁 人為的	底 土 の 状 態	起伏あり
柱 穴	なし	出土遺物	—
備 考			
測量番号	45	地図番号	19-1

0 (1:400) 2m

- 1 黄 貝 壳 土 (10YR4/2) 水化物・ローム粒子微含む。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ローム粒子多量含む。
- 3 黑 色 土 (10YR4/4) ローム粒子・バクシス多量含む。

第44図 第41号・42号堅穴建物址実測図

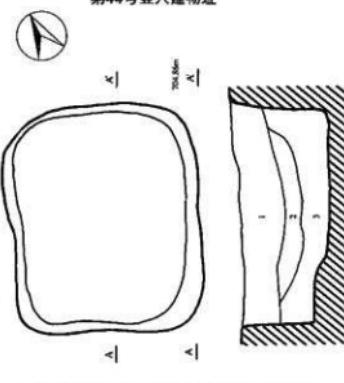
第43号竪穴建物址



第44表 第43号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 43	検出位置	A - c - 8グリッド
遺構関係	Ta46に接続される	平面形態	長方形
面 積	〈2.18m ² 〉	長軸方向	N-68°-E
		壁 長	壁 高
北 備 壁	(223cm)		31.0cm
東 備 壁	—		—
南 備 壁	(208cm)		14.0cm
西 備 壁	(164cm)		—
覆 土 の 状 態	单層	床 面 の 状 態	起伏あり
柱 穴	な し	出土物	—
備 考			
地図番号	46	図版番号	19-2

第44号竪穴建物址

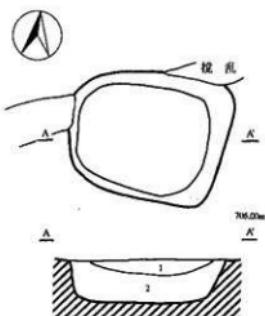


第45表 第44号竪穴建物址計測表

遺構番号	Ta 44	検出位置	F - i - 3グリッド
遺構関係	—	平面形態	長方形
面 積	4.89m ²	長軸方向	N-63°-E
		壁 長	壁 高
北 備 壁	236cm		98.5~103.0cm
東 備 壁	188cm		111.0~115.5cm
南 備 壁	234cm		99.0~105.5cm
西 備 壁	212cm		86.5~92.5cm
覆 土 の 状 態	3 層 人為的	床 面 の 状 態	起伏あり
柱 穴	な し	出土物	—
備 考			
地図番号	46	図版番号	20-1

第46図 第43号・44号竪穴建物址実測図

第45号竪穴建物址



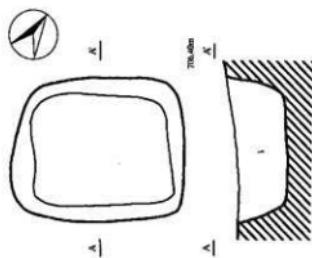
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・バクス・ $\frac{1}{2}$ cm大粒石・ロームブロック含む。
2 塔褐色土 (10YR3/3) ローム粒子・バクス・ $\frac{1}{2}$ cm大粒石・ロームブロック含む。

第46表 第45号竪穴建物址計測表

測量番号	Ta 45	検出位置	D・こ-2グリッド
直徑面積	—	平面形態	不整形
面 積	(1.80m ²)	長軸方向	N=86°-E
整 長		整 高	
北 側 壁	(198cm)	47.5-49.0cm	
東 側 壁	132cm	41.5-46.5cm	
南 側 壁	160cm	37.5-42.5cm	
西 側 壁	(46cm)	37.0-48.0cm	
覆 上 の 状 態	2 層 人為的	床 面 の 状 態	平 頂
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測量番号	47	図版番号	20-2

0 (1 : 40) 2m

第46号竪穴建物址



- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒子・ $\frac{1}{2}$ cm大粒石・黒色ブロック含む。

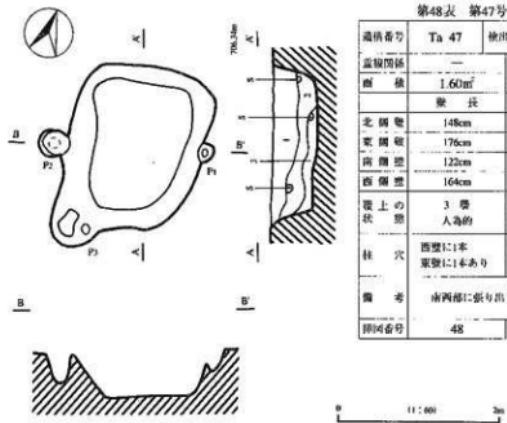
第47表 第46号竪穴建物址計測表

測量番号	Ta 46	検出位置	A・け-8グリッド
直徑面積	Ta45を破壊する	平面形態	方 形
面 積	2.19m ²	長軸方向	N=62°-E
整 長		整 高	
北 側 壁	168cm	70.0cm	
東 側 壁	150cm	—	
南 側 壁	150cm	60.0cm	
西 側 壁	146cm	—	
覆 上 の 状 態	单 層 人為的	床 面 の 状 態	平 頂
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測量番号	47	図版番号	21-1

0 (1 : 40) 2m

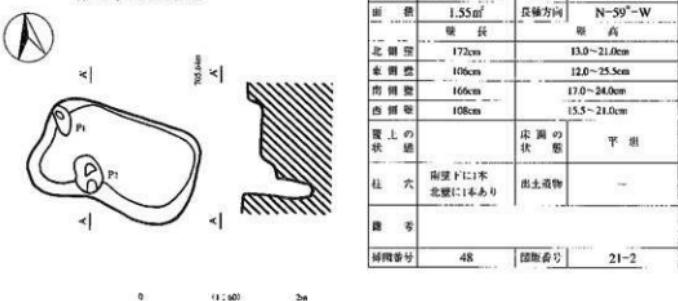
第47図 第45号・46号竪穴建物址実測図

第47号竪穴建物址



1. 断面色上 (10YR8/3) バニス・ローム粒子多量含む。
 2. 地 色 上 (10YR4/4) ローム粒子多量含む。
 3. 断面色上 (10YR3/2) バニス・ローム粒子少量含む。

第48号竪穴建物址



第48図 第47号・48号竪穴建物址実測図

第49号竪穴建物址

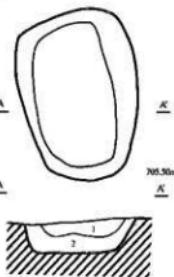


0 (1:60) 3m

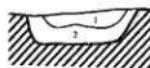
第50表 第49号竪穴建物址計測表

測量番号	Ta 49	検出位置	B・う-8グリッド
直徑面積	—	平面形状	長方形
面 積	1.28m ²	長軸方向	N=65°-E
壁 長	—	床 面 の 状 態	—
北 壁 高	182cm	柱 穴	な し
東 壁 高	102cm	出土遺物	—
南 壁 高	172cm		
西 壁 高	90cm		
覆 土 の 状 態			
柱 穴	な し		
備 考			
測量番号	49	測量番号	22-1

第50号竪穴建物址



A
K
705.5m
K



第51表 第50号竪穴建物址計測表

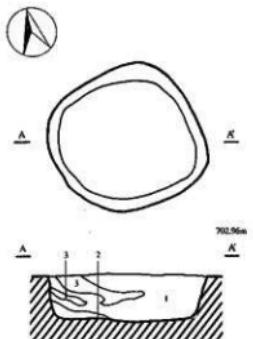
測量番号	Ta 50	検出位置	B・け-8グリッド
直徑面積	—	平面形状	楕円形
面 積	1.45m ²	長軸方向	N=18°-E
壁 長	—	床 面 の 状 態	平 面
北 壁 高	122cm	柱 穴	な し
東 壁 高	189cm	出土遺物	—
南 壁 高	80cm		
西 壁 高	108cm		
覆 土 の 状 態	2 級 人為的		
柱 穴	な し		
備 考			
測量番号	49	測量番号	

- 1 岩 間 色 上 (10YR3/4) ローム粒子・バミス含む。
2 に深い黄褐色上 (10YR3/4) ローム粒子・バミス含む。

0 (1:60) 2m

第49圖 第49号・第50号竪穴建物址実測図

第51号竪穴建物址



1 黒褐色土 (10YR2/3) バミス・ローム粒子が少量混入し、炭化物を微量含む。

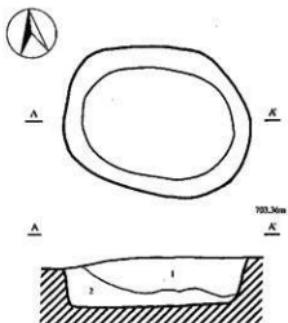
2 黒色土 (10YR2/1) バミス・ローム粒子少數含む。

3 黄褐色土 (10YR5/6) バミス・ローム粒子多量含む。

第52表 第51号竪穴建物址計測表

測定番号	Ta 51	検出位置	F・えー-6グリッド
直徑関係	—	平面形態	隅丸方形
面 積	1.86m ²	長軸方向	N-72°-E
壁 長		壁 高	
北側壁	130cm	58.5~63.5cm	
東側壁	144cm	53.0~59.0cm	
南側壁	124cm	40.0~51.5cm	
西側壁	140cm	41.5~51.0cm	
覆 土 の 状 態	3 層 人為的	底 面 の 状 態	平 坦
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測定番号	50	測定番号	22-2

第52号竪穴建物址



1 黒褐色土 (10YR2/3) バミス・ローム粒子少量混入し、炭化物を微量含む。

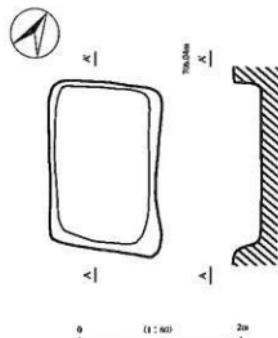
2 黒色土 (10YR2/1) バミス・炭化物を少量含む。

第53表 第52号竪穴建物址計測表

測定番号	Ta 52	検出位置	F・えー-6グリッド
直徑関係	—	平面形態	指円形
面 積	2.05m ²	長軸方向	N-63°-W
壁 長		壁 高	
北側壁	154cm	65.5~72.5cm	
東側壁	170cm	48.0~68.5cm	
南側壁	164cm	42.0~45.0cm	
西側壁	112cm	43.0~57.5cm	
覆 土 の 状 態	2 層 人為的	底 面 の 状 態	平 坦
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測定番号	50	測定番号	23-1

第50図 第51号・52号竪穴建物址実測図

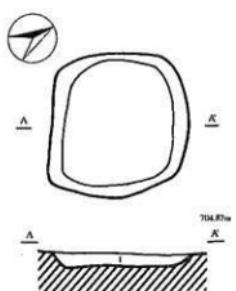
第53号竪穴建物址



第54表 第53号竪穴建物址附測表

遺構番号	Ta 53	検出位置	A・< -10グリッド
遺構関係	H6を破壊する	平面形態	長方形
面 積	2.03m ²	長軸方向	N-29°-W
壁 高		壁 面	東 四
北 側 壁	128cm		31.0~36.0cm
東 側 壁	190cm		22.0~26.0cm
南 側 壁	126cm		26.0~34.0cm
西 側 壁	188cm		23.5~33.5cm
覆 上 の 壁		床 面 の 状 態	平 面
柱 穴 な し		出土遺物	—
備 考			
構造番号	51	国際番号	

第54号竪穴建物址



第55表 第54号竪穴建物址附測表

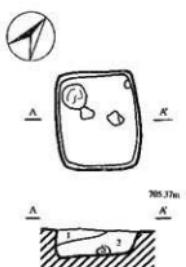
遺構番号	Ta 54	検出位置	B・< -5グリッド
遺構関係	—	平面形態	方 形
面 積	1.79m ²	長軸方向	N-59°-W
壁 高		壁 面	東 高
北 側 壁	132cm		—
東 側 壁	136cm		12.0 cm
南 側 壁	136cm		—
西 側 壁	140cm		16.0 cm
覆 上 の 壁	單 層	床 面 の 状 態	平 面
柱 穴 な し		出土遺物	—
備 考			
構造番号	51	国際番号	23-2

1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子・バミス・炭化物含む。



第51図 第53号・54号竪穴建物址実測図

第55号竪穴建物址

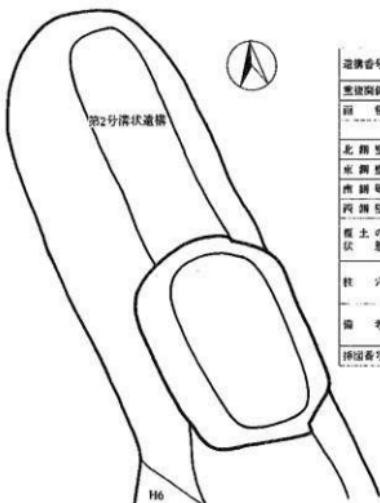


- 1 剥離色土 (GYR3/4) ローム粒子・バミス含む。
2 黄色土 (GYRA/4) ローム粒子・ $\phi 1\sim 3\text{cm}$ 大バミス混入し、 $\phi 20\text{cm}$ 大石含む。

第56表 第55号竪穴建物址計測表

測定番号	Ta 55	検出位置	B・けー2グリッド
東面開拓	—	平面形態	方 形
面 積	0.99m ²	長軸方向	N-44°-W
幅 長		標 高	
北 面 壁	84cm		24.0~33.5cm
東 面 壁	112cm		29.0~30.0cm
南 面 壁	88cm		27.0~30.0cm
西 面 壁	108cm		24.0~28.0cm
覆 土 の 状 態	2 層 人為的	床 面 の 状 態	平 面
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測定番号	52	国版番号	24-1

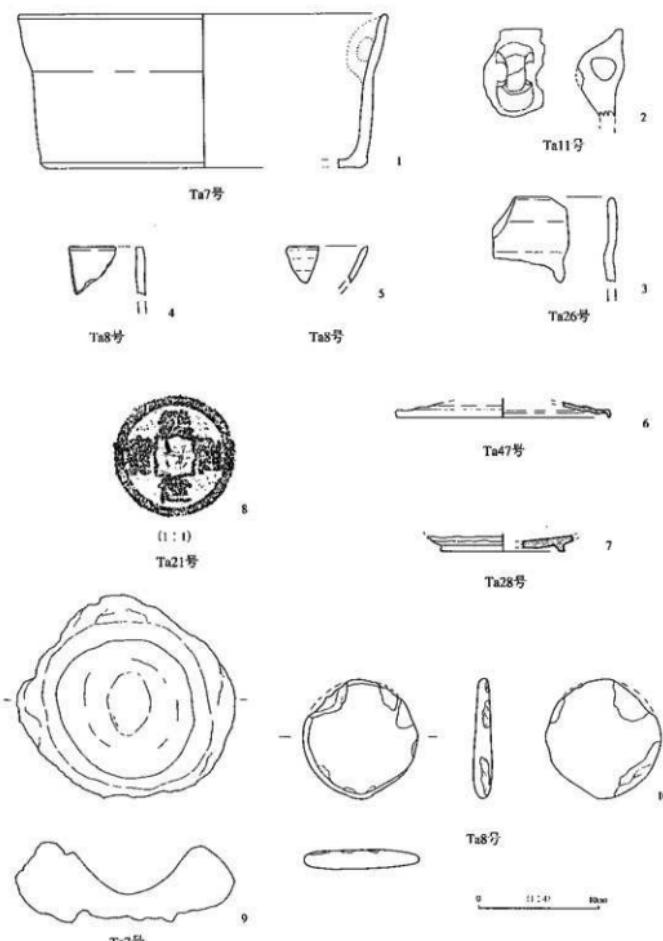
第56号竪穴建物址



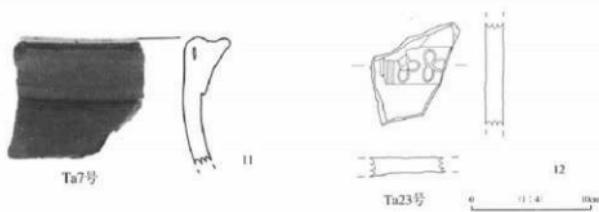
第57表 第56号竪穴建物址計測表

測定番号	Ta 56	検出位置	E・きー2グリッド
東面開拓	—	平面形態	長方形
面 積	2.41m ²	長軸方向	N-26°-W
幅 長		標 高	
北 面 壁	160cm		
東 面 壁	192cm		
南 面 壁	160cm		
西 面 壁	212cm		
覆 土 の 状 態		床 面 の 状 態	—
柱 穴	な し	出土遺物	—
備 考			
測定番号	52	国版番号	

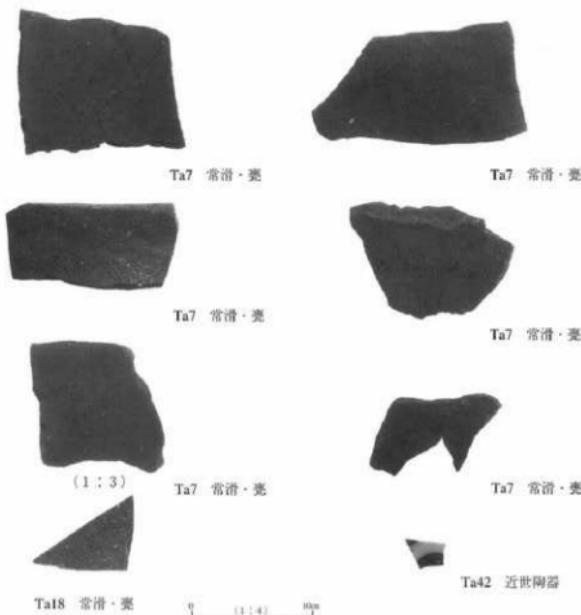
第52図 第55号・56号竪穴建物址実測図



第53图 坚穴建筑址出土遗物实测图



第54图 坚穴建筑址出土土器实测图



坚穴建筑址出土陶器類

第3節 土坑（第55図～69図、図版二十五～三十五）

池端城跡では、総数28基の土坑が検出され、時代別の検出数をみると次の通りである。

- 1) 縄文時代 3基 D 1号土坑～D 3号土坑（第55図～59図）
- 2) 平安時代 2基 D 4号土坑・D 5号土坑（第60図～61図）
- 3) 中世 23基 D 6号土坑～D 28号土坑（第62図～69図）

以上のように本遺跡から検出された28基の土坑の内、中世時代の土坑が23基と大半を占める。この中世時代の土坑の覆土堆積状況は、一様にローム粒子を多量に含む層と褐色土層とが繰り返し堆積した層であることが認められ、人為的な埋土であることが看取された。

中世時代の土坑分布は、遺跡西半の台地先端部付近から概ね確認され、地形的には台地の平坦部から傾斜する斜面上に多く構築されている。また、この土坑が存在する傾斜面上からは竪穴建物址が多数検出され、土坑との関連性が推されたが充実した資料を得ることはできなかった。

1) 縄文時代の土坑（D 1号～D 3号土坑、第55図～59図、図版二十五～二十六）

D 1号土坑（第55図～56図）は、調査区のほぼ中央付近B区か一8グリッド内に位置し、全体層序第2層上面において検出された。平面形態及び規模については、南北約1.8m、東西約90cmの不整長方形を呈する土坑であった。遺存する深さは約20～30cmを測り、掘り方の上部は削平されている。底部面の西端は約5cm程一段深く掘り窪められており（第55図・B-B'断面図）、当部からは56-1に示したほぼ完形の深鉢が出土した。また、覆土中からは56-2の深鉢・56-3の深鉢口縁部片が出土している。各深鉢の文様は56-1が波状口縁で縄文が施され、56-2は隆帯・沈線・縄文・角押文が施される。56-3は波状口縁で角押文が施される。

本土坑の所産期は、56-2・3の土器に認められる角押文の存在などから縄文時代中期初頭末と考えられる。

D 2号土坑（第57図～58図）は、B区か一8グリッド内に位置し、D 1号土坑の西隣に存在する。本址は第48号竪穴建物址と重複関係にあり、掘り方の上部大半が破壊されている。平面形態及び規模は、径約1.1mの円形を呈し、遺存する深さは30～60cmを測る。

出土遺物は、58-1～7に示した深鉢があり、その内の58-1・2・3は底部面から検出され他の4～7の深鉢は覆土中より出土した。図上復元された深鉢58-1の文様は隆帯・沈線・縄文更に陰刻・角押文が施されている。58-3は沈線・縄文・陰刻・角押文が確認される。

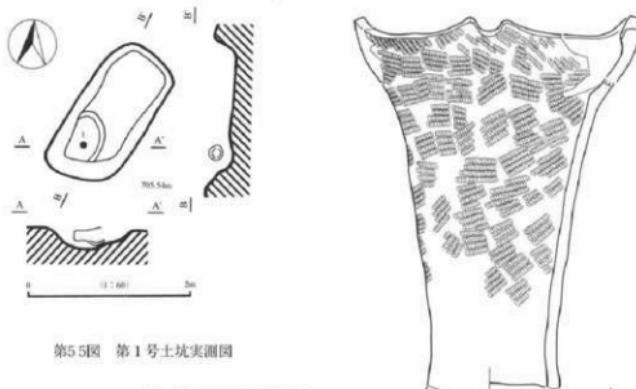
本址の所産期は、58-1・3の土器に認められる角押文の存在などからD 1号土坑とはほぼ同時期の縄文時代中期初頭末と考えられる。

D 3号土坑（第59図）は、調査区のほぼ中央付近B区か一8グリッド内から検出された。本址は第48号竪穴建物址と重複関係にあり、南端部は破壊を受けている。平面形態及び規模につ

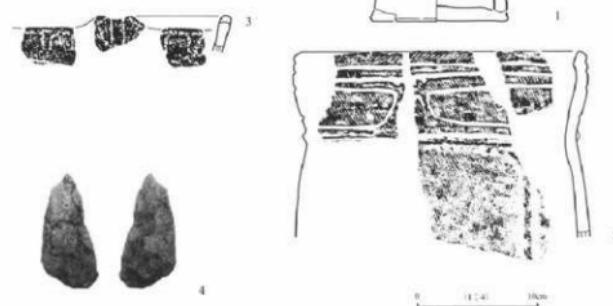
いては、残存するプランから推し東西約1.0m、南北1.7mの不整長方形を呈するものと思われる。遺存する深さは、20cm前後を測り、底部は比較的平坦面である。出土遺物は、土器類が確認されず、スケレーパー1点の他、剥片4点だけであった。

D3号土坑の所産期は、出土した遺物がスケレーパー、及び、剥片のみであること、また、第48号竪穴建物址との重複関係から推し、純文時代と考えられるのみである。

第1号土坑

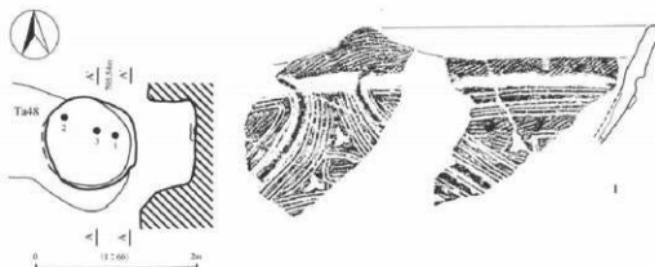


第5-5図 第1号土坑実測図



第5-6図 第1号土坑出土遺物実測図

第2号土坑

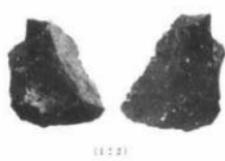


第57图 第2号土坑实测图

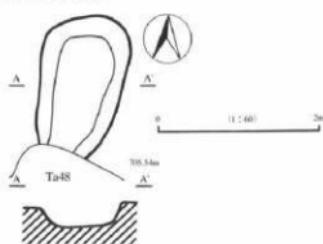


第58图 第2号土坑出土土器实测图

第3号土坑



第3号土坑出土石器

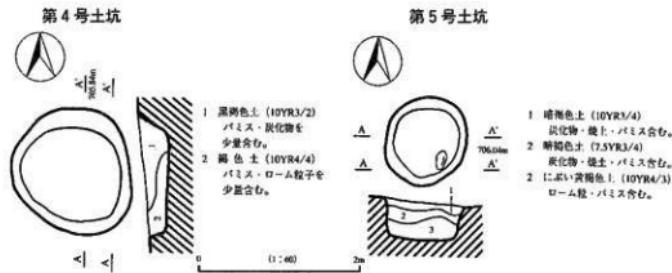


第59图 第3号土坑实测图

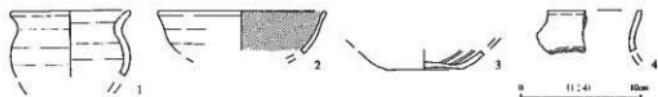
2) 平安時代の土坑 (第4号～5号土坑、第60図～61図、図版二十七)

第4号土坑 (第60図) は、調査区の南西付近F区あー7グリッド内に位置し、全体層序第3層上面において検出された。平面形態及び規模は、径約1.4mを割り不整梢円形を呈する。遺存する深さは20～40cmを測り、掘り方の上部は削平されている。本址からはロクロ甕の小片が出土したこと、また、覆土の状態が中世土坑にみられた人為的埋土でないことから平安時代であろうか。

第5号土坑 (第60図) は、調査区の東側A区きー8グリッド内に位置し、全体層序第3層上面から検出された。形態・規模は、径約1m内外で円形を呈し、遺存する深さは約40cmを測る。本址からは、土師器の小形甕1点・壺2点他が出土している。61-2の壺は内面ミガキ黒色処理がなされ、3の壺底部は回転糸切りである。本址の所産期は、覆土状況が中世土坑と違いプライマリーな堆積状況を示すこと、また、上記61-2・3の土器様相から推して平安時代中期か。



第60図 第4号～5号土坑実測図



第61図 第5号土坑出土土器実測図

3) 中世の土坑 (第6号～28号土坑、第62図～69図、図版二十八～三十五)

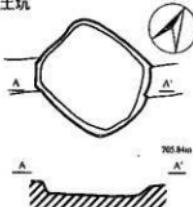
中世の土坑は23基が確認された。これらの土坑の堆積状況は前述したように大数が人為的な埋土であることが認められ、黄色・褐色のローム粒子・ロームブロックを各覆土中に含む。

出土した遺物は、土師質土器小皿・内耳土器・陶器類がある。出土量は極めて少なく、図化された遺物は69-1～10に示した10点のみである。69-1の内面黒色処理の壺、9・10の打製石斧は

混入遺物であるが、土師質土器小皿・美濃灰釉小皿(16世紀)・常滑系陶器なども造構との共伴性を肯認できるものはほとんどないが、大方が同時期に投棄されたものと思われる。

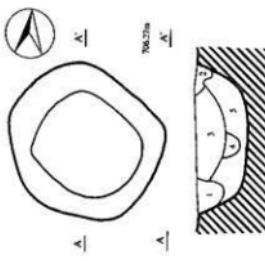
本土坑の明確な時期決定は困難であるが、土師質土器小皿とともに出土した国産陶器類(69-7・8)は土坑との一括性が肯定できるものと考えられる。従って本調査区から出土した国産陶器のあり方から土坑の所産期を推定すると、16世紀の常滑・美濃系陶器の製品が多いことが認められる。よって、23基の人為的埋土の形態を示す土坑は16世紀代か。

第6号土坑



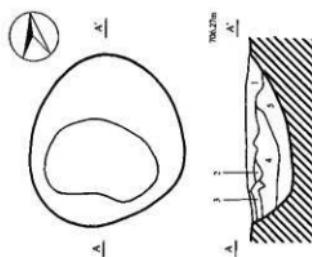
D 6号
検出位置 E-4-4グリッド
平面形状 長方形
長 横 132cm
対 横 114cm
深 さ 22cm
長軸方位 N=80°-W

第7号土坑



D 7号
検出位置 B-カ-1グリッド
平面形状 長方形
長 横 184cm
対 横 173cm
深 さ 60cm
長軸方位 N=54°-W
H2を破壊する。

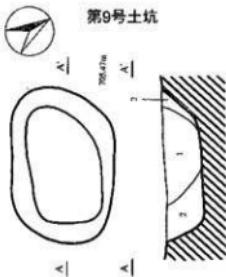
第8号土坑



D 8号
検出位置 B-お-2グリッド
平面形状 平面形
長 横 208cm
対 横 190cm
深 さ 54cm
長軸方位 N=35°-E
1. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子少含む。
2. 黑褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・炭化物少量含む。
3. 黑褐色土 (10YR4/4) ローム粒子・ミス含む。
4. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒子・
バクミス・#2~5cm大粒石含む。
5. にぶい黄褐色土 (10YR3/4) ローム粒子
ミス含む。

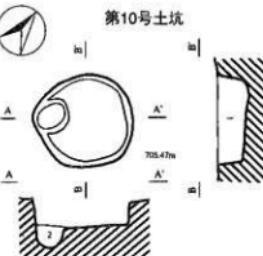
0 1m 2m

第62図 第6号・7号・8号土坑実測図



D 9号

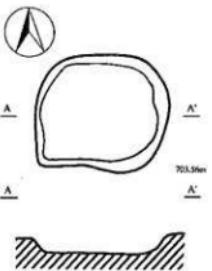
検出位置 B-2-4グリッド
平面形状 楕円形
長 軸 184cm
短 軸 126cm
深 底 42cm
長軸方位 N=52°-W



D 10号

検出位置 B-17-10グリッド
平面形状 円形
長 軸 118cm
短 軸 114cm
深 底 37cm
長軸方位 N=47°-E

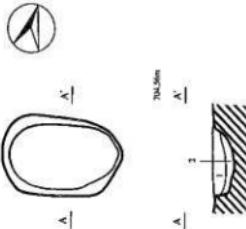
第11号土坑



D 11号

検出位置 E-1-8グリッド
平面形状 楕円形
長 軸 162cm
短 軸 138cm
深 底 24cm
長軸方位 N=81.5°-W

第12号土坑



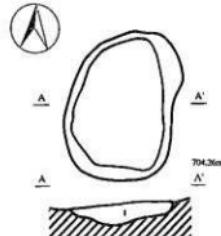
D 12号

検出位置 F-2-3グリッド
平面形状 小夢方形
長 軸 146cm
短 軸 96cm
深 底 24cm
長軸方位 N=77.5°-E

0 (1:400) 2m

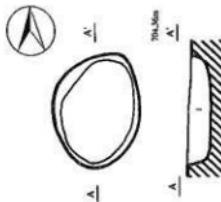
第63図 第9号・10号・11号・12号土坑実測図

第13号土坑



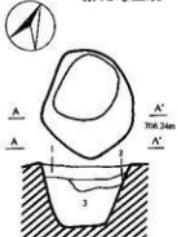
D13号
検出位置 E-お-3グリッド
平面形状 椭円形
長 軸 184cm
短 軸 128cm
深 さ 24cm
長軸方位 N-13.5°-E

第14号土坑

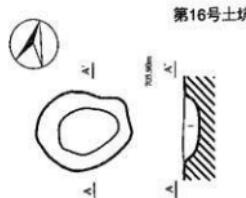


D14号
検出位置 E-え-2グリッド
平面形状 椭円形
長 軸 132cm
短 軸 104cm
深 さ 27cm
長軸方位 N-7.5°-W

第15号土坑



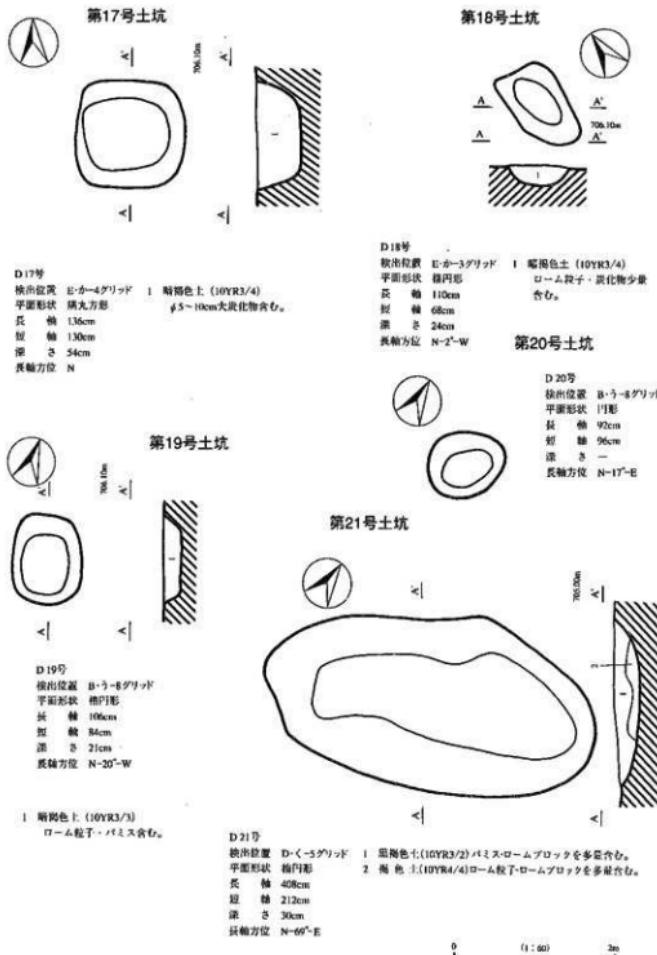
D15号
検出位置 E-い-4グリッド
平面形状 四角形
長 軸 118cm
短 軸 110cm
深 さ 72cm
長軸方位 N-3.5°-W



D16号
検出位置 E-か-4グリッド
平面形状 四角形
長 軸 106cm
短 軸 84cm
深 さ 18cm
長軸方位 N-76°-W

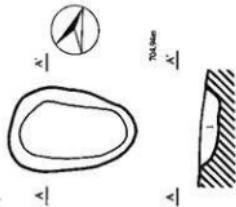
8 (1:60)

第64図 第13号・14号・15号・16号土坑実測図



第65図 第17号・18号・19号・20号・21号土坑実測図

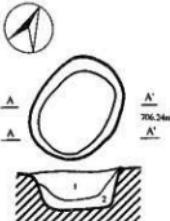
第22号土坑



D 22号
検出位置 D-2-2グリッド
平面形状 扇円形
長 軸 156cm
短 軸 92cm
深 底 23cm
長軸方位 N-74°-E

I にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
バクス多量混入し炭化粒子
微量含む。

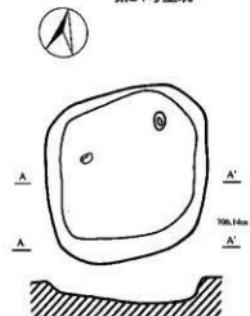
第23号土坑



D 23号
検出位置 A-4-2グリッド
平面形状 扇円形
長 軸 128cm
短 軸 90cm
深 底 42cm
長軸方位 N
東Hを遮蔽する

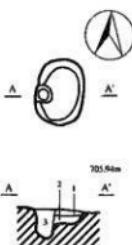
I 黒褐色土 (10YR2/3)
ローム粒子・バクス・ $\phi 2\sim 5$ cm大
粗石を含む。

第24号土坑



D 24号
検出位置 E-3-3グリッド
平面形状 條丸形
長 軸 206cm
短 軸 192cm
深 底 34cm
長軸方位 N-16°-W

第25号土坑



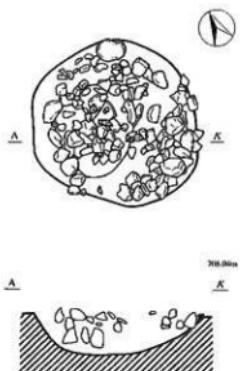
D 25号
検出位置 F-4-2グリッド
平面形状 條円形
長 軸 78cm
短 軸 58cm
深 底 36cm
長軸方位 N-5°-W

I 暗褐色土 (10YR3/3)
粗石・ゼーム粒子・炭化物・鐵土を含む。
2 必褐色土 (5YR4/6) 塵土。
3 黑褐色土 (10YR2/3)
 $\phi 3$ cm大鉄石・炭化物が混入し、
底上粒子少量含む。

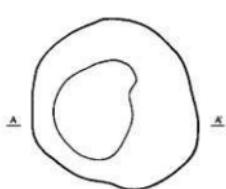
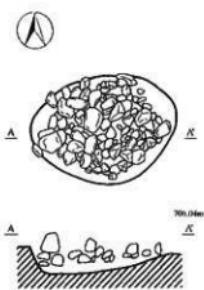
0 (1:60) 3m

第66図 第22号・23号・24号・25号土坑実測図

第26号土坑



第27号土坑



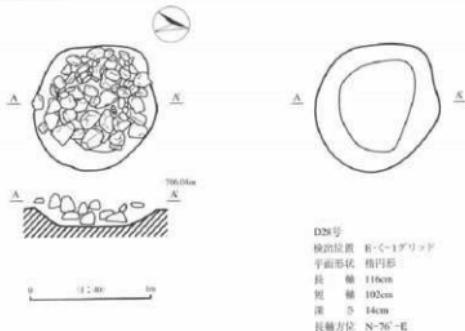
D26号
検出位置 E-4グリッド
平面形状 円形
長 横 138cm
短 横 130cm
深 さ 34cm
長軸方位 N=14°-W

D27号
検出位置 E-4グリッド
平面形状 円形
長 横 111cm
短 横 92cm
深 さ 20cm
長軸方位 N=45°-E

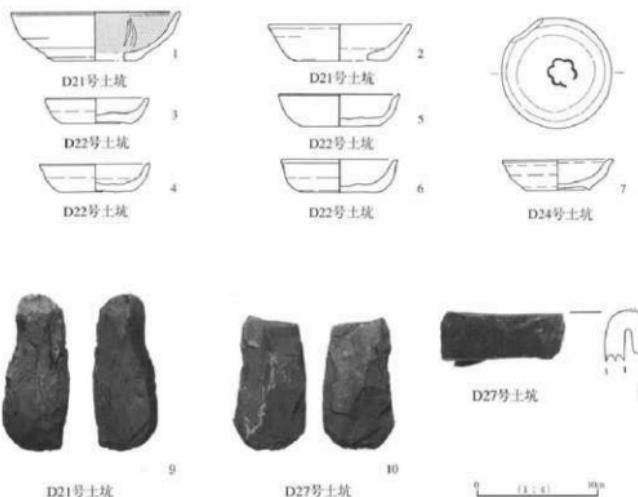
0 10 20 cm

第67図 第26号・27号土坑実測図

第28号土坑



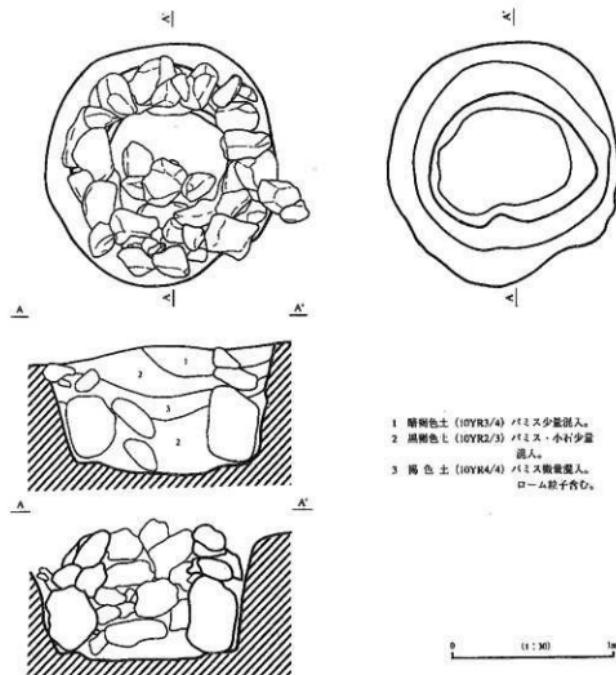
第68图 第28号土坑实测图



第69图 土坑出土遗物实测图实测图

第4節 井戸址（第70図、図版三十六）

1) 第1号井戸址 調査区内からは井戸址が1基確認された。本址は調査区西側の南寄り端部F区えー7・8グリッド内に位置し、全体層序第2層上面において検出された。地形的には、堅穴建物址・土坑が傾斜地に添って帯状に存在する最端部から確認された。規模・形態は、円形を呈し、径約1.5m内外を測る。残存する深さは約80cmで上部は削平されている。内部の石積は確認面下70cmの所でテラス状に段部が構築され、ここより石積が組まれている。本址の明確な時期は出土遺物が1点もなく困難であるが、近接して検出された堅穴建物址等の存在から推して中世か。



第70図 第1号井戸址実測図

第5節 溝状遺構（第71図～75図、図版三十八～四十）

本調査では、第71図～第74図に示した5基の溝状遺構が検出された。5基の内、第1号～第4号の溝状遺構はいずれも幅2～3m、深さ約50～80cmを測り、南北方向へほぼ直線的に掘り込まれている。最全長は第1号溝状遺構で29mを測る。第2号溝状遺構は、南側が破壊されているもののその残存状況から推し、第1号より大きな規模の溝状遺構であったことが考えられる。また、第3号溝状遺構・第4号溝状遺構は幅2m内外、全長10m前後とやや小規模である。

これらは一部自然堆積と考えられる状況が看取されるものの、大方が人為的な埋没状況を示す点、また、底部面の一部が貼り床状の堅い面を形成する点など共通した特徴をもつ。また、出土遺物は全体的には少ないながらも、16世紀代の国産陶器類、内耳土器、北宋銭、土師質土器の小片などが出土しており、検出された5基の溝状遺構が遺存した時期を総括的にみると中世後半と考えられる。因に、第2号溝状遺構は、北側の掘り込み内に長方形の竪穴建物址(Ta 56号)を有しており同時併存の可能性もあり得る。

第1号溝状遺構 本址は調査区の西側C区内に位置し、台地の傾斜面上から検出された。遺構は南北方向に走る傾斜地の地形に沿って構築されている。M1号溝址と重複関係にあり、中央部付近を破壊している。規模は全長290m、幅2.3mを測り、深度は約50～60cm内外である。底面は比較的平坦ながらも丸みを帯び、グリッドい・うー5・6付近は貼床状に堅い面が確認された。

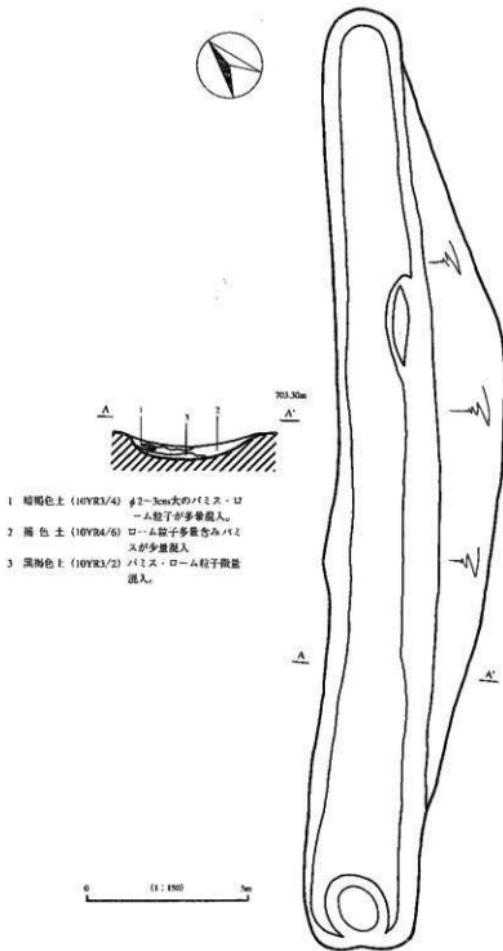
出土遺物は内耳土器(75-3)、北宋銭(75-1)、寛永通寶(75-2)などが出土している。

第2号溝状遺構 本址は調査区の中央やや南側E区内に位置し、第3号溝状遺構と並走している。台地の平坦部から検出されたが、遺構の南側は破壊されており旧状を留めていない。残存する規模は全長25.5m、幅約2m内外を測り、深度は70cm前後である。底面は若干丸みを呈し、グリッドかー3・4付近は、貼床状に堅い。出土遺物は内耳土器・土師質土器の小片がある。

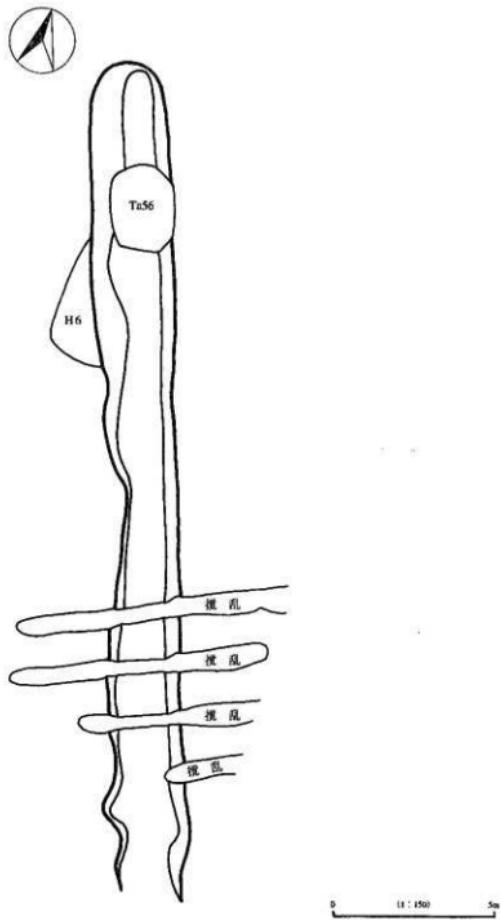
第3号溝状遺構 本址は調査区の中央やや南側E区内に位置し、第2号溝状遺構と並走している。規模は全長10m、幅2mで、深度約70～80cmである。底面の断面形状は「W字型」を呈しておりグリッドかー4付近は堅くしまっている。出土遺物は内耳土器の小片が出土した。

第4号溝状遺構 本址は調査区の東側中央付近A区内に位置する。遺構は東側の南北方向に走る緩やかな傾斜面に沿って構築されている。規模は全長7.5m、幅約2mを測り、深度は約40cmである。底面は若干丸みを帯び、直上部からは内耳土器の小片・美濃灰釉の小片が出土した。

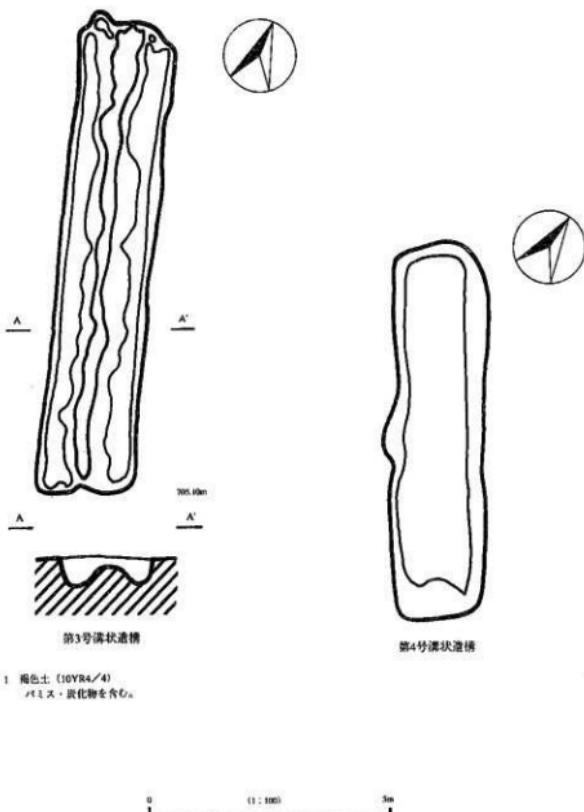
第5号溝状遺構 本址は調査区の南側E区内に位置し、台地の傾斜面上から検出された。遺構は東西方面に走る傾斜地の地形に沿って構築されている。規模は全長22.5m、幅1.2mを測り、深度は30～50cmである。出土遺物は凹石(75-7)、角釘(75-8)などがある。



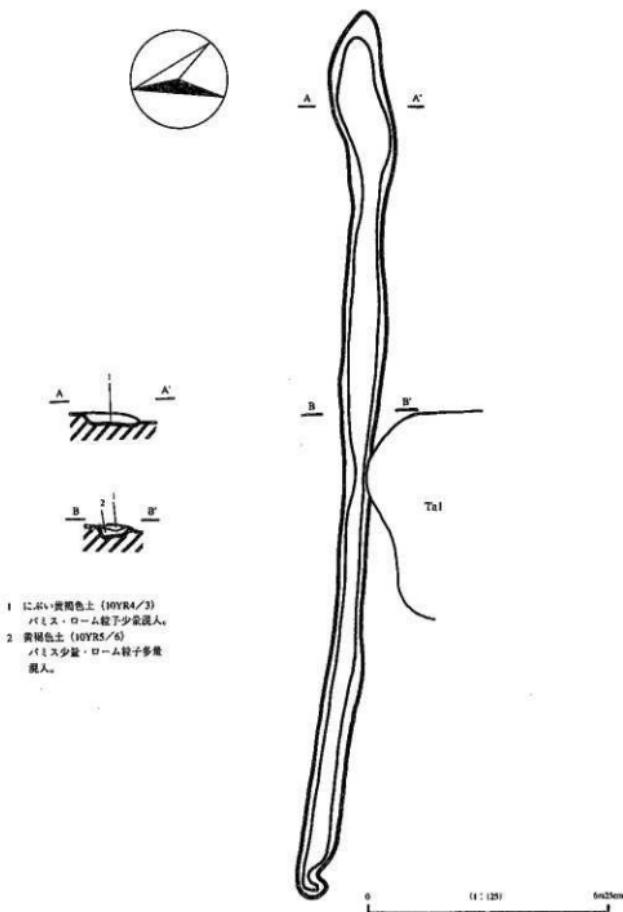
第71図 第1号溝状遺構実測図



第72圖 第2号鼎状遗構実測図



第73図 第3号・第4号溝状造構実測図



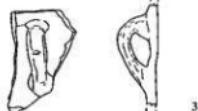
第74図 第5号溝状遺構実測図



第1号椭状遗構



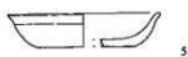
第1号椭状遗構



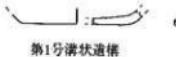
第1号椭状遗構



第1号椭状遗構



第1号椭状遗構



第1号椭状遗構



第5号椭状遗構



第5号椭状遗構



第5号椭状遗構

0 1:40 10mm

第7.5圖 椭状遗構出土遺物实测图



溝状遺構・M1号溝址出土陶磁器類

第6節 溝 壴 (第76図～77図、図版四十一)

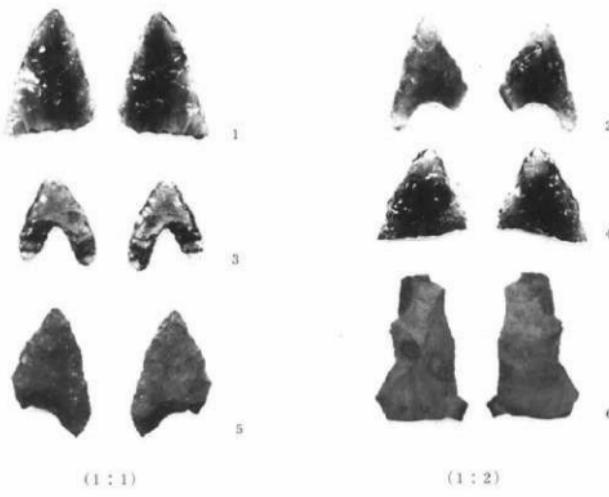
M1号溝址 本址は調査区の北側B・C区内に位置し、台地の平坦部から傾斜面上にかけて存在する。遺構は調査区の北側中央部付近を起点とし、西側の調査区域外へと縱断している。幅は起点付近で約1.3m、西側の調査区外となる地点では約12mと幅が広くなる。深さは起点付近で約60cm、西側で約2.4mとかなりの落差をもつ。遺物は石器類、縄文土器片の外は76-3・4の混入遺物がある。縄文土器片は2点ありいずれも深鉢である。76-1は地文に縄文を

施し隆帯による区画や、2～4条の沈線により文様が描かれる縄文時代中期初頭の土器文様を示す。また、76—2は鱗状圧痕を地文に、隆帯や沈線による文様が描かれる縄文時代中期中葉の土器様相である。

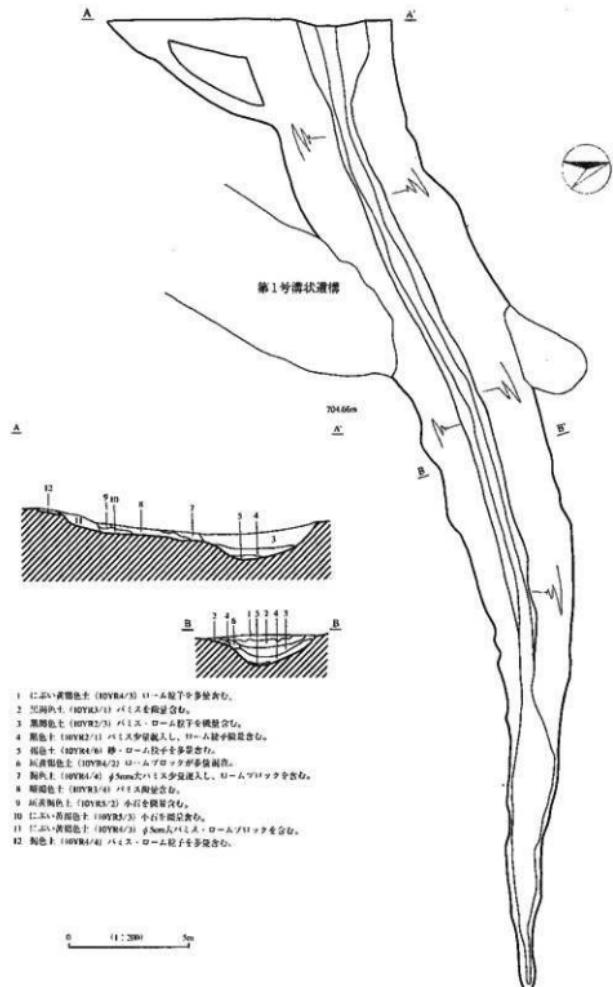
以上のことなどから本址は、D 1～D 3号土坑、及び、H 3号住居址とほぼ同時期に存在した沢であることが推測される。



第7-6図 M1号溝址出土遺物実測図



M1号溝址出土石器類



第77図 M1号溝址実測図

第7節 ピット群（第78図～82図）

本遺跡から検出されたピットの総数は約90箇である。これらのピットは調査区の中央やや西寄りに集中して確認され、下記するピットA・B・C群とした地区以外からは検出されなかつた。

第3図全体図でみるとB区、及び、E区に集中しており、この地点を更に拡大した第79図でみるとA・B・Cの各群に分散して集中する傾向にある。そして、存在するA・B・Cのピット群はいずれも台地の平坦面から傾斜地に変わる寸前で確認されている。中でもA群のエリアは、台地の平坦面が舌状に一段高くなる地形に分布し、他の2群に比べ径約50cm内外のやや大きいピットが密集して検出された。これらピットA・B・C群から検出された約半数のピット覆土は、人為的埋没状況を示す。したがって、第78図に図化した2の底部穿孔型土器外3点等も遺構との共伴性は少ないことが考えられる。これらのピットが所属した明確な時期決定はなされないが推測としては、調査区内から出土した国産陶器の年代傾向から判断して16世紀代であろうか。

ピットA群（第80図）

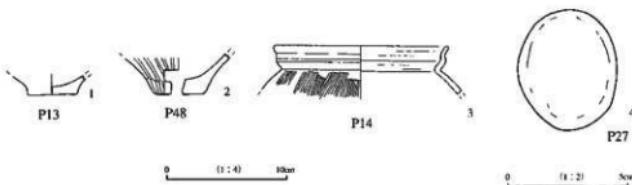
調査区の中央南寄りE区内に位置し、前述のように台地の平坦部が約1～1.8mの段差をもつて舌状に高くなる地形の先端部である。本地点には第2号溝状遺構、及び、第3号溝状遺構が南北方向に並走し、その脇にピットA群が密集する。そして、この段部の前方は傾斜面がほぼ遺跡の台地を一周する形で存在し、この傾斜面に沿って堅穴建物址が多く検出される。

ピットB群（第81図）

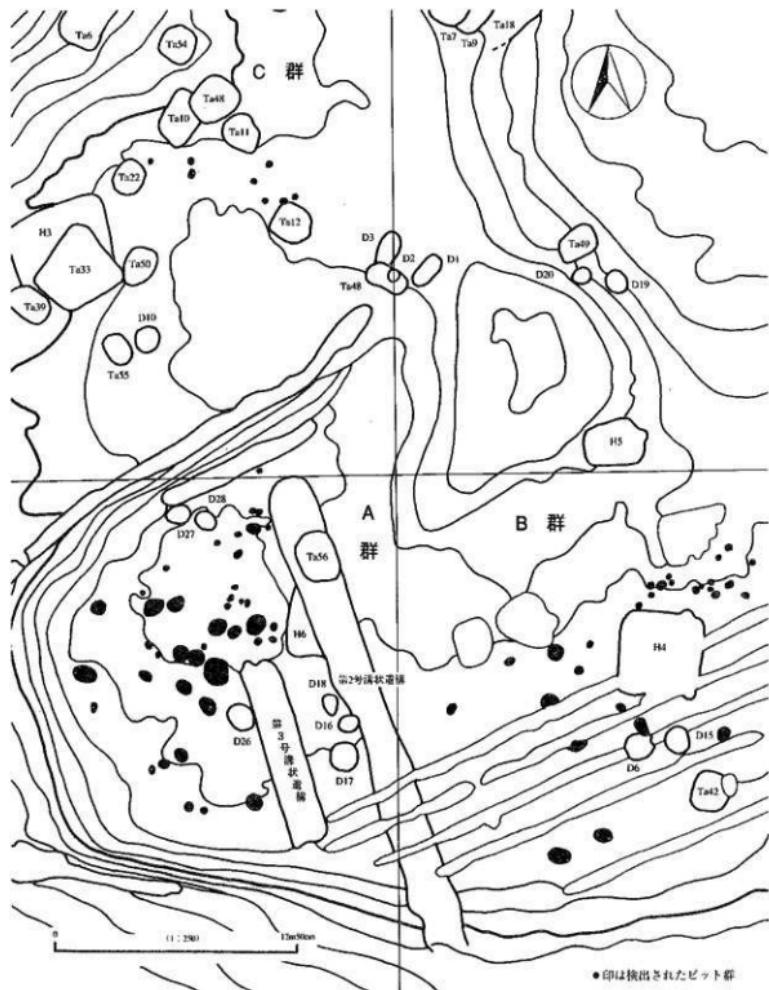
調査区の中央付近E区内に位置し、台地の南端部より検出された。ピットB群は、A群と隣接しているが、検出されるピットの密度はA群と比べ少なく、径20～30cm大のピットがその大半を占める。また、本群の周辺付近は、他遺構の存在も極めて少なくなるエリアである。

ピットC群（第82図）

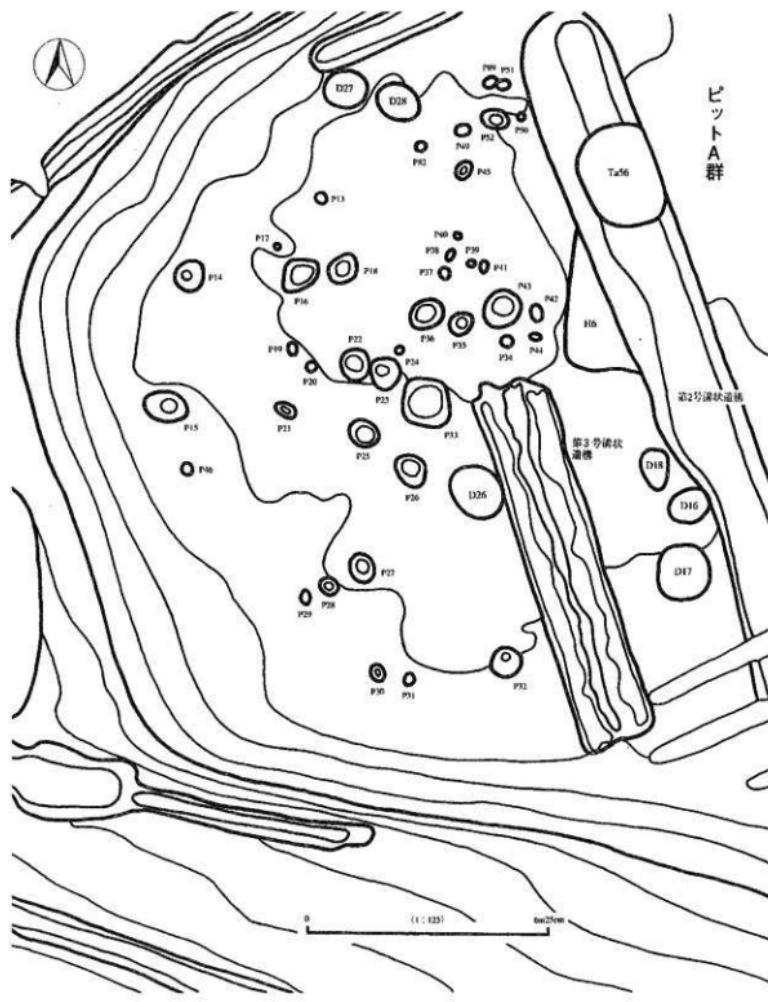
調査区の中央西側B区内に位置する。本群は、比較的小規模（径20～25cm内外）のピットが点在し、密集度もA・B群に比べ少ない。このC群内のピット覆土は主に黒褐色土（10YR 3/2）である。



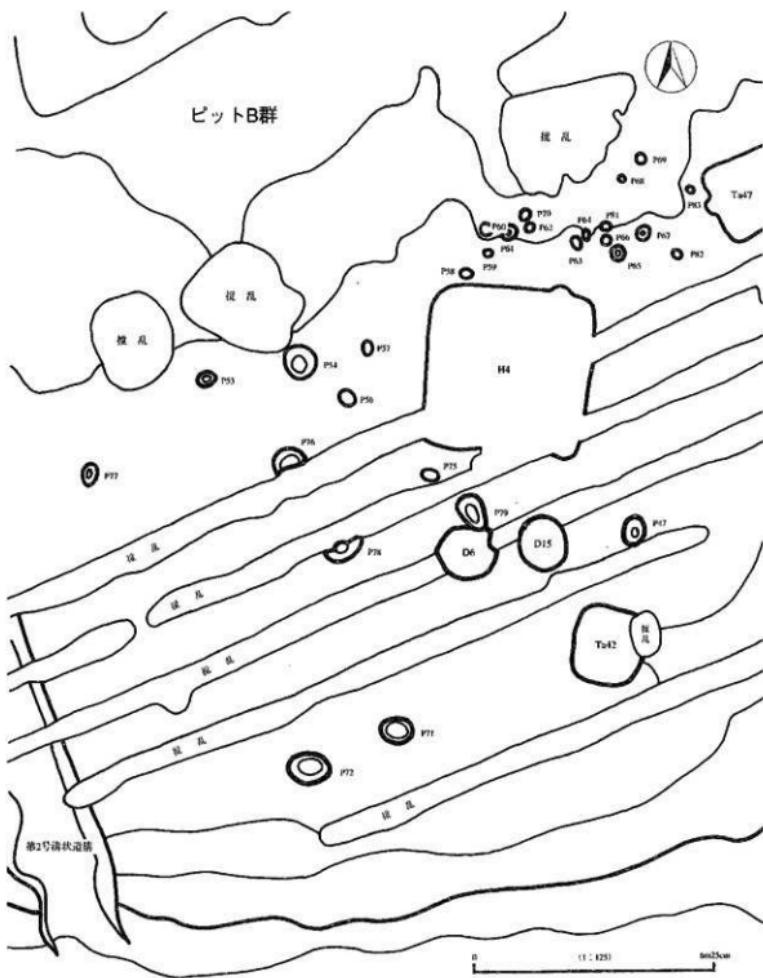
第78図 ピット群出土遺物実測図



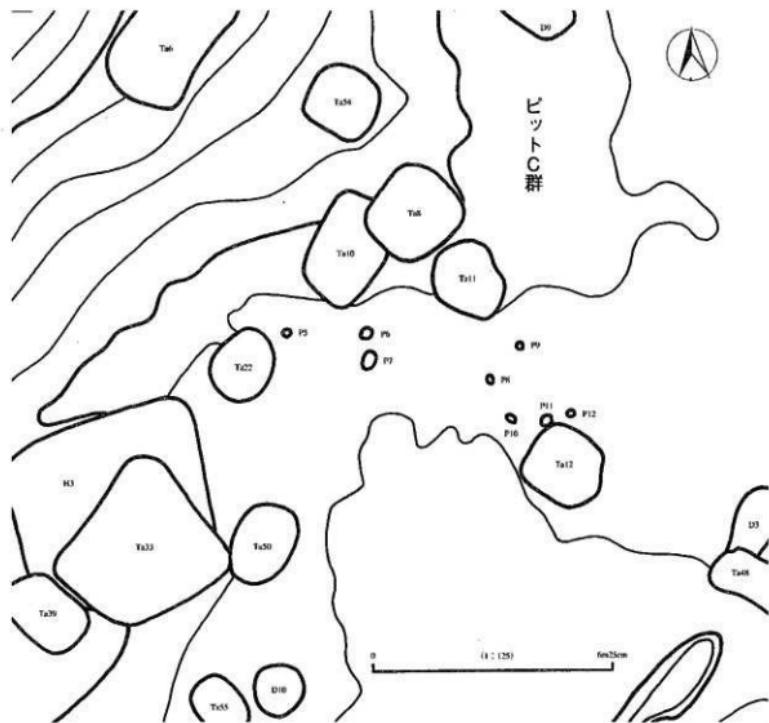
第79図 ピットA群・B群・C群全体図



第80図 ピットA群拡大図



第81図 ビットB群拡大図



第82図 ピットC群拡大図

第8節 グリッド・表探遺物（第83図・84図）

グリッド及び表探遺物については、縄文土器、石器、土師器、内耳土器、古銭（北宋錢）、角釘、碁石状の石、砥石、中世～現代にかけての陶器、磁器が出土した。時期別には、中世遺物が多く、次いで平安、縄文時代である。縄文土器は4点あり、いずれも深鉢形で84-23は鱗状圧痕を地文に、陸帯や沈線による文様が描かれる中期中葉の土器、84-24・26は地文に縄文を施し、84-25は波状沈線を多用する土器群（後沖式土器）に比定される縄文時代中期中葉の様相を呈する。

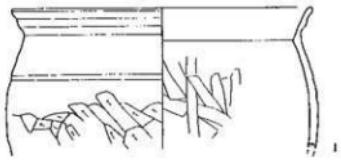
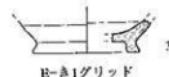


表 採



D-か5グリッド



E-き1グリッド



表 採



D-か5グリッド

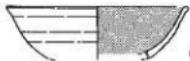


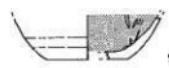
表 採



表 採



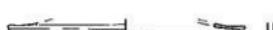
D-く4グリッド



D-く5グリッド



E-え4グリッド



D-く4グリッド

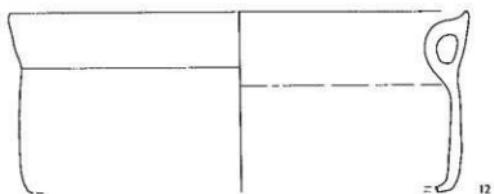
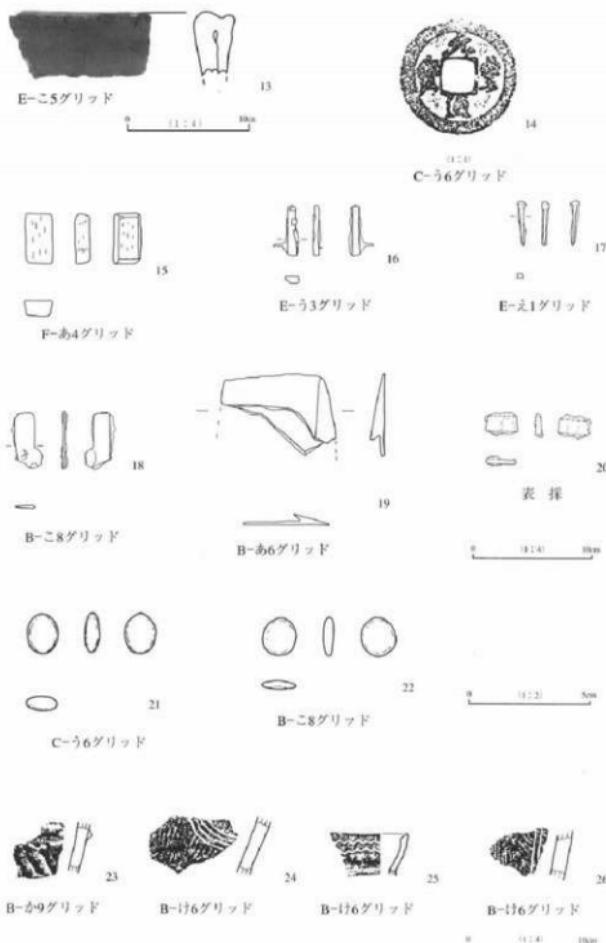


表 採

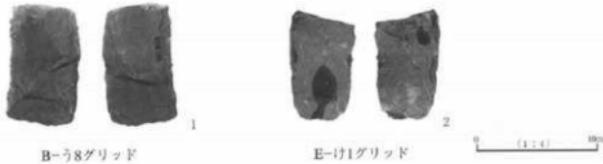
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

第83図 グリッド・表採出土土器実測図

(1 : 2)



第84図 グリッド・表採出土遺物実測図



グリット・表探出土石器

池端城跡出土土器・石器類・陶磁器類観察表

H1号住居址

辨別 番号	器種	法量			器形の特徴	調査	備考	
		口径	深さ	底径				
7-1	土器裏	14.7	(20.4)	—	口縁部はぐくの字状を呈する。 肩はなで肩で、最大径は胴部上位に位置する。	内面口縁部は27ナメ、胴部はハケメの他複数の凹凸があります。 外側口縁部はハケメの他ミナメ、肩上半周にはハケメの凹凸、肩下半周にはハケメの凹凸があります。	色調 5YR5/4 にぬ・赤褐色 粘土・白色粒子を多量含む。 火照による焼付着が見られる。	
7-2	S字状 台付裏	(12.2)	(5.0)	—	口縁端部は比較的平坦面を有する。 横幅の有無は波片のため不明。	内面口縁部は23ナメ、胴部はナメ。 外側口縁部は23ナメ、胴部はハケメ。	色調 7.5 YR6/4 にぬ・褐色 粘土・約1~2mm 白色粒子を多量含む。 砂粒・長石を含む。	
7-3	土器 腰台	(7.7)	(4.4)	—	器受部は内寄外傾して立ち上がる。 器受部中央の貫通穿孔は径 1.1 ~ 1.2cm を測る。	内面口受部はハラガキ、貫孔はハケメ。 外側口受部はハケメの後ナメ、腰部は腰位のハラガキ。	色調 5YR7/4 褐色 粘土・白色粒子・砂粒を多量含む。	
7-4	土器 高环	(9.2)	(5.0)	—	外部輪郭を呈し、内寄気球に立ち上がる。	内外面ハラガキ、赤色地彩が施される。	色調 7.5 YR5/3 にぬ・褐色 粘土・沙粒・長石を含む。	
7-5	繩文 盤	—	(4.8)	—	(文様) 陰帯・沈模・繩文。		色調 7.5 YR5/4 にぬ・褐色 粘土・黑色粒子・白雲母・長石を多量含む。 中期粘土(混入遺物)	
7-6	繩文 盤	—	(5.6)	—	(文様) 陰帯・沈模・繩文。		色調 2.5 YR5/6 明赤褐色 粘土・金碧石・長石・石英を多量含む。 中期粘土(混入遺物)	
材質		長さ	幅	厚さ	重量	備考		
7-7	石盤	黒耀石	1.8	1.5	0.5	0.5		

H2号住居址

辨別 番号	器種	法量			器形の特徴	調査	備考
		口径	深さ	底径			
H2-1	S字形 台付裏	10.0	(14.0)	—	口縁部は比較的平坦面を有する。 横幅の存在が確認でき認められる。 ハケメは弱く、最大径は胴部上位に位置する。	内面ナメ。 外側口縁部はハラナメ、胴部、脚部はハケメ。	色調 3.5 YR2/4 にぬ・褐色 粘土・白色粒子を多量含む。 約1m 以下の白色粒子を微量含む。 火照は認められない。
H2-2	小型 丸底裏	(9.6)	(6.4)	3.0	底部の外輪郭中央は握持孔となる凹孔を有する。 口縁部は垂直表面に立ち上がり、最大径は(2)縁部-立筋-手すり部-底面-底盤部大抵(25%)。	内外面 ハラガキ。赤色地彩が施される。	色調 5YR6/4 にぬ・褐色 粘土・砂粒を多量含む、長石を含む。 以撲離されている。

井戸番号	器種	法 量			器形の特徴	調査	備考
		口 径	器 高	底 径			
II-1	小型丸底盤	—	(4.5)	—	口辺部はやかに外傾する。口部は底部の膨大部より同様と思われる。	(内面) 口辺部はやかに外傾する。口部は底部の膨大部より同様と思われる。	色調 5Y R6/8 棕色 粘土 砂粒を多量含む。長石を含む。
II-4	土 葵 盤	11.5	4.9	4.0	口辺部は内側気泡に立ち上がり、口唇部はやかに外反する。	(内面) 口辺部はやかに外傾する。口部は底部の膨大部より同様と思われる。	色調 7.5 Y R6/4 に近い褐色 粘土 砂粒を多量含む。長石を含む。
II-5	土 蒔 卵	14.8	4.7	6.4	口辺部は内側に立ち上がり、口唇部はやかに外反する。底部内部に中央凸状を呈する。	(内面) 口辺部はやかに外傾する。口部は底部の膨大部より同様と思われる。	色調 5Y R6/4 に近い褐色 粘土 #1~2mmの白色粒子を微細に含む。
II-6	土 蒔 卵	12.8	3.7	5.4	口辺部は内側に立ち上がり、口唇部はやかに外反する。	(内面) ニオナ、黒色地裡。 (底面) 回転水印	色調 7.5 Y R6/4 に近い褐色 粘土 #1~2mmの白色粒子を微細に含む。砂粒・長石を含む。表面に細かな凹凸がある。
II-7	土 蒔 卵	—	(1.6)	6.1	底部	(内面) ニオナ、 (外面) 底部は切妻の後アーチ	色調 7.5 Y R6/6 棕色 粘土 砂粒を含む。
II-8	土 蒔 卵	—	(1.6)	3.8	手握ぬ	(内面) 底部は指による網目、爪痕 (外面) ナテ	色調 7.5 Y R6/4 に近い褐色 粘土 #1~2mmの白色粒子を多量含む 砂粒・長石を含む。
II-9	土 蒔 卵	—	(2.0)	7.6	底部外周に本業痕	(内面) ヘタナ (外面) 网状シルクメ、底部はヘタ切	色調 5Y R6/6 棕色 粘土 #1~2mmの白色粒子を多量含む 砂粒を含む。
II-10	土 蒔 卵	—	(1.7)	6.0	底部	(内面) ナテ (底面) ヘタ切の後、ナテ	色調 7.5 Y R6/4 に近い褐色 粘土 #1~2mmの白色粒子を多量含む 砂粒・長石を含む。
II-11	編 文 鉢	—	(7.4)	—	(文様) 弦帯・波状状模	—	色調 5Y R4/8 棕褐色 粘土 白色母・赤茶・長石を多量含む 中粗中筋 (混入量少)
II-12	編 文 鉢	—	(5.4)	—	(文様) 区割唐草・沈縞・波状比縞・斜行沈縞	—	色調 5Y R4/6 棕褐色 粘土 #1~2mmの白色粒子を多量含む 中粗中筋 (混入量少)
II-13	編 文 鉢	—	(4.8)	—	(文様) 角界文	—	色調 7.5 Y R6/2 棕色 粘土 #1~2mmの白色粒子、墨基材、石 英を多量含む 中粗中筋 (混入量少)
材 质			長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
II-14	磨 石	輝石安山岩	14.5	6.5	7.3	990.2	使用面数3面
II-15	磨 石	輝石安山岩	10.2	8.4	3.9	527.7	使用面数4面
II-16	砾 石	流 繙 岩	11.0	7.0	3.7	508.6	使用面数4面
II-17	墨石状 石製品	泥質粘板岩	1.4	1.3	0.4	1.1	丁寧に整形され研磨されている。 墨基石と思われる

H3号住居址

井戸番号	器種	法 量			文 様	備 考
		口 径	器 高	底 径		
III-1	編 文 鉢	(18.8)	(19.0)	—	肥厚口縁・尚文	色調 2.5 YR4/6 棕褐色 粘土 白色母・長石・砂粒を含む 中粗粗底

H4号住居址

辨認 番号	器種	法量			器形の特徴	調査	備考
		口径	縦高	底径			
H7-1	上 部 尖	(14.4)	(14.7)	-	口縁部はく字形を呈する 外側は口縁部はコナデ、底部はハラズ	内面) ヨコナデ 外側) 口縁部はく字形を呈する	色調 5Y R6/4 に近い褐色 胎土 #1~2mmの赤色粒子を多量含む
H7-2	上 部 錐	(20.8)	(7.7)	-	口縁部はく字形を呈する 外側は口縁部はコナデ、底部はハラズ	内面) 口縁部はコナデ、底部はナデ 外側) 口縁部はコナデ、底部はハラズ	色調 7.5 YR5/4 に近い褐色 胎土 #1~2mmの赤色粒子を多量含む 砂粒、長石を含む
H7-3	上 部 尖	(19.4)	(5.7)	-	口縁部はく字形を呈する 外側は口縁部はコナデ、底部はハラズ	内面) ヨコナデ 外側) 口縁部はコナデ、底部はハラズ	色調 5Y R5/4 に近い褐色 胎土 #1~2mmの赤色粒子を含む 砂粒、長石を含む
H7-4	上 部 錐	(21.6)	(5.2)	-	口縁部はく字形を呈する 外側は口縁部はコナデ、底部はナデ	内面) ヨコナデ 外側) ロクロコナデ	色調 7.5 YR5/4 に近い褐色 胎土 #1~2mmの白色粒子を含む
H7-5	上 部 平	(14.8)	(4.3)	-	口縁部は直線的に外傾し、 口縁部で外反する	内面) 口縁部はミガキ、体部はナデ 外側) ナデ	色調 7.5 YR5/4 に近い褐色 胎土 #1~2mmの赤色粒子を多量含む 砂粒、長石を含む よく擦耗されている
H7-6	上 部 錐	(26.0)	(5.1)	-	口縁部はく字形を呈する	内外面) ヨコナデ	色調 5Y R6/4 に近い褐色 胎土 #1~2mmの白色粒子を含む
H7-7	S字状 器 合付	(13.6)	(1.5)	-	口縁部はS字状を呈する	内外面) ヨコナデ	色調 7.5 YR7/3 に近い褐色 胎土 #1~2mmの赤色粒子を多量含む よく擦耗されている

H6号住居址

辨認 番号	器種	法量			器形の特徴	調査	備考
		口径	縦高	底径			
21-1	灰 陶 杯	(16.0)	(3.6)	-	口辺部は内凹して立ち上がり、 口唇部でやや外反する	内外面) ヨコナデ	色調 N8/0 灰白色 胎土 密
21-2	土 陶 杯	(11.6)	4.1	(6.0)	口辺部は内凹して立ち上がり、 口唇部で外反する	内外面) ヨコナデ 底部) 回転系切	色調 7.5 YR6/4 に近い褐色 胎土 砂粒、長石を含む

堅穴建物址

造 作 場 所	辨 認 番 号	器種	法量			器形の特徴	調査	備考
			口径	縦高	底径			
Ta2号 堅穴建物址	33-1	内耳 土 器	(30.0)	12.5	(25.8)	体部は直立して、口縁部は外傾する	内外面) ナデ	色調 7.5 YR4/3 褐色 胎土 #1~2mmの赤色粒子を多量含む 砂粒、長石を含む
Ta11号 堅穴建物址	33-1	内耳 土 器	-	(7.2)	-	内耳部	内外面) ナデ	色調 7.5 YR5/4 に近い褐色 胎土 #1~2mmの赤色粒子を多量含む 砂粒、長石を含む よく擦耗されている
Ta26号 堅穴建物址	33-3	内耳 土 器	-	(7.0)	-	口縁部	内外面) ナデ	色調 5Y R6/4 に近い褐色 胎土 砂粒、長石、石英を含む
Ta30号 堅穴建物址	33-4	内耳 土 器	-	(4.0)	-	口縁部	内外面) ナデ	色調 7.5 YR5/4 に近い褐色 胎土 砂粒、長石を含む
Ta38号 堅穴建物址	33-3	土器質 小 皿	-	(3.0)	-	口縁部	内外面) ヨコナデ	色調 5Y R7/4 に近い褐色 胎土 #1~2mmの赤色粒子を多量含む
Ta47号 堅穴建物址	33-4	陶 器	(17.4)	(1.3)	-	口縁部	内外面) ヨコナデ	色調 2.5 Y5/1 貴灰色 胎土 白色粒子を多量含む
Ta28号 堅穴建物址	33-7	陶 器 合 付	-	(1.3)	(10.2)	高台付	内面) ヨコナデ 外側) 体部ヨコナデ 底部) 回転系切	色調 色 胎土 白色粒子を多量含む、 砂粒、長石を含む 内外面) 残存付着

類	博國 番号	器種	銘名(字体)	初踏年(西暦)	時代	直 径	重 量	鏡 方	備 考
Ta21号 豊火建物址	33-1	古 鏡	天壇元寶(?)	仁宗天聖元年 (1023)	北宋	2.5	3.75	圓	
材 質									
長さ 幅 厚さ 重量									
Ta7号 豊火建物址	33-4	凹 石	輕 石	17.8	16.6	6.4	393.0		
Ta8号 豊火建物址	33-9	円板状 石製品	凝灰岩	9.8	9.7	2.0	227.4		使 用 面数2面
法 尺									
口径 帯高 底径 器形の特徴									
Ta7号 豊火建物址	34-1	常 清 窓	-	<10.0	-	口縁部は折れ返しによる幅広い口縁帶 があり、口縁部の端縁に突出が見らる	内外面	口縁部はコナデ 斜部はナデ	
Ta23号 豊火建物址	34-2	常 清 窓	-	(8.4)	-	側面部	内外面	ナゲ	色調 5Y R 6/6 褐色 胎土 白色粘土を多量含む 石英・砂粒を含む

土 坑

遺 様	博國 番号	器種	法 尺			文 样				備 考
			口径	带高	底径					
D1 号 土 坑	56-1	楕 文 鏡	23.8	31.0	11.0	波状口縁・椭文				色調 7.5 Y R 4/3 黄褐色 胎土 粘土・石英・長石を多量含む 金葉脈を含む・中期初期
	56-2	楕 文 鏡	25.0	(17.2)	-	蝶帶・沈縁・椭文・角押文				色調 2.5 Y R 4/6 赤褐色 胎土 粘土・石英・長石を多量含む 金葉脈を含む・中期初期
	56-3	楕 文 鏡	-	(4.4)	-	波状口縁・角押文				色調 2.5 Y R 5/6 黄赤褐色 胎土 粘土・石英・長石を多量含む 中期初期
	材 質			長さ	幅	厚さ	重 量			
	56-4	打 織 石 刻	安山岩	9.5	4.4	1.5	58.8			
法 尺										
口径 带高 底径 文 样										
D 2 号 土 坑	58-1	楕 文 鏡	-	(14.8)	-	蝶帶・沈縁・椭文・陰刻・角押文				色調 5Y R 5/6 斜赤褐色 胎土 金葉脈・石英・長石を多量含む 中期初期
	58-2	楕 文 鏡	24.2	(11.4)	-	突起・沈縁・椭文				色調 7.5 Y R 4/4 黄褐色 胎土 粘土・長石・砂粒を含む 中期初期
	58-3	楕 文 鏡	-	(19.6)	11.0	沈縁・椭文・陰刻・角押文				色調 5Y R 5/6 明赤褐色 胎土 白色粘土・黑色斑点を多量含む 中期初期
	58-4	楕 文 鏡	-	(6.0)	-	沈縁・椭文				色調 5Y R 5/6 明赤褐色 胎土 石英・長石・砂粒を含む 中期初期
	58-5	楕 文 鏡	-	(4.2)	-	蝶帶・沈縁・椭文				色調 5Y R 4/1 に近い黄褐色 胎土 粘土・石英・長石・砂粒を含む 中期初期
	58-6	楕 文 鏡	-	(4.6)	--	沈縁・椭文				色調 7.5 Y R 4/4 黄褐色 胎土 砂粒を多量含む 中期初期
	58-7	楕 文 鏡	-	(5.0)	-	李散竹等による平彫起線・交互刻突				色調 5Y R 4/1 赤褐色 胎土 金葉脈・石英・長石を含む 中期初期

造 構	辨別 番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
D 3号 上 坑	#-1	打 破 斧	黑色微密安山岩	《5.0》	4.6	1.7	40.0	
				法 番	器形の特徴	調 整		備 考
				口 径 隆 高 底 径				
D 5号 土 坑	#-1	土 鞭 坎	(9.6) (5.4)	-	口縁部は「く」字形を呈する	内面) ナデ 外側) 白緑色はコナア、 鋼鉄はナア	色調 75 YR 6/4 にみる褐色 鉄土 白色粒子を多量含む 赤色粒子・砂粒を含む	
	#-1	土 鞭 坎	(13.6) (3.5)	-	口縁部は内寄して立ち上がり、 口唇部はやや外反する	内面) 黒色地盤ナデ 外側) ナデ	色調 75 YR 5/4 にみる褐色 鉄土 白色粒子・砂粒を含む	
	#-1	土 鞭 坎	-	(1.5) (6.2)	底部	内面) 鋸齿のヘラガギ 外側) ナデ 底部) 回転系切	色調 75 YR 5/4 にみる褐色 鉄土 白色粒子・砂粒を含む	
	#-4	土 鞭 坎	-	(3.5)	-	口縁部	内外面) ハコナデ	色調 5Y R 5/4 にみる褐色 鉄土 砂粒・長石を含む
造 構				法 番	器形の特徴	調 整		備 考
				口 径 隆 高 底 径				
D 21号 土 坑	#-1	上 鞭 坎	(14.0)	4.0	(6.8)	口縁部は直線的に立ち上がり、 口縁部は直線的に立ち外反する	内面) 黒色地盤、口縁部は鋸齿の ヘラガギ、半径不明の端丸 外側) ハコナデ	色調 75 YR 6/4 にみる褐色 鉄土 白色粒子・黑色粒子・ 砂粒を含む
	#-1	上 鞭 坎 小 田	(11.6)	3.0	(7.4)	口縁部は直線的に立ち上がり、 底部は直線的に立ち上がる。 口唇部は外反する。	内外面) ハコナデ 底部) 回転系切	色調 75 YR 7/4 にみる褐色 鉄土 #1~2mmの白色粒子多量含む 砂粒を含む
D 22号 土 坑	#-1	上 鞭 坎 黑 里	7.8	2.2	6.3	口縁部は内寄して立ち上がり、 口縁部は外反する。器向はやや厚い。	内外面) ハコナデ 底部) 回転系切	色調 5Y R 7/4 にみる褐色 鉄土 白色粒子・黑色粒子・ 長石・砂粒を含む
	#-4	土 鞭 坎 小 田	8.0	2.1	5.5	口縁部は内寄して立ち上がり、 器内は厚い。	内外面) ハコナデ 底部) 回転系切	色調 75 Y R 7/4 にみる褐色 鉄土 白色粒子・赤色粒子・ 砂粒を含む
	#-3	土 鞭 坎 小 田	(10.0)	2.6	(6.4)	口縁部は内寄して立ち上がり、 口唇部は外反する。器向はやや厚い。	内外面) ハコナデ 底部) 回転系切	色調 7.5 Y R 8/3 浅米褐色 鉄土 白色粒子・砂粒を多量含む
	#-4	土 鞭 坎 小 田	(9.6)	2.7	(6.0)	口縁部は内寄して立ち上がり、 口唇部は外反する。器向はやや厚い。	内外面) ハコナデ 底部) 回転系切	色調 7.5 Y R 8/3 浅米褐色 鉄土 #1~2mmの白色粒子・ 砂粒を含む
D 24号 土 坑	#-1	火 漆 大 小 里	9.0	2.5	5.4	口縁部は内寄して立ち上がり、 器内中央に極度の隙間みを有する。 器内には鉛錫三角形を呈する小さな高台 を有する。	ナーネ内面) ガギ、外側体溝下 半圓輪(ハケヅ)、企面施輪	色調 7.5 Y R 8/2 灰白色 鉄土 7.5 Y 7/3 浅米黄色 有 烧跡がされている 15~20
D 27号 土 坑	#-1	常 浩 第	-	(3.6)	-	口縁部は折れ返しによる傾斜(口縁部 を有する)。	内外面) ハコナデ	色調 7.5 Y R 7/4 浅米褐色 鉄土 #1~2mmの白色粒子を 多量含む
溝状造構								
造 構	辨別 番号	器種	銘名(字体)	初年(西暦)	時代	直 径	重 量	説 方
第 1 号 溝状造構	75-1	古 錡	黑字元寶(真)	神宗熙寧元年 (1068)	北宋	2.5	3.0	説
	75-2	古 錡	寛 水 通 青 (新・3期)	元祐10年～嘉祐4年 (1067～1074) 明和4年～天明元年 (1767～1781)	江戸	2.4	2.8	對

遺 墓 標	標 本 号	器 形	法 量			器形の特徴	調 整	備 考
			口 横	器 高	底 径			
第 1 号 滑状遺跡	75-1	内耳器	—	(8.7)	—	内耳部分	内外面)ナマ	色調 5Y R6/4 にぬ-褐色 粘土 白色粒子-砂粒を多量 含む
	75-4	上 韶 环	—	(2.5)	7.0	底部	内外面)ナマ	色調 7.5 YR7/4 にぬ-褐色 粘土 白色粒子-砂粒-長石 含む
	75-5	上 韶 环	(12.4)	(2.6)	(7.5)	体表面は内凹して立ち上がり吻合部は 外傾する。器内はやや厚い。	内外面) 汁(ナマ) 底部) 回転点切跡	色調 7.5 YR8/3 滑状褐色 粘土 #1-2mmの赤色粒子、 砂粒を含む
	75-6	上 韶 环	—	(1.2)	(8.4)	底部	内外面) ロコナマ 底部) 回転点切跡	色調 7.5 YR7/4 にぬ-褐色 粘土 赤色粒子-砂粒を含む
材 質 長 さ 幅 厚 さ 重 量								
第 5 号 滑状遺跡	75-7	凹 石	板 石	7.0	7.0	3.3	38.9	
	75-8	角 钉	铁	4.2	0.9	0.7	3.0	
	75-9	不 明	铁	3.8	3.7	0.9	16.9	
法 量 (口径 器高 底径)								
文 標								
M 1 号 滑 痘	76-1	縄 溝 文 鉢	—	(2.5)	—	沈底-縄文		色調 2.5 YR5/6 明赤褐色 粘土 石英-長石を多量含む 小颗粒
	76-2	縄 溝 文 鉢	—	(2.4)	—	沈底-縄状压痕		色調 2.5 YR4/6 赤褐色 粘土 #1-2mmの白色粒子、 金雲母-石英を含む 中颗粒
	76-3	平 引 金 具	铁	6.5	2.9	0.8	22.5	
	76-4	翫 管 (板口)	铜	7.7	0.8	0.8	9.9	
M 1 号 滑 痘 出 土 石 石 器 類	1 石 瓶	黑 煙 石	2.6	(2.0)	0.5	1.4	一部欠損	
	2 石 瓶	黑 煙 石	2.3	(1.7)	0.7	1.1	一部欠損	
	3 石 瓶	黑 煙 石	1.9	1.6	0.4	0.6		
	4 石 瓶	黑 煙 石	(1.9)	(1.8)	1.6	1.2	一部欠損	
	5 石 瓶	チャート	2.5	(1.9)	1.5	1.5	一部欠損	
	6 刻 片	チャート	6.0	3.8	0.9	12.9		

ピット群

遺構 名	器種 番号	法 量	器形の特徴		調 整	備 考		
			口径	器高	底径			
P13号 ピット	7F-1	土 器 小切底	-	(1.5)	(4.0)	底部	内外面) ナデ 底部) ヘラ切りの後、ナデ 色調 2.5 Y5/4 黄褐色 胎土 白色粒子を多量含む 砂粒を含む	
P14号 ピット	7F-3	S字状 口縁 台付底	(140)	(3.9)	-	口縁部はS字状を呈し、 外反する。	内外面) ヨコナデ 外側) 口縁部はヨコナデ 調整はハゲメ 色調 2.5 YR8/4 淡黄褐色 胎土 白色粒子を多量含む 砂粒を含む	
P48号 ピット	7F-2	土師 底部 丸型 土器	-	(3.3)	3.8	底部は中央に約1.1 ~ 1.2cmの貫通孔を有する。	内外面) 横段のヘラミガキ 外側) 縦段のヘラミガキ 底部) ヘラ切りの後、ヘラミガキ 色調 7.5 YR7/4 に近い褐色 胎土 白色粒子を多量含む 砂粒・長石を含む	
		材質	大きさ	幅	厚さ	重量	備 考	
P27号 ピット	7F-4	陶 形 不 石器品	石美安山岩	5.0	4.05	4.0	121.8	便途不明

グリッド・表採

グリッド 番号	器種 番号	法 量	器形の特徴		調 整	備 考	
			口径	器高	底径		
F区	B-1	土師 亮	(244)	(1.5)	-	口縁部は「く」の字に外反する。	内外面) 口縁部はコナデ、底部はヘラナデ 外側) 口縁部は「く」の字に外反する。 調整はハゲメ 色調 5YR6/4 に近い褐色 胎土 白色粒子・砂粒・長石を含む
Dか5	B-2	土師 高台付 环	(152)	7.0	7.0	高台付粘。口辺部は内凹して立ち上 がり、口縁部は外反する。	内外面) 黒色地巻、腹段のヘラミガキ 外側) ヨコナデ 底部) 同軸部切削後、高台付 色調 7.5 YR8/4 に近い褐色 胎土 約1~2mmの白色粒子を多量含む 赤色粒子・白粉を含む
Eき1	B-3	須恵 壺	-	(2.8)	(8.6)	底部、高台付粘	内外面) ヨコナデ 色調 5YR4/4 に近い褐色 胎土 白色粒子・砂粒を含む 赤色粒子・白粉を含む
F区	B-4	土師 环	(144)	3.6	(7.2)	やや丸形をもった底から内寄気時に 立ち上がる。	内外面) 黒色地巻、口辺部は裏段のヘラ ミガキ、外部は不規則なヘラミガキ 外側) 黑色地巻、不規則なヘラミガキ 色調 7.5 YR4/4 褐色 胎土 白色粒子・赤色粒子を多 量含む
Dか5	B-5	土師 环	10.7	4.0	4.7	口辺部は内凹して立ち上がる。底部 内面中央部は状況を見る。器形は涅 みが大切、口縁部は円形。	内外面) ヨコナデ 色調 7.5 YR6/4 に近い褐色 胎土 白色粒子を多量含む 長石を含む、擦磨されている
F区	B-6	土師 环	(144)	(7.2)	-	口辺部は内寄気時に立ち上がり、口 縁部はやや外反する。	内外面) 黑色地巻、口辺部は裏段のヘラ ミガキ、外部は不規則なヘラミガキ 外側) 同軸部コナデ 腹段ナデ 色調 7.5 YR6/4 に近い褐色 胎土 白色粒子・白色粒子を多量 含む
F区	B-7	土師 环	(164)	(4.4)	--	口辺部は内寄気時に立ち上がり、口 縁部はやや外反する。	内外面) 黑色地巻、口辺部は裏段のヘラ ミガキ、外部は不規則なヘラミガキ 外側) ヨコナデ 色調 7.5 YR7/6 褐色 胎土 白色粒子を多量含む、黑色粒子・ 長石を含む、擦磨されている
Dく4	B-8	須恵 环	(140)	(3.2)	-	口辺部はやや内凹して立ち上がり、口 縁部はやや外反する。	内外面) ヨコナデ 色調 2.5 Y5/2 暗灰黄色 胎土 白色粒子・長石を多量 含む
Dく5	B-9	土師 环	-	(3.6)	(6.6)	底部	内外面) ヘラミガキ 外側) 体部コナデ、底部ヘラ切 り 色調 5YR5/4 に近い褐色 胎土 約1~2mmの白色粒子を多量含 む、砂粒が混入
Eえ4	B-10	須恵 壺	(184)	(1.1)	-	口縁部	内外面) ヨコナデ 色調 5Y1/3 黒オーブ色 胎土 極小の白色粒子を多量 含む
Dく4	B-11	須恵 壺	(194)	(0.7)	-	口縁部	内外面) ヨコナデ 色調 2.5 Y4/2 暗灰黄色 胎土 極小の白色粒子を含む
表 採	B-12	内耳 土器	(374)	14.7	(336)	体部は直立して、口縫部はやや外反 する。	内外面) ナデ 色調 5YR5/6 明赤褐色 胎土 極小の白色粒子・砂粒を 多量含む、よく擦磨され ている
Eこ6	B-13	常滑 壺	-	(5.5)	-	折れ返しによる口縫部があり、口縫部 は尖張が廻る。	内外面) ヨコナデ

グリッド番号	博物館番号	器種	銘名(字体)	初鑄年(西暦)	時代	直径	重量	款方	備考
C う6	新川	古鏡	元春通寶 (真行)	神宗元豐元年 (1078)	北宋	2.5	3.0	刻	
		材質	長さ	幅	厚さ	重最			備考
F あ1	新川	砥石	流紋岩	<4.2>	2.4	1.4	27.2		使用面数4面
E う3	新川	小刀	鉄	4.0	2.1	0.6	6.9		
E え1	新川	角劍	鉄	3.6	0.85	0.7	2.0		
B こ8	新川	刀子	鉄	<4.5>	2.2	0.2	6.4		両端部欠損
B あ6	新川	曲劍丸	鉄	<6.5>	9.5	1.9	79.8		
表 孫	新川	不銹	鉄	2.9	1.9	0.7	6.3		
C う6	新川	碁石状 石頭品	チャート	1.7	0.9	0.6	2.0		丁寧に彫形され、研磨されている。 表面は光沢をもつ。 白碁石と思われる。
B こ8	新川	碁石状 石頭品	安山岩	1.6	1.4	0.4	1.4		丁寧に彫形され、研磨されている。 表面は光沢をもつ。 黑碁石と思われる。
		法 寸	高 径	文 様					備考
B か9	新川	縹文 深鉢	—	<4.8>	—	隆背・拂狀莊前			色調 2.5YR4/6 赤褐色 胎土 石英・長石・金雲母を含む 中期中層
B け16	新川	縹文 深鉢	—	<4.8>	—	沈縞・縹文			色調 2.5YR4/6 赤褐色 胎土 金雲母・長石・石英を含む 中期初期
B け16	新川	縹文 深鉢	—	<3.6>	—	区画幾帳・沈縞・波状沈縞			色調 5YR4/6 赤褐色 胎土 #2~3mmの白色粒子・金雲母・ 中期中層 石英・長石を含む
B け16	新川	縹文 深鉢	—	<4.0>	—	沈縞・縹文			色調 2.5YR4/6 赤褐色 胎土 金雲母・石英・長石を含む 中期初期
		材質	長さ	幅	厚さ	重最			備考
B う8	1	打製 石斧	輝石安山岩	9.2	5.6	2.0	123.9		
B け11	2	打製 石斧	輝石安山岩	8.4	5.1	1.7	74.0		

第V章 調査のまとめ

第1節 調査結果からみた池端城跡

今回調査を実施した地点は、「佐久市遺跡詳細分布調査報告書」では〈池端城跡〉と称され、「佐久市志（中世編）－佐久市域の城館跡－」では〈池端城跡（館、平城）〉と一覧されている所である。また、当地点は本遺跡に連続して権現平遺跡・池端遺跡が所在する地籍でもある。

平成6年本遺跡、及び隣接する地籍が開発されることとなり、同時に先ず権現平遺跡・池端遺跡が翌7年に「池端城跡」の調査が行われた（付図）。調査に先立ち此の地に伝承として伝わる池端城跡が実際にどのような性格をもっていたのかが注意された遺跡であった。

尚、権現平遺跡・池端遺跡（付図）は、試掘調査の結果造成により遺構の破壊が予想される掘削部、及び、道路部分の調査のみで他は盛土として保存されることとなった。

両遺跡からは下記に示した遺構が検出され、縄文時代～中世に至る複合遺跡であった。

〈池端城跡〉

堅穴住居址	6棟	堅穴建物址	56棟	井戸 坂	1基
縄文時代中期初頭（1棟）		土 坑	28基	溝 坂	1条
古墳時代前期（2棟）平安時代（3棟）		溝状遺構	5条	ピット群	

〈権現平遺跡・池端遺跡〉

堅穴住居址	23棟	堅穴建物址	12棟	溝	2条
縄文時代（8棟）平安時代（7棟）		掘立柱建物址	1棟	井戸跡	2基
古墳時代（8棟）		土 坑	48基		

このような調査結果をみると両遺跡とも中世の堅穴建物址・井戸・溝状遺構などが検出されており、本遺跡、及び、権現平遺跡・池端遺跡の調査範囲内には15世紀～16世紀代（伴出遺物の相対年代から）の中世遺構が展開していた様子が窺われる。そして、これらの遺構の中で両遺跡から検出された堅穴建物址の規模及び形態の違い、更に、掘立柱建物址、堀などのあり方から、本遺跡が池端「城跡」として存在した遺跡であったのかを探ってみたい。

① 先ず「堀」・「郭」の有無であるが、前述したように本遺跡の調査の前年、権現平遺跡・池端遺跡（付図）の調査が行なわれた。この際付図に示したトレント調査の結果、当遺跡内からには池端城跡に関係すると思われる堀・郭等の遺構は確認されず、更には今回調査を行った池端城跡からもこうした遺構を感知することはできなかった。従って本池端城跡が城郭的な背景を持つ遺跡であるとするならば一般的に堀・郭等の存在が意義のあるであろうが、両遺跡からこの種の遺構が検出されなかつた点で、はたして池端「城跡」であったかが疑問視される。

② 次に本遺跡内から出土した中世遺物を見ると、土師質土器小皿、土師質内耳土器、そして陶磁器類が主に出上している。しかし、大井城跡、金井城跡他の「城跡」から出土した陶磁器類の出土量に比べると、本調査区からは常滑系鏡片11点、陶器片8点、時代不明陶器類7点と少なく、また土師質土器類も極めて少ない傾向が窺われる。更に、城郭址等の遺跡から比較的多く出土する茶臼、石擂鉢類は1点も確認されなかった。これら青磁・白磁、そして、茶白類は一般的には至高品として扱われるむきがあり、城館跡を主として検出される例が多いようである。よって出土遺物の質的、量的な面からも本遺跡が「城跡」として位置付けられるのは困難であるかと思われる。

③ また掘立柱建物址の検出状況をみると、池端城跡においては1棟も検出されていない掘立柱建物址が、権現平遺跡・池端遺跡からは、2間×2間の純柱建物址が検出されている点が注目される。

この掘立柱建物址と堅穴建物址の関係については、特に東北地方で多くみられる傾向が報告され、堅穴建物址は掘立柱建物址の周辺に存在するようである。例えば青森県浪岡城跡、岩手県丸子館遺跡などの堅穴建物址はこの例と近似する傾向があり、佐久市大井城（黒岩城跡）の調査においても、同様な点があり得ると報告されている。また、鎌倉市今小路遺跡の例では、権で区画された屋敷内に掘立柱建物址があり、権外には堅穴建物址があつて、それらを庶民の居住区としている。このように城館的な背景をもつ調査報告によると、掘立柱建物址と堅穴建物址は、相互関係をもつかのように検出されることを指摘している。そして、こうした形態をもつことの意味、性格については諸説あるが、一考として掘立柱建物址の居住者に対する階級的な差異者の住居が、堅穴建物址であるとする説もある。この点から本池端城跡をみると、皆無である掘立柱建物の背景からは本遺跡が「城跡」として存在したのか疑問が残るところである。

④ では調査の結果から本池端城跡がどのような性格をもった遺跡であったのかを探ってみたい。先ず、検出された遺構の中で注目されるのは、本池端城跡と権現平遺跡・池端遺跡から検出された堅穴建物址とでは規模的・形態的な差異が認められる点である。この点を中心に池端城跡の断片的な位置付けを行ってみたい。

池端城跡堅穴建物址

10m以上	なし	権現平遺跡・池端遺跡堅穴建物址
5 m内外	なし	2棟 (Ta9・形態不明18m) (Ta10・形態不明11m)
4 m内外	1棟 (Ta1・円形)	3棟 (Ta2・長方形) (Ta5・方形) (Ta8・長方形)
3 m内外	6棟 (Ta9・円形) (Ta25・長方形)	3棟 (Ta4・方形) (Ta6・方形) (Ta7・長方形)
	(Ta34・梢円形) 外3棟	2棟 (Ta1・長方形) (Ta3・方形)
2 m・1 m内外	49棟 (Ta2・不整方形)	2棟 (Ta11・方形) (Ta12・方形)
	(Ta14・長方形) (Ta36・梢円形) 外46棟	

以上のように池端城跡から検出された堅穴建物址は56棟あり、その形状は長方形が最も多く、次いで方形、不整方形、梢円、張り出し型の順となりバラエティーである。一方の権現平遺跡・池端遺跡は、方形と長方形の2形態のみで他の形狀のものは検出されていない。

次に規模をみると両遺跡では極端な相違が認められる。池端城跡内からは、一辺が4mを越す規模のものはTa1号址ただ1棟のみで、次いで3m内外が6棟、2m・1m内外のものが49棟検出されている。このことから本遺跡内の堅穴建物址は総じて小規模なもののが群在していた様子が窺われる。一方の権現平遺跡・池端遺跡においては、12棟が確認され、その中でTa9号が最大規模となり、残存する北壁の規模は18mを測る。本址の南側は調査区外となり、全貌は明らかではないがおそらく一辺が18mを測る規模のものは佐久平では初例であろう。本址の床面は堅くしまっており、北壁に沿って人頭大の石が多量に確認され、その脇には並走するピットが10個確認されている。そして、このTa9号の東側約5mに位置するTa10号も規模は大きく、残存する北壁部は11mを測り、形態もTa9号と同様に北壁に沿って石が認められ、ピットが巡らすように掘り込まれている。他の9棟も比較的大形といえ、5m内外を測るものが3棟、4m内外のものが3棟で、2m・1m内外のものはわずかに2棟のみである。

また、権現平遺跡・池端遺跡の北約100mの地点には、昭和61年に調査を行なった下川原・光明寺遺跡が所在する。この調査の際に長軸10.32m、短軸9.52mを測る大形の堅穴建物址が検出された。本遺構の形態は権現平遺跡・池端遺跡で検出されたTa9・Ta10号と同様に堅壁な床面、そして、壁に沿って配されるピットなど近似する点が認められる。出土遺物は上師質土器小皿9点、青白磁四耳壺、白磁碗などが出土した。

このように、池端城跡の北側に連続して所在する権現平遺跡・池端遺跡、さらに、その周辺遺跡の下川原・光明寺遺跡から検出された堅穴建物址は、極めて大形の規模を呈するものが多いことが窺われる。これに対し本池端城跡内からは、その8割が約2m内外の小規模な堅穴建物址であり、検出状況は平坦な台地面から傾斜地となる狭い斜面上に構築されている。

こうした点から推測されることは、本遺跡の北側に連続する地には屋敷、若しくは、館的な建物址の存在が想定されることである。すなわち①、②、③のあり方などを踏まえた中で池端城跡の堅穴建物址を想像すると、北側の権現平遺跡・池端遺跡から検出された「屋敷的」な建物址に連続する庶民の集落址である可能性が推察されるのである。因みに、佐久平におけるこうした中世集落址としては、御代田町の野火付遺跡、佐久市の前田遺跡などが同様な形態を示す遺跡として推考される。

以上調査結果を断片的にまとめたが、今後堅穴建物址の用途、性格などの詳しい報告の増加、更には文献資料の検出などから、池端城跡についての結論を導かねばなるまい。

引用参考文献

- 佐久市教育委員会『大吉城跡（黒岩城跡）』（1986）
佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財センター『金井塙跡』（1990）
御代田町教育委員会『野火付遺跡』（1985）
佐久市教育委員会『前田遺跡』（1988）
佐久市埋蔵文化財センター『笛上岸數・下川原・光明寺遺跡』（1987）
佐久市志刊行会『佐久市志（歴史編一、中巻）』（平成5年）
碓氷市今小路遺跡調査団『今小路遺跡』（1986）
浪岡町教育委員会『浪岡城跡』（1983）
北上市教育委員会『丸了御跡発掘調査報告書』[北]市立博物館研究報告第4号
鶴瓶俊大『長野県の中世豪族遺跡について』『長野県考古学会誌50号』（1986）

第2節 古墳時代前期の出土土器

池端城跡からは、佐久平において稀少な資料である古墳時代前期の堅穴住居址2棟と、少量ではあるが当該期の遺物が検出されている。そこでこれらの遺構より出土した土器の位置付けを行ってみたい。出土器種はカメ・S字状口縁台付カメ（以下S字カメと言う。）小型器台・小型高坏・小型丸底壺・小型鉢が出土している。

先ずカメは1号住居址より出土している。特徴は在地弥生土器の特徴であるクシガキがすでにみられず、刷毛目とミガキによる調整が施されている。また器形も最大径が胴部上半にあり、弥生後半箱清水期の土器様相は全くみられない。S字カメは1・2・4号住居址、ピットから1点ずつ出土している（4号住居址、ピットのものは混入遺物と思われる）。いずれも全容を把握できるものではないが、2号住居址出土のS字カメは口縁部から胴部上半と脚部上半が残存する。これら資料は口縁部の形態や内面調整の特徴から赤堀編年のC類に相当すると考えられるが、いずれも在地席の土器と考えられるため、濃尾平野から伊勢湾沿岸を中心とする編年をそのまま採用する危険性は認めなければならないであろう。現に北関東や山梨県におけるS字カメの研究成果では、「在地化したS字カメにおいて必ずしも赤堀編年の同一変化を追えない」等の研究もなされており今回の当遺跡における出土資料も再度の慎重な評価が必要と思われる。次に1号住居址出土の小型器台は坏部外側がナデ・脚上部と坏内面のみミガキが施されている。脚部は欠損しているため全容は不明であるが、佐久市今井西原遺跡出土のものと形態は似るようである。小型高坏は坏部のみの破片資料であるが、赤色塗彩が施されている。当器種は御代田町塙田遺跡、佐久市宿上屋敷遺跡などで出土例が報告されている。最後に小型丸底壺は2号住居址より2形態のものが出土している。11-2は丁寧なミガキがあり赤色塗彩が施されている。11-3はナデと刷毛目が残る。形態は胴部がいずれも口縁径よりも小さく11-3は佐久市腰巻遺跡出土のものによく似る。

以上、池端城跡出土の古墳時代前期の土器資料を概観したが、住居址一括資料としての器種・数量はきわめて少なく、当該期の土器資料全体を把握するまでには到底至れない。しかし、あえて今回の出土資料の時期的な位置づけを行うとすれば、弥生以来の箱清水期の土器様相がほぼ姿を消し、外来系土器として捉えられる小型丸底壺・小型器台などの小型精製土器群の成立、S字カメの在地化などの点から、花岡編年の第Ⅱ期、宇賀神編年のⅡ期古～新段階に相当すると考えられる。

引用参考文献

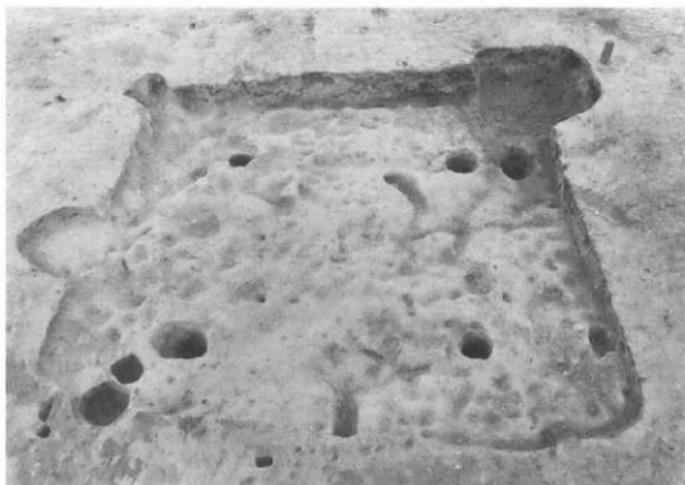
- 赤堀 次郎 1986 「S字甕発見」 85 財団法人愛知県埋蔵文化財センター『年報』 昭和60年度
小林 健二 1991 「甲府盆地におけるS字甕の定着について」『古文化談叢 第26集』
友廣 哲也 1994 「北関東の古墳時代文化の受容」『古代』 平成6年9月
宇賀神誠司 1990 「長野県における古墳時代前期の地域的動向」『長野県埋蔵文化財センター紀要2』
花岡 弘 1991 「土師器の編年 6 中部高地」『古墳時代の研究6 土師器と須恵器』

図 版





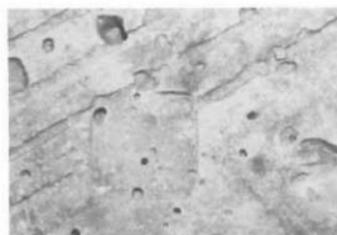
1. H 1号住居址（南西より）



2. H 1号住居址 掘り方（南西より）



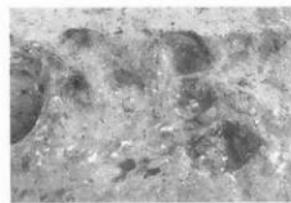
1. H 2号住居址（南西より）



2. H 4号住居址（上空より）



3. H 4号住居址カマド



4. H 4号住居址カマド掘り方



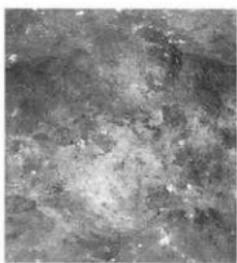
5. 池端城跡発掘調査風景



1. H 5号住居址（北より）



2. H 5号住居址カマド



3. H 5号住居址カマド掘り方

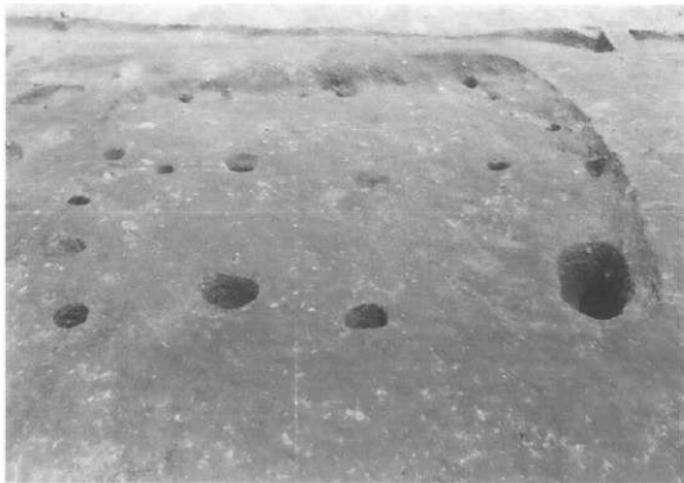


1. H 6号住居址（北より）



2. 池端城跡発掘調査スナップ

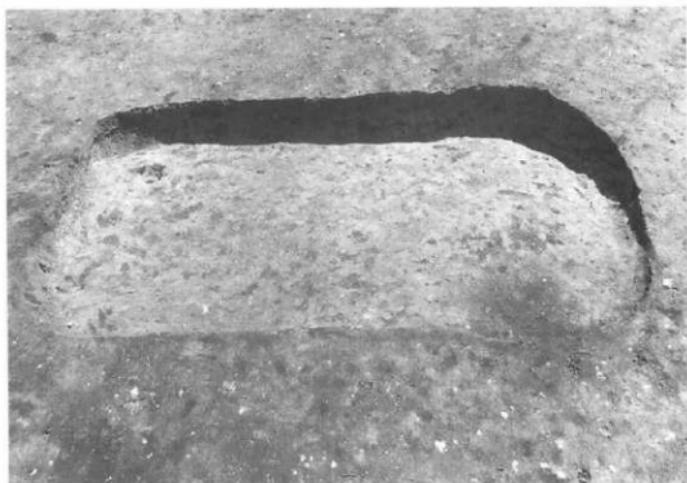
図版
五



1. Ta1号竪穴建物址（南より）



2. Ta2号竪穴建物址（南より）



1. Ta6号竪穴建物址（南東より）



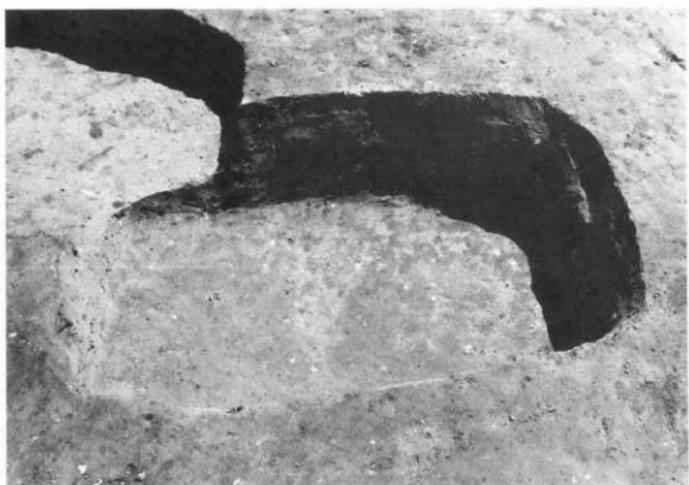
2. Ta7号竪穴建物址（南より）



1. Ta8号竖穴建物址 (南より)



2. Ta9号竖穴建物址 (南より)



1. Ta 10号堅穴建物址（西より）



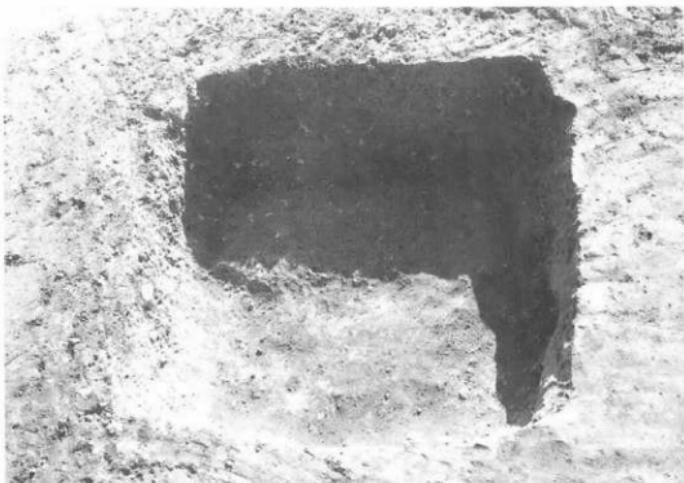
2. Ta 12号堅穴建物址（北東より）



1. Ta13号竪穴建物址（南より）



2. Ta14号竪穴建物址（北東より）



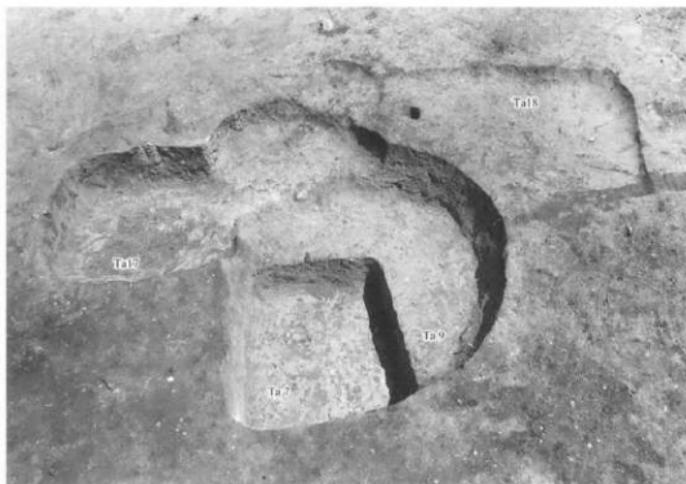
1. Ta15号竪穴建物址（西より）



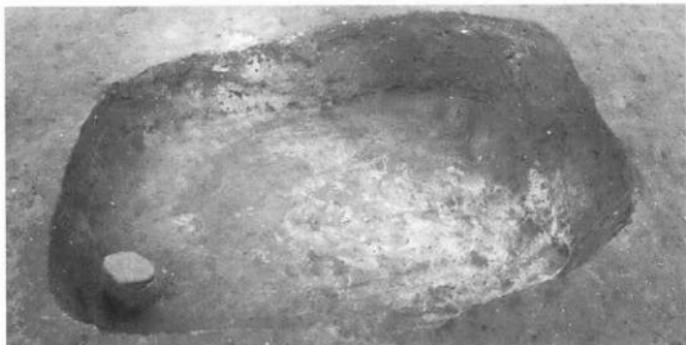
2. Ta17号竪穴建物址（南西より）



1. Ta18号堅穴建物址（南西より）



2. Ta19号堅穴建物址（南西より）



1. Ta21号竖穴建物址 (東より)



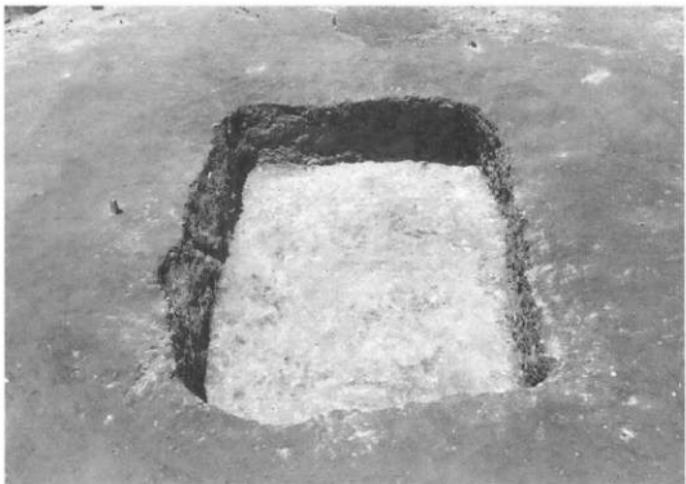
2. Ta21号竖穴建物址出土銭貨



3. 池端城跡発掘調査スナップ



4. Ta23号竖穴建物址 (南東より)



1. Ta 25号堅穴建物址（北東）



2. Ta 26号堅穴建物址（南西より）



1. Ta 27号竖穴建物址 (南西より)



2. Ta 28号竖穴建物址 (南より)



1. Ta30号竪穴建物址（南西より）



2. Ta31号竪穴建物址（北より）



1. Ta32号堅穴建物址（北より）



2. Ta33号堅穴建物址（北西より）



1. Ta36号竪穴建物址（南より）



2. Ta37号竪穴建物址（東より）



1. Ta38号竖穴建物址（北東より）



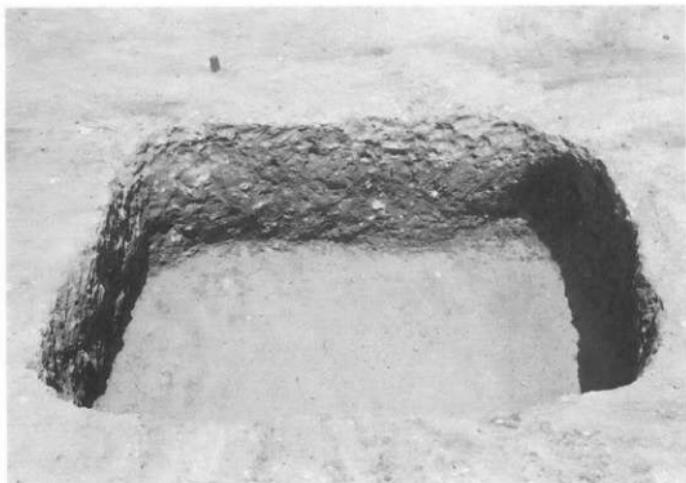
2. Ta40号竖穴建物址（東より）



1. Ta42号竪穴建物址（南より）



2. Ta43号竪穴建物址（北より）



1. Ta44号豊穴建物址（南東より）



2. Ta45号豊穴建物址（西より）



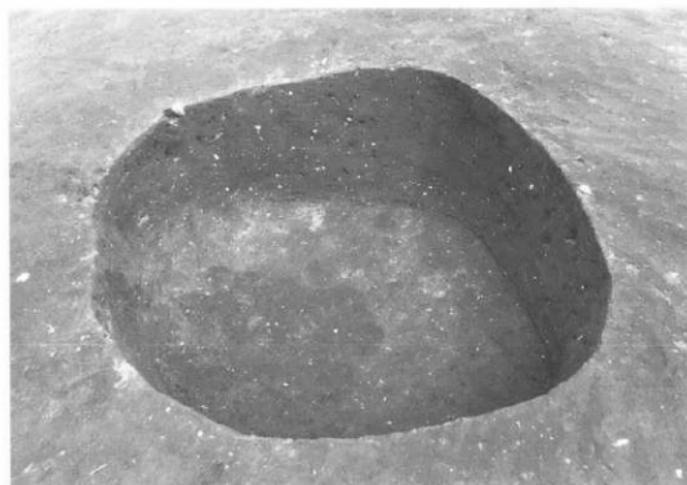
1. Ta46号竪穴建物址（北より）



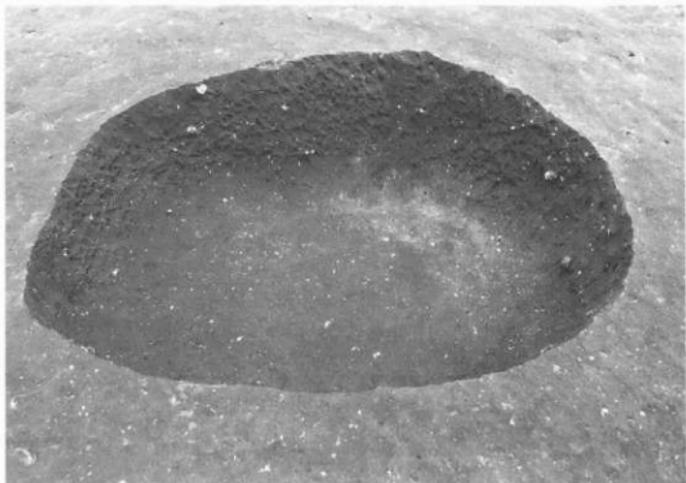
2. Ta48号竪穴建物址（北東より）



1. Ta49号堅穴建物址（南西より）



2. Ta51号堅穴建物址（南より）



1. Ta52号竪穴建物址（南西より）



2. Ta54号竪穴建物址（北東より）



1. Ta55号堅穴建物址（北西より）



2. Ta8号、Ta10号堅穴建物址付近景（北より）



1. D 1 号土坑



2. D 1 号土坑 遗物出土状况



1. D 2号土坑



2. D 2号土坑 遺物出土状況



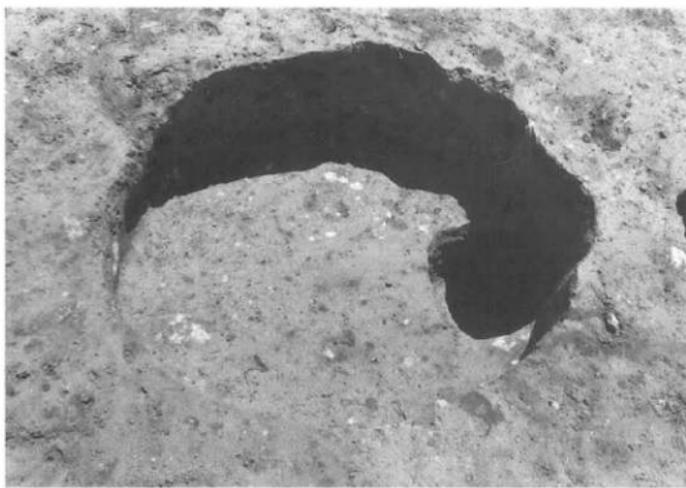
1. D 4 号土坑



2. D 5 号土坑



1. D 7号土坑



2. D 10号土坑



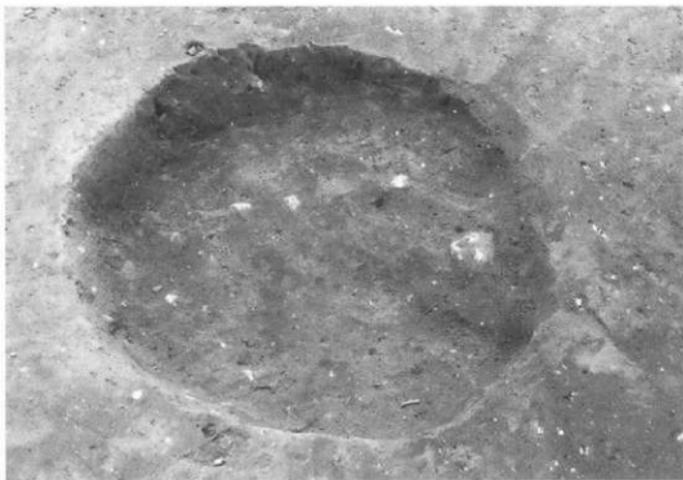
1. D 11号土坑



2. D 13号土坑



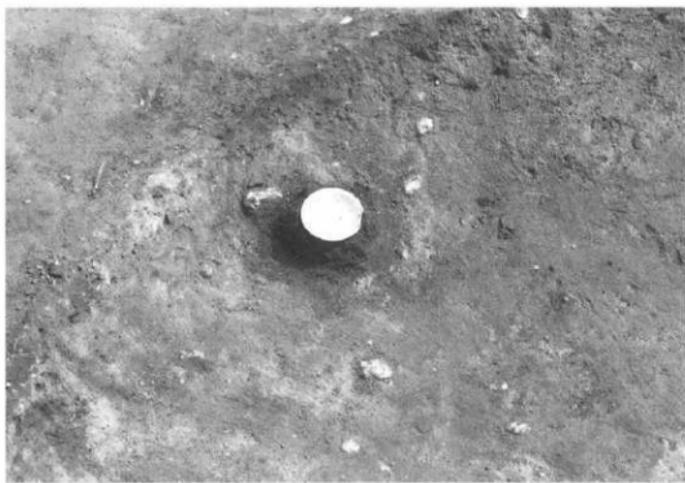
1. D19 号土坑



2. D20 号土坑



1. D24号土坑



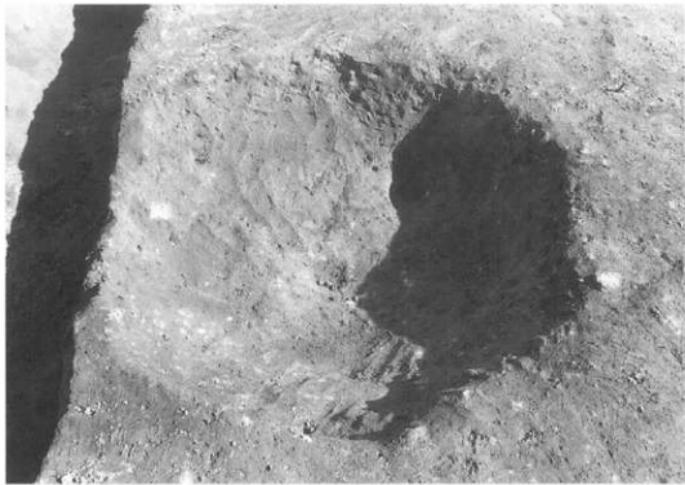
2. D24号土坑 遗物出土状况



1. D26 号土坑



2. D26 号土坑



1. D 26号土坑 掘り方



2. 池端城跡発掘溝査スナップ



1. D27号土坑



2. D27号土坑 掘り方



1. D28号土坑



2. D28号土坑 掘り方



1. 1号井戸址



2. 1号井戸址 掘り方



1. P 48号ビット 遺物出土状況



2. P 85号ビット



1. 第1号溝状造構（南西より）



1. 第2号溝状遺構（北より）



2. 池端城跡発掘調査風景